

学校教育における外部人材活用事業

報告書

令和6年3月

株式会社 日テレ アックスオン



目次

- 0. 本事業の概要・実施体制・・・3
- 1. 入職アーティストの抽出・・・5
- 2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証・・・7
- 3. 船橋市立金杉台小学校での実証・・・21
- 4. 過去の特別免許授与者への調査(アーティスト枠)・・・36
- 5. 各種調査のまとめと提言・・・43
- 6. 外部への情報発信について・・・46
- 別紙 パスコ社による調査業務報告書・・・47

0. 本事業の概要

事業背景

令和2年度から始まった新しい学習指導要領では、学校教育を学校内に閉じずに、社会と共有・連携しながら実現していく「社会に開かれた教育課程」が掲げられている。この実現に向けた学校と社会との連携・協働のあり方の一つとして、多様な専門性を有する外部人材を学校現場で活用することがあげられた。

目的



多様な経験を有する外部人材のうち、アーティスト人材を学校現場で積極的に活用するため、外部人材と学校現場をマッチングし、将来的に特別免許状等の取得により教員として入職を目指すことを前提とした講習・研修を研究し一体的な支援体制実現の可能性と将来に向けて外部人材が正規教員として入職することによる学校現場の変化への期待に関する実証研究。

事業実施内容

- ・教職希望アーティストの抽出
- ・実証校とのマッチング
- ・事前研修・講習の実施
- ・実証校教師と共同での授業設計
- ・実証授業の実施及び検証
- ・アーティスト分野における過去の特別免許状授与者への調査
- ・事業実施に伴う各種調査と課題の抽出と今後に向けた提言

実施結果

授業アンケートから実証授業を受講した児童・生徒側からは9割以上が好意的な反応がある一方、教員側では授業そのものは好評価であるが、自分の担当教科での外部人材の活用に関しては、一部でネガティブな考えもある。その理由として、自力で外部人材との調整や手続きをするのが負担とを感じるためだ。このため教育現場の負担を軽減する目的でのアーティスト人材のリスト化や授業設計、スケジュール調整などを行える授業コーディネーターの存在は不可欠であることが確認された。

学校側が求めるのはトップレベルの外部人材であるが、秀でた才能を持つトップレベルのアーティスト人材は教育に関わることは前向きでも特別免許等を取得しての学校現場への常勤での入職にはためらいがあった。

今後に向けて

アーティスト人材の教員としての入職拡大に向けて、アーティスト見習い世代(若手)に対する教育への様々な参入機会を提供すると共にトップレベルのアーティスト人材側にも引き続き教育活動への積極的な参加を促していく必要があると考える。

また、学校現場とアーティスト人材を双方の負担を抑えていくためにアーティスト人材のリスト化やコーディネーター人材の育成及びそれらを取りまとめる機関を作っていく必要があると考える。

0. 本事業の実施体制

今年度受託した調査研究事業では限られた時間内で、速やかにすべての事業計画を遂行するための体制を下記の通り構築した。

主契約者	株式会社日テレ アックスオン 受託事業主契約機関、アーティスト人材の発掘及びマッチング、実証授業実施の際のサポート、各種調査、文科省への報告・調整 主担当:土屋光敏 事業プロデューサー
事前研修担当	埼玉県立総合教育センター(再委託) 外部人材への事前研修計画の開発及び研修の実施 主担当:小泉 学 教育主幹
	国立大学法人千葉大学教育学部 外部人材への事前研修計画の開発及び研修の実施 担当:藤川大祐 教育学部長
実証授業協力校	埼玉県川口市立高等学校・附属中学校 外部人材のリクエスト、外部人材と担当教員との授業計画作成、実証授業の実施及び授業後の調査協力 実証授業窓口:藤井春彦 アドバイザー
	千葉県船橋市立金杉台小学校 外部人材のリクエスト、外部人材と担当教員との授業計画作成、実証授業の実施及び授業後の調査協力 実証授業窓口:竹森正人 学校長
調査研究担当	株式会社パスコ(再委託) 外部人材の学校教育現場での活用状況や実証授業後の課題調査のためのアンケート、インタビュー調査原案作成・集計及び分析 主担当:堀越秀彦 取締役 社会環境研究室長
	お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 外部人材の学校教育現場での活用に関するアンケート調査及びインタビュー結果に基づき、本研究事業の提言をとりまとめる 担当:千葉和義 教授 植竹紀子 特任講師

※当初計画の実証授業校3校のうち、神奈川県横須賀市立岩戸小学校は、マッチング段階で授業日程の調整ができず、不成立(中止)となった。

1. 入職アーティストの抽出

今年度受託した調査研究事業では限られた時間内で、実証校側にて確実に授業が行える人材を確保するため、弊社全社員をアーティスト人材(クリエイター)とみなして、入職対象者に加える一方、弊社業務の関係で繋がりを持ったアーティストや多くのアーティスト人材を抱えるグループ会社などの活用を検討した。

社内から

社員全員がクリエイターである弊社の社員(757名)を対象に11/13~12/1までの間に「学校で授業をしてみませんか」アンケート形式で募集を行った結果、今回の実証授業に参加可能と回答した社員を抽出し69名分をマッチングリスト登録した。

社外から

上記社内アンケートで授業に参加はしないが、業務の関係で知り得た教育に関心を持つアーティスト人材の紹介が出来る者をピックアップした。
同時に芸能部門を持つグループ会社(日テレイベント)に予め教育に関心のある、アナウンサー及び歌手、俳優などのリストアップを事前に依頼した。

社内アンケート項目

- 1.あなたの専門スキルを詳しく教えてください。
- 2.あなたの専門スキルを活かすとしたらどんな授業を行いますか？
- 3.あなたは教員免許状を持っていますか？(持っている場合は校種・教科も記述)
- 4.文部科学省から受託した事業では実際に公立小中高校での授業を考えておりますが、あなたの専門スキルを活かした授業を行ってみたいですか？

次に上記回答4.で「やってみたい」「まだわからない」と回答した73名を2.の回答別に大まかな分類を行って検証した。

授業内容	人数
番組制作に関するもの(情報、スポーツ、ドラマ、企画書など)	27
制作技術に関わるもの(撮影、編集など)	8
取材に関するもの(報道、インタビューなど)	9
その他(プレゼン、VR映像、障害者向け技術、権利処理、通販など)	25
未記述	4

想定通り番組制作に関する授業提案が多数を占める中、VR技術を使ったものや、字幕、音声など障害者向け技術や映像の権利処理など多様な専門スキルを持つ社員が授業を行ってみたいと希望していることがわかった。
この結果、未記述4名を除く69名分をマッチングリストに登録し、実証授業協力校へ提供することとした。(提供形態は次頁参照)

1. 入職アーティストの抽出

実証授業校に提示した弊社クリエイタ授業例

項目	内容
取材の体験や各種映像制作の授業	取材現場の「実情」や「魅力」「やり甲斐」を伝え「将来テレビで働きたい」。取材現場で働きたいと思う生徒を増やすような授業を行いたい。例えば取材者の立場から大災害はどういうものだったのか？メディアでは何が起きていたのか？を伝えたい。映像の特性を理解した上で何をどう撮るか、映像を発信するということはどういう意味があるのか？何が大切なのか？を知ってもらえるような授業。どんな「構成・画作り・ナレーション」が必要なのかを肌で感じる。自分の伝えたいことを相手に正しく正確に伝えるにはどうしたらいいのか。各自のスマホで撮影してもらい、映像ショートコンテンツの編集・作成。After effectsを使った映像加工の授業も可能。「チームでなにか作ってみよう」の授業として、ある地域を紹介する旅動画制作実習。最近気になることを追うドキュメンタリー制作実習や自分たちが伝えたいことを動画コンテンツにする制作実習など。自分たちのクラスで起こった「ニュース」を1分間の映像にして情報をSNSで発信してみたり、自分たちが気になることをテーマに映像制作してみるなど
最先端の映像技術を使った授業	VR映像で距離を超えた「どこでもドア」体験をしよう。VR空間内でアプリを使った絵画の事業を行い空間認識能力の向上と今後スタンダードになる描画ツールの習得を行う。
アナウンサー等によるプレゼンの授業	人前で話すこと。人や地域、学校などについて取材して、発表すること。本を読み合わせすること。
映像を創る仕組みや企画書の作成	企画立案から、VTRが完成するまでどんな事をしているか？制作会社の請け負う業務の解説、プロデュース、マネージメント術。どのようなスタッフがどんな役割をして番組が放送されているかなど、現場の立場でテレビ番組の実際を伝える。国語と番組制作の関係を生かした授業ではナレーション、テロップなど、番組制作においても、一言ナレーションを変えただけでガラッと印象が変わることなど。企画書としては、その人の名刺代わりになるような「人生が面白くなる企画書」として「文化祭の出し物の企画書」「親にプレゼントしたい、より楽しい家族になるための企画書」「友だちの素晴らしさをアピールする企画書」など様々な「思い」を企画書にしてみよう！という授業。
俳優・声優などによる表現力の授業	演劇的ワークショップ（自己表現、コミュニケーション）など。脚本の具現化、同じシナリオからさまざまなインスピレーションを受けている、俳優、技術、美術、など立場と視点の違う人たちの集合体である「撮影現場」、その進め方、問題解決などをシミュレーションする。

実証授業校に提供したマッチングリスト(一部抜粋)

ID	名前	あなたの専門スキルを詳しく教えてください	あなたの専門スキルを活かすとしたらどんな授業を行いますか?	免許
19	男性管理職	・情報番組、ニュース番組の制作 ・取材、編集とは ・生放送の仕組みとは	マスメディア/学のような学問ではなく実際の現場でどのように制作されているか	ない
20	男性管理職	①情報撮影とアーカイブ ②短歌	①映像の特性を知る、特性を理解した上で何をどう撮るか、構図、構成 ②実作、歌会(作品の相互批評)、歌合せ(紅白に分かれて対戦)	ない
24	女性中堅	番組制作 テレビ番組・芸能史 プロデューサー業(チーム作り)	「番組作りの裏側」の授業 「チームでなにか作ってみよう」の授業 「テレビ・芸能日本史」の授業	ない
34	女性若手	解説放送(音声ガイド制作)	音声ガイド制作のワークショップ ※今年10月に、筑波技術大学の視覚の学生にワークショップを行いました。	ない
36	女性管理職	現状の業務は制作部のプロデューサー、番組制作歴22年。 大学では日本文学専攻で、中学・高校で国語を教えられる教員免許を持っています。	国語と番組制作の関係を生かした授業とか。？ ナレーション、テロップなど、番組制作においても国語力が生かせる場面は多々あります。 一言ナレーションを変えただけでガラッと印象が変わる、演習授業に気付けるかどうか。など、ワークショップ形式やクイズ形式などで授業が組み立てられる気がします。	ある
48	男性中堅	実写VR映像のプロデュース、ディレクション、撮影、編集、VR教材のコンサルタント。	VR映像で距離を超えた「どこでもドア」体験をしよう。 VR空間内でアプリを使った絵画の事業を行い空間認識能力の向上と今後スタンダードになる描画ツールの習得を行う。	ない
50	女性中堅	契約レビュー、二次利用条件コンサル、知的財産権基礎研修など	一般的財産管理技能士資格を持っていますため、映像コンテンツに関する著作権講座ならできます。	ない
56	女性管理職	テレビ制作ディレクター、プロデューサー	番組の制作とはどんなものか？ 企画書の書き方から、番組の放送まで、以前、高校と、大学のマスコミ論で講演をしたことがあります。	ない

実証授業校に提示したアーティスト授業例

想定されるアーティスト人材による実証授業とは？(1. テレビ番組という視点から)

実証授業には職種教員のリストとアーティスト視点のマッチングにより決定します

取材の体験や各種映像制作の授業

最先端の映像技術を使った授業

知識伝達による実証授業

国語科の「話し方」や「聞き方」を学ぶ授業

VR映像を使ったアート体験など

制作現場のコネクションなど

アナウンサー等によるプレゼンの授業

俳優も見る仕組みや企画書の作成

俳優・声優などによる表現力の授業

わかりやすく伝えるためのプレゼン術

制作現場の中核的な役割

制作現場のさまざまな職種間の連携など

想定されるアーティスト人材による実証授業とは？(2. 幅広くアートという視点で)

実証授業には職種教員のリストとアーティスト視点のマッチングにより決定します

ディレクターによる制作力の授業

アートスタッフによる制作力の授業

業界による授業

制作現場の中核的な役割

パブリックスペースのアート体験

演習、実証を軸にした実践的な授業

伝統工芸職人による伝統工芸の授業

音楽家による授業

産業界による授業

制作現場の中核的な役割

制作現場の中核的な役割

制作現場の中核的な役割

良かった点

- ・教育に関心を持つ社内関係者が予想以上に多く、今後の事業成長に期待を持てた。
- ・学校側のリクエストに対応できる多才な人材を準備できた。

課題点

- ・即、入職(転職)可能な人材のリストアップまでには至らなかった。
- ・調査研究とはいえ社内、グループ会社関係など周辺のリストアップに止まった。

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証



川口市立高校・附属中学校

高校:平成30年に市立高校3校を再編・統合して設置された。文武両道に優れ、徳力を備えた地域社会のリーダーとなる人材を育成する。科学技術創造立国である我が国をリードする人材を育成する。
生徒数:1440名
中学:令和3年に開校。埼玉県で4番目の併設型の公立中高一貫教育校
生徒数:240名

実施日程概要

- 11/10 キックオフミーティング
- 11/13~ グループ会社の日テレイベント経由で日テレ局アナウンサーを中心に人選を始める
- 12/ 6 作成したマッチングリストを元に説明会を開催
日テレアクセスオンからのマッチングリスト(69名)を教員側に提示した結果、リスト中のVRアート授業に美術担当教員が興味を示し、美術の授業を中心に日程調整を開始
- 12/11 募集形式で放課後の特別授業という形で実施(1/15、26)が決定
受講生徒を12/22まで募集。学校側に**特別非常勤講師届提出依頼**
- 12/22 美術教員と外部講師(小原宏文氏)との顔合わせ。機材準備と授業案の摺合わせ等、情報共有実施。また美術教員側でのVR機材習得のための操作講習も並行して実施
- 1/11 川口市立高校でのVR機材設営及び事前リハーサル実施
附属中学校からアナウンサーによるプレゼン授業申し込み
日テレイベントよりアナウンサーの人選開始
- 1/12 埼玉県総合教育センターでの事前講習会開催
- 1/15 川口市立高校での実証授業①(202教室)
- 1/19 川口市立高校での受講者フォロー会(美術室)
- 1/26 川口市立高校での実証授業②(202教室)
- 2/ 9 フリーアナウンサー(千北英倫子氏)で講師確定し、
中学1年生を対象に授業実施(3/6)が決定
特別非常勤講師届提出を依頼
- 2/16 附属中教員と外部講師(千北氏)との顔合わせ。授業案と時間配分を細かく摺合わせ実施(オンライン)あとはメールでやり取り
- 3/ 6 川口市立高校附属中での実証授業(小ホール)

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

マッチング作業

実証授業を依頼した段階でアナウンサーによるプレゼンテーションの授業実施を希望していたためグループ会社の日テレイベントズ経由で教育に興味のあるアナウンサーを中心に人選を進めていた。一方でアックスオンからのマッチングリスト(69名)中にあったVRアート授業に美術教員が興味を示し、VRによる3次元アートとプレゼンテーションの授業を行う方向で調整を行った。

先行してVRアートの授業検討を進めた。当初は高校選択美術(4クラス)での実施を検討したが、3学期中に行わなければならないため、授業日程及びVR機材の確保が極めて困難なことから下記の様に放課後の特別講座(募集制)で2回実施することが確定した。

美術特別講座「VR技術による3次元アート制作体験」

講師:小原宏文氏(日テレアックスオン・クロステック事業部)

1/15(月) 15:50~16:50(202教室)第一回目(主に高2)

1/26(金) 15:50~16:50(202教室)第二回目(主に高2)

アナウンサーに関しては、当初想定していた教育に興味を持つ日テレ局アナとアナウンス部とのスケジュール調整に時間がかかり、結果的に見送りとなり、プレゼンテーション講師の選定が年明け後の2月初旬までずれこんでしまった。結果として同じく教育関係に関心の強かったフリーアナウンサーの方で下記の日時にて行うことが確定したが、間を開けて2回で開催することに学校側の日程確保が困難となったため、2コマ連続での実施となった。

総合的学習の時間「アナウンサーが実践するプレゼンテーション技術」

講師:千北英倫子氏(フリーアナウンサー)

3/6(水) 6時間目 7時間目 中学1年生全クラス(小ホール)

事前研修の実施

VRアートの授業日程確定(12/11)と同時に事前研修を担当する埼玉県立総合教育センターとの検討に入った。限られた日程の中で、学校で授業を行う経験のなかった外部人材が教壇に立つための最低限のスキルとして、座学を半日、ワークショップを半日の二日間の日程で想定したが、授業実施日(1/15)が迫る中、半日ずつの研修を1日にまとめて1/12(金)に実施することとなった。当初はプレゼンテーション授業の講師も一緒に受講する予定だったが、選定に時間がかかったため座学部分を録画視聴での研修に替えることとなった。

研修スケジュール

時程	内容
9:30~10:30	教師に求められているもの(60分)
10:35~11:05	技術・家庭科 情報モラル(30分)
11:00~12:00	情報 情報活用能力、学校におけるICT活用事例の紹介(60分)
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~16:30	模擬授業「VR技術を活用したVRアート体験授業(仮)」 授業づくりや方法について助言 授業教材に対する助言 演習に対する助言 (120分)

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

事前研修の実施

埼玉県立総合教育センターにて、1/12(金)に実施された研修内容は下記の通り

講義「教師に求められているもの」

講義「情報モラルとセキュリティー」

講義「情報活用能力」



模擬授業「VR技術を活用したVRアート体験授業」

授業づくりや方法について助言

授業教材に対する助言

演習に対する助言



※上記のうち、3講義は動画記録し、後日確定したアナウンサー講師が視聴

事前研修の感想

小原宏文氏(全プログラムを対面で受講)

前半の講義部分では、不登校問題など現状、学校が抱える多くの実情がわかり驚きもありました。後半の模擬授業では、今まで学校で授業を行う経験が無かったので、教員が生徒に対し何を伝えるかを教わることで、授業の進め方や声掛けをどのタイミングで行うかなどが、わかりとても役に立ちました。

千北英倫子氏(講義のみを録画ビデオで視聴)

自分の学生時代と比べて、学校教育の現場って変化が起きているのだということを知ることができたことは役立ちました。「教師の心構え」のメッセージで、前向きに学ぶことへの前向きなメッセージを伝えてほしいとおっしゃっていて、それで自分も教える中で、ポジティブに捉えてもらえるような言い方を意識できたかなと思います。今回のような講話に近い内容であれば、動画でも支障はなかったです。もちろん(VR授業のように)模擬授業を行う場合だったら対面で行った方がいいとは思いました。

良かった点

講義内容がしっかりと作られていれば、対面でも録画でも受講者には内容が伝わるのがわかった。

課題点

模擬授業に関しては対面と同等の効果をオンラインでも代替可能か検証する必要を感じた。

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

美術特別講座「VR技術による3次元アート制作体験」

講師:小原宏文氏(日テレアックスオン・クロステック事業部)



プロフィール

専門学校でCGを学んだ後、映像制作会社へ入社。以降、複数の映像制作会社を経て2016年のVR元年と呼ばれる一般消費者向けVRデバイスの発売と共にVR映像の制作に携わる。今回は仮想の3次元空間上で絵を描くことを高校生に体験してもらうことを提案。

企業向け講演などのプレゼンテーション経験は豊富だが、学校での授業は未経験。

授業設計作業

12/11に講師に決まった小原氏と川口市立高校美術教員との対面での顔合わせを12/22に行い作成した授業案(下記)に基づいて授業内容の摺合わせを行った。

実施日程は1/15と26の2回に分け、1回目の授業でVR機器及び3次元描画ソフトの操作方法を学んでもらい、2回目の授業までの間に作品を制作し発表をしてもらう内容だったが以下のことが課題となった。

- ・生徒を何名まで募集できるか？
- ・初回授業で操作方法を生徒が習得できない場合はどのようにフォローするのか？
- ・VR機材の調達、搬入、セッティング、撤収をどのように計画するのか？

また実際に203教室にVR機器をセッティングし、動作検証を行った結果、以下の問題点が判明した。

- ・学校のネットワーク環境のセキュリティーが厳しく、機材のセットアップに時間がかかる。
- ・3次元VR画像を操作者以外に共有して見せようとしてネットワークを経由させると動作遅延が生じた。このため、ケーブルを端末と直結する必要が生じた。
- ・生徒用タブレットは学校内での充電ができない仕様になっているため、放課後に使用しているとバッテリー切れを起こす可能性がある。

これらの問題を解決するため、VR端末を6台レンタルし、生徒は最大18名までを募集し(1端末3名まで)搬入日を事前研修前日の1/11とし搬出を2回目授業終了後に速やかに行うこととし、生徒が操作に困らない様、美術教員に事前に操作法をレクチャーし、それでもわからない時のため、追加で1/19にサポート日を設定して訪問することとなった。その他の必要機材は追加調達することとした。

授業内容 12/11案

HMD:ヘッドマウントディスプレイ

1/15	内容	time
1	講師チーム紹介HMD紹介	1min
2	VR動画体験(どこでもアート体験) 高画質の実写360度動画をHMDで視聴していただく。没入感と臨場感ある「体験」をしてもらいます。 コンテンツ:行楽地、水中、上空を予定	9min
3	VRアート制作体験(描画ツールの使用方法説明) HMDを装着しバーチャル空間内での描画制作に取組んでいただきます。描画ツールの時間となります。 1. 既存制作物の体験視聴 2. 描画ツールの使用方法説明(講師による説明) 3. グループでの描画実習(3名に1台のHMD) ※アート制作は1/25までの期間で行う。	40min
4	Q&A受付 講師が描画ツールへの質問などを受け付けます。 ここで不明点など解消して制作に取組んで下さい!	free

実質制作期間 1/16~25 1/26 AMより発表用の作業予定

1/26	内容	time
1	VRアート発表会 3Dプラットフォームに移行したそれぞれの作品を発表していただく。※通常のディスプレイで視聴。	30min
2	HMDでのVRアート視聴会 それぞれが制作したVRアートをHMDで視聴。制作物を目の前に体感しながら、制作者其々の技法やVR空間でのアプローチについて探求してもらう。	18min
3	終了のご挨拶	2min
4	HMDでのVRアート視聴会 時間の許す限り其々のアート作品を体験してください。	free

※各日の4は時間外ですので記載すべきかご検討ください。

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

美術特別講座「VR技術による3次元アート制作体験」

実証授業の実施

1/11 準備日

川口市立高校に届いたVR機器6セット(MetaQuest2)をセットアップするとともに3D描画ツール(SIDEQUEST)をインストールし、動作確認を実施した。またVRゴーグルを装着した生徒同士が接触しないように教室のレイアウトを行った。



1/15 授業日当日準備

工作室にてVR機器の最終動作確認を行うとともに1回目授業のリハーサルを行った。

受講希望者は最終的に11名となったので、1グループ2人で1台、VR機器を使えるようになった。

1/15 実証授業1回目

最初にVRに関する基本的な説明を行った後にVR動画を使用した操作体験をもらった。続いて、3D描画ツールの使用方法を説明した後に操作実習を行った。VR機器を初めて触る生徒が多く、最初は戸惑っていたもののすぐに使いこなせるようになっていった。



1/19 サポート訪問日

1/16～25までを生徒の作品制作期間としたが、使い方がわからず作業が進まない生徒向けに放課後、美術室にて操作方法の質問などを受け付けたが、多くの生徒が既に操作方法を習熟していて更に高度な操作方法に関する質問が出た。

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

美術特別講座「VR技術による3次元アート制作体験」

実証授業の実施



1/26 授業日当日準備

前日までに制作された生徒作品のデータを朝から取り込み始め、同じ3次元空間上に配置しての「仮想空間美術館」を作成していった。小原氏は「わずか半月で想定以上にレベルの高い作品が完成している」と驚嘆していた。また授業前の時間で川口市立高校の他の教職員の方々にもVR機器を体験頂いた。

1/26 実証授業2回目

今回は作品発表会と同じ空間上に配置された生徒の作品を一点一点プロジェクターを使って2次元上で確認しながら制作した生徒たちで制作意図や感想などを述べ合った。

発表会后、生徒にはVR機器を使い実際に3次元空間の「仮想空間美術館」を鑑賞して貰った。授業終了後、作品をWindowsPC上でも閲覧できるように小原氏側で設定し、美術教員に引き継いだ。



良かった点

情報端末の操作に慣れている世代の生徒たちであれば、新しい機器への順応性に優れており高度な授業が難く行えた。

課題点

準備の時間や機器の調達コストなどが大きくなる傾向があるので、同様の授業を行う際は十分な時間と予算の確保が必須。

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

美術特別講座「VR技術による3次元アート制作体験」

外部人材講師ヒアリング調査(小原宏文氏)

授業の感想は？

生徒さんの自主性に任せた結果、彼らが興味を持ってVR機器の操作を覚えた後に、作業が一気に進んだため、苦労はなかったです。

また今回は多くの先生方にも事前に操作を体験して貰い、興味を持つ機会を持って頂けたことはとても良かったと思いました。外部人材を呼んで授業を行うのは最終的には先生方なので、まだまだ未知の存在であるVR機器を現場の先生に知って貰う機会があったことが、良かったと思います。

反省点としては、VR機器の台数とサポートする人員が足りていなかったのかと思います。予算的な面はありますが、一人一台で使用するのが、理想的だと思いました。また自分の行った授業が教員として生徒にどこまで役に立ったのか、将来の進路にまで影響を与えることまで伝えることができたのかがわからなかったことです。

専門性は発揮できましたか？

自分のやってきた領域の授業でしたので、これ以上ないというくらい、専門性が発揮できたと思います。

学校だからできたことはありましたか？

今回は学校の授業という枠を設定して進めることができました。これは一人ではなく集団が同じ目標を設定してやれたことで、生徒同士がみんなでやり取りをしながら進められたことがメリットとして大きいと思いました。

学校だからできなかったことはありましたか？(デメリット等)

特に感じませんでしたが、あえていえば、学校それぞれの機材面でのルール(川口市立高校では生徒用タブレット端末は学校内での充電が原則行えないというルールなど)に縛られたことでそれぞれの作業状況を生徒同士で共有などが十分に行えなかったことくらいかと思います。

学校教員側との関係性はいかがでしたか？

今回の授業は学校の先生方に全面的に協力を頂けたおかげで実施できました。機材の調達など準備面でも事前に学校側に渡したVR機材で練習を頂いたり、レンタルをしたVR機材を学校側で受取や保管までして頂いたこと、1回目と2回目の授業の間に担当の先生に生徒を指導頂いたことなどで、スムーズに授業が行えました。

今後も教育という仕事に関わっていきたいですか？

いままでは会社同士での業務が主でしたが、今回、教育という取り組みを通して、VRでもう少しやれることがあると実感できました。

今後も機会があれば学校教育と関わっていきたいと思いますが、特別免許を取得しての常勤教員となるとハードルは高くなると感じています。単発もしくは、月に何度か行う授業で(特別非常勤講師として)来る可能性の方が高いと思いました。

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

美術特別講座「VR技術による3次元アート制作体験」

授業担当教員ヒアリング調査・川口市立高校 美術教諭

授業全体の感想は？

普段使えないようなVR機器を専門家の方に教えていただきながら制作できるといことで、生徒たちも安心して制作に向き合えたので、良かったなと思いました。教科書にない分野であるので、私たちがやるよりもよくやっていただいたので、外部人材活用って、とても有用だなと思いました。今回は放課後の活動にさせていただいたので講師の小原さんにも準備をする時間をたくさん取れ、時間設定的には良かったのかなと感じています。これが日中の授業とかになると、準備の時間とかが課題になるのかなとは思いました。今回、美術が好きな子もいるし、VRそのものに興味を持つ子もいたり、いろんなことに興味を持っている生徒たちが集まってくれていたのも、そういうところに幅広く対応してもらえたというのは、専門家の方ならではなかったのかなというふうに思います。人数が今回そんなに多くはなかったのも、さぼる生徒もいなかったのですけれども、子どもたちは、どうしても特性があったりするんで、生徒の情報も事前に共有できると、生徒のやりたいことをもっと引き出せる部分もあるのかなとも思いました。今回、私の場合は、冬休み前にVR機材を渡していただけて練習する時間もあったので、生徒が困っている時に、私なりフォローをすることができたのが良かったなと思っています。でも生徒たちは、スマホとか準ずるものはよく使っているんで、自分たちで機能を開発して、「あ、こんなこともできる」とか友達同士で教え合ったりしていたので、そういう意味では、私の方にそんなに質問は来なかったかなと。あと授業に関しては円滑に進めていただけたので、生徒も満足していました。

課題はありましたか？

生徒を募集するのに対して、毎週のように模試があった時期の関係で集まりづらかったんです。なので授業という形で枠をしっかりとって生徒に広く学ぶ機会というか、体験する機会を作ってあげるのは難しいなと思いました。あとはちょっとアートっていうのがつくると、どうしても芸術、きれいに描かなきゃっていうところがあるようで、そのような受け取り方を参加しなかった生徒たちにはされていたかなとは思いました。

芸術分野の側としては普段できない、見れないようなあの物の裏側だとか、視点を変えるだとか、そういった新しい感覚を生徒に持たせてあげられたのはとても良かったなと思っています。

外部人材の活用については？特別免許状での入職に関しては？

私は非常勤講師の方みたいに専門分野の方として来ていただける方が安心かなと思います。担任とか持ってもらおうと、どっぷりここに浸かることにもなりますし、教員として継続した生徒の様子を見ていくとか、そういうのが難しいのかなあと。ホームルーム経営とかそっちもやっていかないといけなくなるので、そうなるよりは専門家の方は専門分野で活躍していただきたいなと思ってます。あとは教員の学び直しのものにも協力していただけると。今後に繋がっていくんじゃないかなと思うんですが。

最後に 講師の小原さんに授業後、学校のアカウントで生徒制作のVR作品が見れるように設定いただき、最後の最後までフォローをしていただいて、本当にありがとうございます。

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

総合的学習の時間「アナウンサーが実践するプレゼンテーション技術」
講師：千北英倫子氏(フリーアナウンサー)



プロフィール

ニュース報道に10年携わり、スポーツでは女性で数少ないサッカー実況者として日テレ系で活躍。県警記者クラブ・市政記者クラブ・県政記者クラブに所属しニュースキャスターを務めながら様々な現場で取材を行う。企業トップ、政治家、スポーツ選手をはじめ街頭インタビューなどで述べ5000人以上にマイクを向けてきた。宝塚の元トップスターを姉に持ち、舞台関係への造詣も深い。キャリアコンサルタント・就活のプロとして学生を中心に就職活動をサポート。アナウンサー業の傍ら、日テレ学院アナウンススクール専任講師として、新人リポーターやタレント、アナウンサー志望の学生の指導も行う。

授業設計作業

2/16に千北さんと川口市立高校附属中教員とのオンラインでの顔合わせを行い、授業内容の摺り合わせを行った。2コマを離して別日開催を想定していたが、時間的な制約や講義部分とワークショップ部分と1コマ単位の時間に切り分けるよりも一体化した授業の方が時間配分に柔軟性が出るなどの利点から、3/6の6、7時間目に連続して授業を行うことなどが決まった。

対象は中学校1年生全クラス80名で小ホールで開催し、プレゼンテーションに関する内容で前半は講義形式、後半はワークショップ形式で行うことになった。また人数が多いため、ワークショップ「他己紹介」での全員発表は諦めて事前に班分けをした中で選抜した代表が発表を行うことにした。

授業日までの時間があまりなかったため、以降の打合せはメールのやり取りが主になった。その中で、千北さんが授業をイメージをしやすいように授業を行う小ホールの写真や図面を学校側から送って貰い、班分けを8人×10組で行うことや教室の机やイスの配置、フリップ代わりになるスケッチブックの準備など、千北さんと学校側との直接やりとりも発生した。これらのやりとりの結果、当日の授業スケジュール完成した。(右図参照)

川口中学「プレゼン」講師構成

TIME	LAP	TITLE	CONTENTS	
		※事前スタンバイ	※プロシキター&マイク式(会場) / PC(持ち込み)	
13:00	20'	学校入り	※ご挨拶など / 控室：3FD控室	川口市立高校附属中学
13:20	30'	準備	※会場・機材確認・配布物など /	
13:50	02'	挨拶・講師説明	・講義の趣旨について説明 & 千北先生 自己紹介	千北先生
13:52	02'	プレゼンとは	プレゼン上達の2つのテクニック → 表現技術と構成スキル	千北先生
13:54	6'	表現スキルを構成スキルが必須な理由	【メソッドの活用】※表現技術と構成スキルが大切な理由 ※メソッドの活用から考える 非言語コミュニケーション → 話の内容には表情・視線・声のトーンなどが影響する	千北先生 & 生徒さん
14:00	10'	①表現技術【視覚情報】を向上させるためのウォームアップ	【発声・発音・滑舌】説明 & 学生実践 【音声表現テクニック】 -スピード、間、音の高低	千北先生
14:10	8'	②表現技術【聴覚情報】を向上させるためのテクニック	【表情の使い分け】 【アイコンタクト】 ・笑顔、うなずき、アイコンタクト、視線のデモ(ロー・ボイ大絶叫の絵)	千北先生
14:18	12'	③文章構成力	■ 伝え方の構成技術とトークスキル ・結論ファースト、重要性、具体性、短文で表現、キーワード	千北先生
14:30	5'	他己紹介について	他己紹介のポイント整理 / フリップの使い内など	千北先生
14:35	3'	千北さんデモンストラーション	・先生の他己紹介	
14:38	5'	休憩 & 準備	8人×10組で分かれる	
14:43	15'	取材 & 自分作成	二人一組で実施	※生徒さんワークショップ
14:58	10'	組ごとに1人ずつプレゼン → 組ごとに1名選出	講師 & 講師見まわる	※生徒さんワークショップ
15:08	5'	プレゼン	■ 組の中でプレゼン、アイデア出し	千北先生 & 生徒さん
15:13	12'	代表が発表	発表	
15:25	5'	まとめ & 質疑応答		千北先生 & 生徒さん
15:30		終了		

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

総合的学習の時間「アナウンサーが実践するプレゼンテーション技術」 実証授業の実施

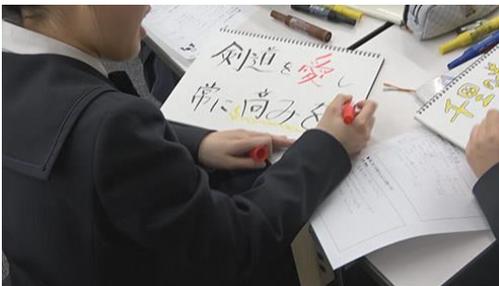
3/6 実証授業

講義の冒頭で千北さんから「メラビアンの法則（人は見た目からの情報を優先する）」に関する説明を行った際にも発言する生徒が出るなど、和やかな雰囲気の中で授業は進行した。



発声練習や表情の使い分け、アイコンタクト、文章構成力など一通りの説明が終わると、いよいよ実践編の「他己紹介」に。二人一組になって、お互いを取材し合い、30秒以内で相手のことをプレゼンテーションするワークショップが始まった。

千北さんも出来る限り多くの班を回ってインタビューの様子を聞きながら積極的にアドバイスを行った。会場には担任の教員だけでなく他学年の教員も見学に来ていた。



インタビューを終えるとそれぞれでスケッチブックに他己紹介のポイントをわかりやすくキャッチーな文言をフリップに書き込んでいった。真面目なものから、面白い内容まで様々だった。

各班の8名の中でそれぞれプレゼンを行い、いちばん上手いと思った1名を代表に選んで壇上でプレゼンを行い、最後に千北さんから「自分を知って貰い、相手を知る素晴らしさをあらためて感じました」と授業を締めくくった。



良かった点

ワークショップ形式に時間をとったので、ただ聞いているだけの授業よりは集中してスキルを身に付けることができた。

課題点

人数が多すぎて講師が細かな指導が行えなかったもので、特にワークショップ形式では少人数複数回での実施の方が効果的。

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

総合的学習の時間「アナウンサーが実践するプレゼンテーション技術」

外部人材講師ヒアリング調査(千北英倫子氏)

授業の感想は？

教室に入った瞬間に好意的な、まっすぐな視線を感じまして、楽しみに思う生徒が多いのではないかと感じました。実際に授業が始まってからも、意欲的に話を聞いてくれましたし、リアクションがとても良くて。中学生は年代的にはちょっと恥ずかしかったりするのかなと感じていた部分はあったのですが、しっかり表現してくれて、積極的に授業に取り組んでくれたのがとても良かったなと思います。

反省点としては、子どもたちのレベルというのを深く理解できてない部分もあったのかなと思いました。例えばお互いにインタビューをする際、用意された項目だけをただ聞いていたので、相手の深い部分を引き出せるようなワンポイントのアドバイスを事前にレクチャーできればよかったかなと思いました。あと30秒でプレゼンをして貰ったのですが、私はテレビ番組の生放送とかをやっている、時間の感覚をものすごく意識するのですが、一般の人たちというのはそれほど時間に厳しくないというか1分半とか2分ぐらい話していた子もいたのかなと思ったので、与えられた時間の中で工夫するのだということをもっと強く、言えていればよかったのかな、と思いました。

専門性は発揮できましたか？

話すことって、みんなできることと思っているかもしれないのですが、そこにどんな技術が含まれているのかを一般の人は意外に知らないなと普段から感じていました。人前に立つと自然とできなくなったりとか、硬くなって棒読みになったりとか。その打開策として、よりよく伝える、意図的にテクニクを使えるとその完成度が高まるし、確実にいいものを届けられるという内容を教えることができたのではないかと思います。

学校だからできたことはありましたか？

興味のある人ない人を含めて一同に多くの人に授業ができるっていうのが、やっぱり学校だなと思いました。話すとか伝えるというのは死ぬまで続いていくことなので、興味がない人であったとしても、そのテクニクを知るといのはメリットしかないかなと思うので、今回、学校という場所でできたことは良かった部分だと思います。

学校だからできなかったことはありましたか？(デメリット等)

個人個人の苦手なこととか、もしかしたら、これ聞きたいなみたいなのを思っていたとしても、やはり大所帯だと個別に対応していくのが難しいのが学校の現場なのかなと思いました。できればもっと少人数で回数があった方が良かったという印象ですね。

学校教員側との関係性はいかがでしたか？

良かったことは、事前に打ち合わせをさせてもらったことで、プレゼンに対する生徒のレベル感とか様子がわかったということで、それを受けて授業の中身をどうするかっていうのを考えられたことかなと思います。反省点として、こちらからリクエストさせてもらった画用紙を準備して頂いたのですが、予算的に負担になってしまわれたことはなかったかなと、心配ではありましたが。

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

総合的学習の時間「アナウンサーが実践するプレゼンテーション技術」

またプレゼンの資料を作成するに当たり、先生のお1人を学校側でピックアップしていただき、こちらからの質問に事前に答えてもらった上で行うことができたので、当日の流れがスムーズになってとても助かりました。

今後も教育という仕事に関わっていきたいですか？

今後も自分が教える側のスキルを身に付けたいなと思いました。機会があれば何らかの形で学校教育と関わっていきたいですが、現場にガッツリ教師として入るといったイメージは持っていないかなというのが正直なところ。アナウンサーをやったり、いろんな現場も経験しているからこそその現状をお伝えできるというところが、いちばんいいところで、今現在の接点をなくした場合、そのフィールドがずれてっちゃう可能性がありますよね。両方に軸足があるからこそ、機能しているのじゃないかと個人的に思いますが、今回やらせていただいたようなプレゼンテーションって日々、社会に必要なものも変わっていく中、アナウンサーとしての接点をなくした瞬間にもうそれは生きた情報ではなくなると思います。

なので、例えばアナウンサーを続けながら学校へは週に2回、1日程度とか、そういうものの方が生の情報や現状を伝えられるんじゃないかな、なんて思ったりするんです。

授業担当教員ヒアリング調査 川口市立高校附属中学校 担任

授業全体の感想は？

来年度以降も是非継続できたらと思うような活動でした。実際にプロの方の話し方ですとか、プレゼンテーション技術ですとか、プロの方に学べるということ、あとはワークショップ形式で行ってくださったので、聞いているだけでなく、子どもたちが実際に千北さんに教えていただいたことを実践して発表するっていう流れがありましたので子どもたちも最初は2時間は長いんじゃないかって思っていたけれど、一瞬だったという声も多数ありました。特に附属中の生徒たちは、プレゼンテーションの授業というのがたくさんありまして、プレゼンをする機会も多くありますので今後も実践できる、あるいは社会に出ても実践できるような授業をしていただいたなと感じております。また、キャリア教育という意味でも、どのようなことに注意して日頃お仕事をされているとか、テレビの画面から見えない裏でのご苦労だとか、そういうのも感じる事ができて、大変有意義だったと思います。

子どもたちに変化は出ましたか？

あの後もプレゼンテーションの機会が学年全体であったりとか、授業の中でもプレゼンの授業があったのですが、千北先生に教わったことを思い出してやろうっていうと、子どもたちもすぐ分かりましたし、発表する時の声とかスピードとかはプレゼンだけではなくて、人前で話す時の所作とか、声の聞き取りやすさ、美しさ。そういうところも、子どもたちはすごく感銘を受けましたし、メラビアンの法則と言って話の中身だけじゃなくて、見た目の印象も大事だっていうことでもありましたので、そういうのをあの意識して活動できる生徒があつたことと実感しております。

2. 川口市立高等学校・附属中学校での実証

総合的学習の時間「アナウンサーが実践するプレゼンテーション技術」

時間配分や回数などはいかがでしたか？

子どもたちの集中って考えると、まあ2時間連続ぐらいは大丈夫かなと思いますけど、もしそれ以上になるようでしたら、2回とか5回とかに分けるとか、そういう風になるといいのかなと思います。

事前準備ややりとりなどはいかがでしたか？

教員側での準備はありました(スケッチブック購入や、他己紹介用のプロフィール例の作り込みのため、講師-担任教員とのやりとりなど)けれども、子どもたちに対しては、こういう授業があるからってということと、子どもたちに興味を持ってもらえるように、事前にこんな方がいらっしゃるよってぐらいの話はしました。あとは事前のミーティングがオンラインのみになってい、あとはメールのやり取りで、対面でのミーティングもできれば良かったかもしれないですが、お互いに時間もない中ですので、そこは仕方ないというか。

外部人材活用に関しての感想は？

専門性を持つプロフェッショナルの方に今回来ていただけだったので、私たち教員では教えられない部分ですとか、あと説得力はやはり違うと思いますし、生徒の理解の深さとかは、専門の方に教えていただくというのは大変優位かなと感じました。私たち自身も勉強になるということで、同じ学年の教員だけではなく、学校全体の教員の方にもぜひ見に来てくださいということもお伝えしましたし、そういう意味では私たちも話す仕事ですので、伝える技術とか、大変勉強になりました。今後できれば数回、子どもたちの活動をステップアップさせたり、理解を深めたりということもあれば、例えば学期に1回とか。たった1回で終わらせてしまうのは勿体ないと思いました。

定期的な外部人材が来る際の負担はありますか？

ミーティングの時間とか、いろんな調整ごとぐらいですが、毎週とかだと大変ですし、あと日程調整が結構大変かもしれないです。

授業の中身を私たちが考えるとなると、ちょっと負担がかかるかなと思うのですが、指導のノウハウを持っていて、こんな活動ができますということを事前に提示して頂けると負担感は減るかなと思います。

あとは間にマネジメントをしてくださる方とか、ある程度ノウハウを持た方が入られても負担感はかなり減ると思います。

では特別免許取得者として現場に入ってもらうのはいかがですか？

中学校だとその辺は難しいかもしれないですけど、専門性を持った方のアドバイスを常にいただくと、その専門性の内容にもよるかもしれないのですが、何かうまく連携できるものがあればと思います。

2. 埼玉県教育局へのヒアリング

今回の川口市立高校での実証授業に合わせ、埼玉県内の特別免許状交付や特別非常勤講師の届出状況などの近況を伺った

ヒアリング調査先:

埼玉県教育局 市町村支援部 教職員採用課 総務・免許担当

現状

埼玉県の昨年度特別免許状の授与数は16件、特別非常勤講師の届出受付数は678件。

授与者はALT(外国語指導助手)が多い(特別非常勤講師経由も含めて)。このため英語に偏りすぎている、と文部科学省からは注意を受けている。

他県では情報の教員として授与されるケースも増えていると聞かすが、芸術家(アーティスト)への特別免許状の授与はほとんど聞かない。

私立と公立での特別免許状授与までのプロセスの違い

私立学校であれば、定型に従った申請があれば授与を行うが、公立学校では、「検定」という特別選考が年2回行われ、これに通らないと授与されない。しかも検定を受けるには最低1学期間以上の授業を行うか、教科に関する専門的な実務経験3年以上が求められ、しかも本採用職員として任命または雇用される予定の者しか受けられない。これに専門領域毎の有識者による審査が加わるため、検定を行える教科も限られてくるので、必ずしも自分の教科の検定が年に二回行われるとは限らない。このため公立学校では特別免許状授与後、入職となると狭き門となる。

芸術家(アーティスト)での検定は過去、行われていないため、今後、特別非常勤講師として継続して勤務する人の拡大などで裾野を広げていくしかないと思う。

臨時免許について

特別免許状以外にも臨時免許状といって、教員免許状を持たない有資格者が産休などで休職する教職員の代わりがない場合に限って、授業を行えるよう随時申請を受け付けている制度があり、8割方は小学校で運用されている。(埼玉県では3年間有効で、他県では最大6年)ただ、あくまでも「臨時」のため、特別免許状とは別に扱った方が良いかもしれない。

その他

来年度からは、さいたま市が構造改革特区となり、特別免許状を授与できる立場になった。(特例特別免許状と呼ばれている)

3. 船橋市立金杉台小学校での実証



船橋市立金杉台小学校

船橋市にある公立小学校で、
生徒児童数:300名弱(1学年2クラス)

学校教育目標「かしこく 心ゆたかで
たくましい子の育成」
主体的に学び、多様な価値観を認め、
高め合う教育活動の推進

実施日程概要

- 11/13 キックオフミーティング:オンラインで実施
- 12/ 7 作成したマッチングリストを元に説明会を開催
音楽と社会を軸に先行して講師の選定を開始
- 12/12～元宝塚歌劇団関係者50名程の中から学校教育に興味を持つ方は5名程度をリストアップし、学校側に提示すると共に授業日数等の調整に入る。
全学年の全授業の受け持ちは不可能のため、対象を5,6年生に絞った。
- 12/22 社会科「メディアリテラシーとニュース制作」の授業について、5年生の担任教員と打合せ、全5コマの授業を外部講師と担任教員との分担について調整を行った。(3コマを外部講師、2コマを担任で分担)
- 12/25 音楽講師を1名に絞り込み確定。学校側との顔合わせ。
具体的な授業内容の摺合わせを実施した。
- 1/ 9 社会科講師選定のため、マッチングリストからリストアップしたニュース制作の授業を行える15名からニュース・ライブセンターの2名で分担することが確定
- 1/18 千葉大教育学部による事前講習会開催
- 1/26 金杉台小学校校長より、「船橋市教委に届け出た特別非常勤講師の処理が止まっている」との連絡が入る。暫定的に実証授業を実施。
文科省にもその旨を報告。
- 1/30、31 金杉台小学校での音楽実証授業①(5, 6年生クラス毎)
- 2/9 金杉台小学校での社会科実証授業①(5年生2クラス)
- 2/14, 21 金杉台小学校での社会科実証授業②③(5年生2クラス)
- 2/14 文科省とオンラインで対応を協議、横須賀市での実証授業が実施できなかったことを含め減額相当分費用を使い過去の特別免許状授与者を追跡調査することで予算総額変更なしで研究事業継続が認められる。
- 3/4 金杉台小学校での音楽実証授業②(5, 6年生合同)

3. 船橋市立金杉台小学校での実証

マッチング作業

金杉台小学校の全担任(12名)を対象にした説明会(12/7)において、アックスオンからのマッチングリスト(69名)を提示及びリストに該当しないアーティスト(音楽、美術等)も紹介可能とした結果、全教員より産休により不在となった音楽教員の派遣が求められたことと、マンガ家などの紹介も可能であればとの依頼が出た。また5年生担任教員からリスト中にある「メディアリテラシーに関する授業も含めてニュース制作者を派遣した欲しい」との依頼もあった。

学校側からの要望を持ち帰り検討した結果、音楽に関しては、アックスオン社内で元宝塚歌劇団関係者に詳しいプロデューサー経由で50名程の中から学校教育に興味を持つ方は5名程度をリストアップし、学校側に提示すると共に授業日数等の調整に入った。当初学校側から提示された1～6年生までの全学年全授業の受け持ちはスケジュールの確保及び予算の点から不可能だったため、優先的に行いたい音楽の実証授業のコマ数を学校側とすり合わせた。結果、5、6年生対象の授業を絞り、卒業式で歌う「レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー」の歌唱指導に絞ることとなった。加えて歌唱指導の際、不在の音楽教員の代わりに伴奏者も必要となり、確定した外部講師の紹介でピアニストの方にアシスタント講師として入ってもらうこととなった。

12/22に社会科「メディアリテラシーとニュース制作」の授業について、5年生の担任教員と打合せ、教科書に載っている全5コマの授業を外部講師と担任教員との分担について摺合わせ調整を行った。(3コマを外部講師、2コマを担任で分担)

その際に、弊社から、ニュース映像の制作部分は他の番組制作経験者(情報、バラエティー、ドラマ等含む)でも構わないか?の問いに対し学校側からは「ニュース番組制作経験者でお願いします」と強く念を押された。

この間、事前講習を担当する千葉大教育学部長から漫画家に詳しい千葉県内の出版社を紹介頂き、漫画家2名と絵本作家1名をリストアップし、学校側と共有したが、音楽と社会が先行していたため、今回は見送りとなった。

結果、12/25に音楽、1/9に社会の各講師と日程が下記のように確定した。

音楽「卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導」
講師:天寿光希氏(俳優・アーティスト) 伴奏:久田菜美氏(ピアニスト)

1/30(火) 3時間目 6年1組 4時間目 6年2組(音楽教室)

1/31(水) 3時間目 5年1組 4時間目 5年2組(音楽教室)

3/4(月) 3時間目 4時間目 5、6年生合同授業(体育館)

社会科「メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ」

講師:長島崇彦氏、長谷川智彦氏(日テレアックスオン・ニュース部)

2/9(金) 3時間目 5年1組 4時間目 5年2組(普通教室)

2/14(水) 3時間目 5年1組 4時間目 5年2組(家庭科教室)

2/21(水) 3時間目 5年1組 4時間目 5年2組(家庭科教室)

3. 船橋市立金杉台小学校での実証

事前研修の実施

音楽講師の確定(12/25)と同時に事前研修を担当する千葉大学教育学部長の藤川教授との内容検討に入った。限られた日程の中で、座学と模擬授業をどの形式でどこまで行うべきかを検討した結果、講師本人の意向も確認し、1/18にオンライン形式で座学部分のみ実施することとなった。模擬授業はなく、代わりに1/30、31の実証授業時に藤川教授に立ち会って頂くこととなった。遅れて確定した社会科講師も可能な限りオンライン講義に参加してもらい、難しい場合は講義の録画映像を後日視聴貰うこととなった。

1/18のオンライン事前研修内容

- ・小学校の現状
 - ・外部人材講師の役割
 - ・授業実施にあたっての注意点
 - ・質疑
- ※社会科講師はスケジュールが合わずに後日録画ビデオを視聴

1. (今の) 小学校って?

小学校の授業は、10教科+道徳+外国語活動+総合的な学習の時間。基本的に、年間35週、1回45分で計算。

区分	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	306	302	295	291	275	275
算数	136	125	125	125	125	125
理科			90	105	105	105
社会			90	105	105	105
総合的な学習の時間	302	302				
特別活動	60	70	60	60	50	50
道徳	60	70	60	60	50	50
外国語活動					60	55
体育	302	302	302	302	302	302
音楽					70	70
特別の免許による 音楽・児童発達支援 児童発達支援の授業時間	34	35	35	35	35	35
特別支援の授業時間					70	70
特別支援の授業時間 ト・ティーチャーを招くことが 増えた。	34	35	35	35	35	35
経 営 時 間	850	900	980	1015	1015	1015

(学校教育法施行規則より)

事前研修の感想

天寿光希氏(オンラインで受講)

とてもためになりました。今まで教育現場の方からの話を聞く機会も少なかったし、その方々が、今回の私のような人間が教育の場に入るための事前の心構えなどのアドバイス、例えばこういった子どもたちが目の前にいて、といった事前研修のおかげでどのような授業をするかのイメージが湧きました。もしあの時間がなければ、実際に授業をする前に恐怖を感じていたかもしれません。手探り状態の中であれだけの情報を頂けたので十分でした。

長島崇彦氏(録画ビデオで視聴)

なるほどと感じることはありました、教えることは難しいなと思いましたかね。ただニュースのことを伝えるということと言うと、参考としてみましたけれども、授業の中では、(音楽の授業を前提に話された内容なので)活かされたことはあまりなかったような気がします。

長谷川智彦氏(録画ビデオで視聴)

内容に関しては音楽の授業向けだったのですが、子どもとの接し方みたいな部分で言うと、よくしゃべる子だけに偏らないみたいなことや、あまり話しかけてこない子に対してもまんべんなく声をかけていくみたいなことをおっしゃっていた記憶があるのでその辺りはワークショップやる上での自分のスタンスとして参考にさせていただいたなという風に思います。

良かった点

講義形式であれば、対面でもオンラインでも同様なコミュニケーションがとれ、効果的な研修を行うことが出来た。

課題点

オンライン参加の受講者とのやりとりが優先されてしまうため他の受講者がビデオ視聴をしても参考になる工夫が必要。

3. 船橋市立金杉台小学校での実証

音楽「卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導」
講師：天寿光希氏(俳優・アーティスト) 伴奏：久田菜美氏(ピアニスト)



天寿光希氏プロフィール

元星組男役スター。2005年初舞台。星組に配属。91期生。『エル・アルコン-鷹-』で主人公の少年時代を演じて注目され、その後も演技派の男役として活躍。『かもめ』トリゴリン、『ロミオとジュリエット』マーキュシオ、パリス、『眠らない男・ナポレオン』ナポレオンⅡ世役などで活躍。最近では、星組の重要な戦力として、『ロミオとジュリエット』キャピュレット卿、『柳生忍法帖』沢庵和尚役などの演技で印象を残す。歌、芝居、ダンスと三拍子揃った男役として人気を得たが、2022年7月『めぐり会いは再び next generation』『Gran Cantante!!』で宝塚を退団。

授業設計作業

金杉台小学校からのリクエストは、卒業式で歌う「レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー」の歌唱指導を5、6年生全クラスで行って欲しいというものだった。二部合唱で学年別に担当するため、それぞれの指導を速やかに行い、3/19の卒業式に合わせて、最後は仕上げで3月上旬までに2学年合同での練習も行って欲しいという内容で、学校側の授業実施可能日と講師及び伴奏者のスケジュール調整を早急に行わなければならなくなった。講師側は、小学校での授業が初体験でもあるので、一日2コマ(2時間)の指導が、集中力の限界と判断し、5、6年生のクラス別指導は二日間に分け、初日(1/30)を6年生、二日目(1/31)を5年生の2クラス毎に音楽室で指導と決まった。また仕上げの練習は体育館を使い、5、6年生全クラスを対象に2コマ連続で3/4に行うことが決まった。また授業開始時間は、講師を含め実証授業運営関係者が県外在住であることや準備時間を多めにとりたいことから、早朝(1, 2時間目)は避け、3, 4時間目(10時半頃開始)に行うこととした。次に天寿側さんから、レッスンの際の指導目安にクラス毎の男女数や特徴(全体的ににぎやかか、おとなしいかなど)を教えて欲しいという要望が出たため、校長先生から個人情報に触れない範囲内で情報共有を頂いた。

実証授業の実施

1/30、31の2日間で行われた初回授業では、まずはウォーミングアップとしてプロが行う本格的な発声練習から始まり、その後、各クラスの歌声を聞き、天寿さんがそれぞれの良いところや改善点を指導しながら歌わせていくと子どもたちの歌声がみるみると変化していった。担任の先生方はその様子を驚きと共に見守った。



3. 船橋市立金杉台小学校での実証

音楽「卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導」



天寿さんは明るく、技術以外にも歌うことの楽しさなどを同時に伝え、子どもたちはお互いの声を聴き合いながら高めていった。授業が終わった後も一部の子もたちに囲まれ和やかな雰囲気にもまれた。31日の授業に立ち会った千葉大学教育学部長の藤川教授からも「文句なしの素晴らしい授業でした」と絶賛した。



3/4の合同授業では、体育館で6年生がソプラノ、5年生がアルトパートの2部合唱の練習となり、天寿さんは子どもたちの成長を褒め讃えながら、各クラスを互い違いに組み合わせるなど、工夫しながら歌わせた。授業後半では子どもたちに天寿さん自身のこれまでのキャリアを話すなどして集中力が途切れない工夫をした。最後は6年生の「いのちの歌」を歌い、授業は終了した。



3. 船橋市立金杉台小学校での実証

音楽「卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導」

外部人材講師ヒアリング調査(天寿光希氏)

授業の感想は？

数十年ぶりに小学校という学び舎に入って大人という別目線で、音楽という自分が学んできたことを伝えることが出来て自分個人の感情はもちろん嬉しかったのですが、難しかったこともある。例えば、思っていた以上に小学生は自分の意見がちゃんとあり、自分というものを持っていて、それぞれの世界観の上で生きていて、その世界観を尊重しながら、1クラス二十数名という、1:1では向き合えない中で、どこまでいっていいのか試行錯誤しながらの時間でした。個々は育んでいるけれど、柔らかい心の部分もちゃんと持ち合わせていて、こちらの言うことがすぐに響く心の柔らかさは、この授業をやらないと感じることのできなかつた貴重な経験でした。今、この時期にこの経験をさせて頂いたことが私自身の表現者として幅が広がっていくと感じた時間でした。

専門性は発揮できましたか？

正直、宝塚歌劇団の男役としての専門的なものが使えたか？といえば、果たせていないかもしれませんが、個人的には私が小学校5年生の時に生涯、自分がこの職業を究め続ける原点に出会えたという記憶から、今の小学校5、6年生の皆さんにも、音楽の世界で活躍するという生き方もあるよと伝えられた。そういう意味では、果たせたのかな？と思っています。

学校だからできたことはありましたか？

塾や専門学校では、自分の意志で好きで習いたくて来るものだけど、学校は義務教育であり、皆が通過するもの、つまりは好き嫌いの選択なしで来る。受けたいではなく受けるものとして来る。そこは、大きく塾などの習い事とは違うところで、私自身の技量が試されたと思う。この時間が楽しくないと話を聞いて貰えない。専門家というよりは一大人代表として子どもの心に刺さる授業ができるか？を意識したと思います。

やりづらかったことはありましたか？

やろうと思ってできなかったことはありません。自分でやろうと思ったこと、気付いたことは全て伝えたいつもりです。

学校教員側との関係性はいかがでしたか？

学校の先生は皆さん頭の柔らかい方が揃っていて、金杉台小学校の子どもたちはいい大人に囲まれて学んでいるなというのが素直な感想です。「対象は小学生、教えることは卒業式で歌う音楽の授業」という枠の中で、大人としてやるのか、はたまた教師なのか、あるいは元宝塚としての専門職としてなのか、自分の中で、いろいろな応用を利かせなければならず、大変だったが、学校の先生方やアックスオンのスタッフなど、大人の方々のサポートで授業設計も含め、自由に楽しく授業をさせて頂きました。

今後も教育の場に関わっていきたいですか？

今回の授業を行って自分自身の(小学校5年生頃の)初心を思い出せました。そこが自分にとってのいちばんの収穫。この教育という仕事が好きなんだと思いました。

3. 船橋市立金杉台小学校での実証

音楽「卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導」

かつて宝塚にいた時、競争社会にいたはずなのに、それだけではないよ、ということを知りました。人は出会いが全てだし、自分が誰と出会ってその方たちとどんな経験を積んで、その中でどんな選択をしていくかが人生。小学校5年生で自分が出会ったあの感動は、早い段階から知ってもらうことで、景色が変わるし人生の選択の幅が大きく広がる。その子たちを対象に自分の経験を伝える機会を頂けたら、なんて幸せなんだろうと、宝塚を辞めたときに思い描いていた一つでした。目の前に教えて欲しい人がいたら、その人の人生に寄り添っていきたい。今後も出来るのであれば、国内外問わずに教えに行けたらと思いました。それが今まで自分を育ててくれた人たちへの恩返しにもなると思います。

授業担当教員ヒアリング調査 船橋市立金杉台小学校担任

授業全体の感想は？

【5年担任】子どもたちもプロの方が来てくださるということで、モチベーションが上がっていて、すごく良かったです。子どもたちの歌声を聞き、それに合わせた指導などを通じて、全員ではないですが、響いたものがある子も多かったのではないかなと思いました。ただ、できれば、1月末の授業から仕上げの3月4日までの間、担任教員向けに発声の指導法などを準備頂けたらもっと良かったのかも。5年生はコロナ期間中、音楽でも声を出す授業が行えていなかったもので、間の練習でも声を出すことを意識したのだけどそれが十分にできていなかったの。

【6年担任】本物に触れるという魅力、言葉に説明がなくても、天寿さんが歌い、それを子どもたちが聞いて寄せようと歌うという醍醐味を感じました。出来れば天寿さんの歌声をもっと聞きたかったです。ただ歌うだけでも本物の説得力があったと思いました。プロの方が専門的なことを話すのは信じるに値する説得力があり、良かったと思いました。ただ個人のレベル差はあったので、時間がないことはわかっていますが、もっと個別に教えてもらえる場も欲しかったと思います。

外部人材の活用についてはどう思うか？

【5年担任】外部人材を活用した経験がほぼなかったので、こういうことが出来るんだ。自分が教えられないことを外部人材の方が教えられるので、今後の教育に取り入れられる可能性が広がると感じた。また保護者の方からも感謝の気持ちを伝えました。

【6年担任】実際にプロの方がテレビの中だけでなく実在するんだと子どもたちが認識することが大きかったと思います。将来の夢やキャリア教育などにも意識していけるなと感じました。本物の凄さを実感し今後も夢を持ち続けていくきっかけ作りになると感じました。

ご自身で外部人材を積極的に活用したいと思うか？

以前、スポーツ選手(アスリート)の授業をやってみないか？という話が来ましたが手間を考え断ってしまったこともありました。正直、自分自身で一からやろうと思うと、事務的な手間の多さ(講師探しやスケジュール調整及び授業設計の相談など)から、結局は「(外部人材を)呼ぶくらいなら自分で授業をやる」ということになってしまうと思います。今回の様にコーディネートをしてくれる会社があって、こちらが望む人材リストを提示して貰えるなど、ハードルが下がる方法があるのであれば可能だと思います。

3. 船橋市立金杉台小学校での実証

社会「メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ」
講師：長島崇彦氏、長谷川智彦氏(日テレアックスオン・ニュース部)



長島崇彦氏プロフィール
地方局のニュースキャスターからニュース記者を経て、日本テレビ報道局の現場へ。以降、記者やディレクター、デスク、プロデューサーを歴任し、現在、ニュース部長。



長谷川智彦氏プロフィール
社会部警視庁クラブ記者、「newszero」ディレクターを経験。
その後「真相報道バンキシャ！」のディレクターを経て、現在、デスク・プロデューサーを務めている。

授業設計作業

マッチングの時点で、金杉台小学校側よりメディアリテラシーの授業に加えニュースの制作をするワークショップ形式での授業という計5コマ分の授業を行って欲しいと依頼された。「メディアリテラシー」の授業単体では「アーティスト」という括りに入れ込めるのか、という議論も出たが、ニュース映像制作という、映像制作分野の中の一つと捉え包括的に一つの授業として実施することで、アーティスト分野の授業として行うこととなった。授業で使用される教科書を元に5コマ中3コマまでを担当するニュース部でパワーポイント及び配布資料の作成を行い、2/2の金杉台小学校とのオンライン会議で提示した。

同時に今回授業を行う際の児童の動画編集スキルを講師側から確認したところ以前から継続的に映画監督の方がタブレット端末での動画の撮り方や編集の仕方の基礎を教えて貰った経験があるので、問題がないという学校側からの見解が出た。このため、授業では動画の撮り方、編集の仕方の細かい指導は行わず、どのように情報を集めて、ウラ取りをしっかりと行って、人に伝えるためには、どんな映像を撮って、どのようなナレーション(原稿)を入れるかを主に教えることとなった。一方で「フェイクニュースの説明では子どもたちをただ怖がらせるだけの内容は避けて欲しい」「配布資料には子どもたちが書き込める箇所を入れて欲しい」「終わってからテストを行いたいので授業内容に盛り込んでほしい項目がある」「校内ニュースのネタになる例を授業で出して欲しい」など担任側から多くの要望が出た。最初の授業までの残り少ない時間で、講師側で更に資料を手直して、授業に間に合わせた。

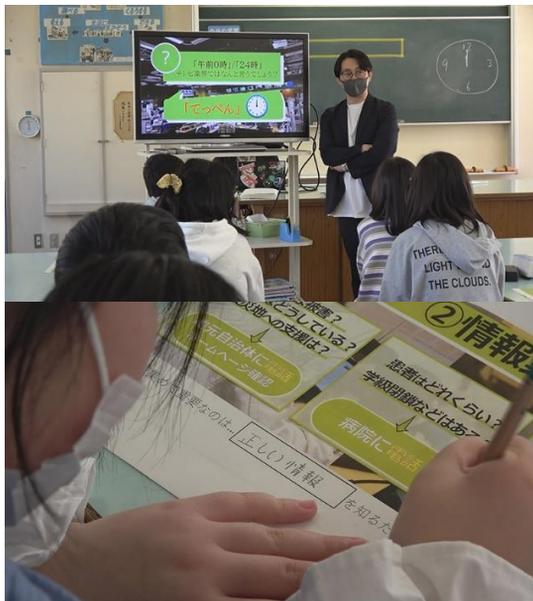
3. 船橋市立金杉台小学校での実証

社会「メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ」

実証授業の実施

2/9の最初の授業は、「メディアリテラシー」ベテランのニュース制作者である長島さんに1月に起きた能登地震の際に起きた最新のフェイクニュースの例を取り上げながら、ネットに溢れる情報全てを鵜呑みにせず、常にウラをとる大切さを伝えて貰った。

また取材時に被疑者、被害者の写真を探して載せる前に必ず行う「面確」。意外な方法に、授業を受けた子どもたちの多くが驚かされていた。それだけテレビで流すニュースの正確性を担保するために現場がいかに大変な思いをしながら仕事をしているのかがわかる内容となった。



2/14の授業は、先回のメディアリテラシーの内容を踏まえつつ、実際のニュースが作られている現場は、どのようになっているのか？「編集会議」「情報集め」「取材・撮影」「原稿」「編集」「放送」の順でニュース番組プロデューサーの長谷川さんからクイズ形式を交えながら、子どもたちが楽しんで授業に参加できるよう心掛けながら説明した。また授業後のテストでも答えられるように大切な内容は配布したプリントに書き込んで覚えやすくする工夫も採り入れた。そして担任の先生が担当する次の2コマ(2時間分)では、実際に学校の中の出来事取材して1分間のニュースを制作するので、そのための説明やテーマ決めなどに残りの時間を充てた。

3. 船橋市立金杉台小学校での実証

社会「メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ」



2/21の授業では、2/14の授業後に各班ごとに制作したニュース映像の発表会となった。決められた時間内(1分間)で必ず1名以上のインタビューを入れることなど、厳しい条件の中、子どもたちは2コマの授業時間以外に休み時間まで使い、授業直前まで編集を行っていた。出来上がったニュース作品は「校長先生への密着取材」や「大谷選手から貰ったグローブ」「校門前の工事」「卒業生を送る会の準備」など多岐に渡り、ほとんどの作品が一分以内に収まり講師の長谷川さんも「想像以上に質が高かった」と驚いていた。授業終了後も居残る子どもたちと講師やスタッフで雑談を交わしながら和やかな雰囲気の中、最後は記念撮影を行って社会科の授業は終了した。

船橋市立金杉台小での実証まとめ

音楽「卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導」

良かった点

クラス別の少人数指導が行えたので、それぞれの強みや弱点が把握でき、効率的なレベルアップにつながった。

課題点

合同授業は人数が多すぎて細かな指導が行えなかったため、間の授業回数を増やしていくなどの検討必要。

社会「メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ」

良かった点

教科書の単元をまとめて教えたので、子どもたちへのインパクトが大きかっただけでなく、先生方の負担減にもつながった。

課題点

実際のテレビ制作の現場を見学させるか、教室での紹介の際も静止画よりは動画を使った方がより効果的だった。

3. 船橋市立金杉台小学校での実証

社会「メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ」

外部人材講師ヒアリング調査(長島崇彦氏、長谷川智彦氏)

授業の感想は？

【長島】ニュースへの関心が高かったというのが良かったです。最初、ニュースを見ている子どもたちの数は少ないと想定していましたし、世の中で起きている問題もそんなに関心がないだろうなと思っていましたけれど、授業で聞いた中では 8 割方ニュースに興味がありましたし、内容も能登地震もあり、自民党の裏金問題もあるという、思っていた以上にニュースに興味関心がある子がいてよかったなと思いました。やってよかったし、やりがいも感じられると部分は非常にいいかなと思いました。

【長谷川】映像を作ること自体に子どもたちがもう慣れているってところが、ワークショップの設定をする上で、すごい楽になりました。映像が作れないとなったら、新聞記事みたいなものを書いてもらわなければいけないのかなって思っていたんですが、映像も撮って編集もできるということだったので。それを前提にワークショップを設定することができたというのは、子どもたちのスキルに助けられた部分はありました。

あとはニュースの題材を決めようとなった時に、設定が漠然としたものを言っちゃうと、子どもたちが設定で迷うかもと事前打ち合わせの際に先生から言われていましたが実際、蓋開けてみるとその場でもう設定やテーマ決めたりとか、そのあたりは、子どもたちのスピード感っていうのは驚かされました。スプリンクラーが新しくなるとか、校長先生密着とかの設定は想像しなかったもので、いい意味での驚きでした。

専門性は発揮できましたか？

【長島】私がやったのはリテラシーの部分なので、まさに専門分野について話をしましたので十分にいかせたなと思いますし。特に能登地震の発生直後だったので実際に起こったフェイクの情報とかも事例として出すことができましたし、あとは「面確」という顔写真の確認の仕方は、現場でこういうふうにやってるんだよ、みたいなこともやったりしましたが、タイミング良く、あの後、日本テレビでテレビ報道記者のドラマの中でも面確をやったので、ドラマを授業の後に見た子どもたちは、なるほど、こういうことかとあのわかってくれたのではないかなと思います。

【長谷川】ネタを決める会議から放送するまでを順にやりましたけれど、ワークフローとしては、いつもやっていること、あとは記者の方たちとかも含めて注意しなきゃいけないところ、これが本当に正しいかどうかとかを確認するところっていうのを簡単に伝えたのですけれども、日々やっている専門的なところニュース作りっていうのは資料に落とし込んでワークショップにも落とし込むことができたんじゃないかなと思いました。

学校だからできたことはありましたか？

【長島】直に子どもたちに接して授業ができたことは、反応が直で伝わってくるので。今の小学 5 年生の子どもたちがどういうこと考えているかっていうのがすぐにわかるので、それは良かった点ですかね。逆にその裏返しというか、25 人なら 25 人のクラスの中で、やっぱりそれぞれ、ニュースの知識がある子と、知識のない子と、差がありますので、そういう詳しい子もいる中で、

3. 船橋市立金杉台小学校での実証

社会「メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ」

ニュースのことにあまり詳しくない子もいるという。バラバラのレベルの子たちにどういう風に伝えていけばいいかっていうのはなかなか難しいなと思いました。個人差があるということですね。だからクラス単位で同じことを教えるっていうのは、それぞれ差がある子たちにどう教えていけばいいかっていうのは限られた 45 分の授業の中ではなかなか難しいなと思いました。

【長谷川】学校という場で言うと、普段子どもたちがあの過ごしている場所で作るっていうことで、リラックスができたという面はあるかなと。ただテレビの現場とかニュースの現場みたいなところをより感じてもらうには、例えば学校じゃなくて日テレとかに来てもらって授業をやると、より子どもたちのテンションが上がったりとかするのはないかな、より興味を持つというか、もちろん日本テレや学校側との調整とかスケジュールも含め時間も取られて、いろいろ壁はあると思うんですけど、環境だけで言うとちょっと特別な場でテレビを学ぶみたいなことがあったりすると、いいかなと感じました。

学校教員側との関係性はいかがでしたか？

【長島】最初はこちらが勝手にニュースのことを話せばいいのかなと思っていたのですが、学校側から教科書等の資料が送られてきて、事前に担任の先生との打ち合わせの中で、「なるほど、そういうことも入れなきゃいけないのか」ということで、追加の内容を入れ込みましたけれど、こちらが伝えたいこととリンクしていることだったのでさほど、入れることに苦労したことはなかったですね。うまくはまったというか。

【長谷川】やると決まった時にニュースの作り方をの流れを教えるプラス、自分たちで作ってもらうっていう 2 つのテーマですが、1 コマ目のニュースの作り方を学ぶところでは普段あの番組とかでスタジオ解説をするとか、モニターにイラストを出してやるみたいなことを普段からやっているの、さほど構成には困らなかったかなと。演出的なところで、例えばちょっとクイズを入れるとか、ちょっと冒頭アイスブレイク的なことをやるとか、そんなに流れるには困らなかったなということですし、途中で教科書のテストの内容を盛り込んでほしいということがあったとしても、普段から、情報をちょっと追加しようか？じゃあどこに入れたらいいんだ？みたいなことは、日常茶飯事でやっているから、そんなに変わらなかったですね。あとはどこまで子どもたちがわかるかどうか、漢字を含めて小学校 5 年生で習ったっけ？みたいなことを調べながらやったりしたんですけど。その言葉がどこまでは理解できるかみたいなところは、事前に先生にも打ち合わせ段階で伺いましたけど、そういったところを気にしながらやったという感じです。

今後も教育の場に関わっていきたいですか？

【長島】準備は、それなりに時間がかかるものなので毎回違う授業をやるということであると、ちょっと負担がかかるかなという気がしますがけれども、同じような内容で、例えば毎年 5 年生にやるとか似たようなことを教えればいいので言うということであれば、やってもいいかなと思いますね。それはつまり子どもたちにニュースのことを知ってもらいたいという気持ちもありますし、

3. 船橋市立金杉台小学校での実証

社会「メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ」

児童アンケートの中にあっただよように、こうやってニュースのことに触れることによって、将来ニュースをテレビ局に入って作ってみたいとか、アックスオンっていう会社に入ってこういうことやってみたいという子が1人でも増えれば、それは私たちにとってもいいことなので、今後もやってみてもいいかなと思いますね。

【長谷川】僕自身はやって楽しかったなと思います。準備は多少大変な部分はありましたけど、やって楽しかったなと思いますし、僕とか長島部長クラスのものじゃなくても、例えば若手の中でバリバリやってる若いディレクターとかがやるとっていうのも1つ。こちら側としてのメリットも、丁寧に教えることの大切さみたいな、わかりやすく伝えることの大切さみたいなことを逆に学べるんじゃないかなと思いました。それは放送にもつながるVTR作りとかスタジオの展開とかをやることのスリルアップにもつながるんじゃないかなというのは、ちょっと思いました。継続的にやるのであれば、いろんな学校と同じこのことをやるみたいなのが出来ればよいと思います。

特別免許を取得しての教員への入職に興味はありますか？

【長島】今回やってみて、すごい面白いなと思いましたが、当然、セカンドキャリアとしてそういう道があるのであれば、僕も歳を重ねるにつれてですね、やっぱりなるべく社会に貢献をしたいという思いが強まってきてるので、そういう道があるのであれば、ありがたいと思いますね。活かせる場があるということであれば。あとは我々の先輩の人たちでも、大学でメディア論とか、そのジャーナリズム論とかを大学の教授に転職をして、第2の人生を歩まれてる方もいますので、その延長で考えれば、学校教育現場でそういうことを教えるというのはあり得る話だと思いますけどね。今回は最初はハードルというか、小学生にはちょっと難しすぎるのではないかなと、思った部分はありましたけど、実際やってみたらそんなことは全然なかったのだからハードルではなかったですね。

なので、学校教員になってニュースリテラシーを教えるっていうことはありだと思います。【長谷川】生かせる場があるのだったらっていうところは同感ですね。やっぱり手に職っていうものは、この業界ではあまりないので。自分で作り出す経験とかは、作り方みたいなものしかないんで、物理的に将来活かせるものって別にないので演出とかに関しても、そういうスキルが活かせる場が、教育の場とかっていうのは今まで想像していませんでしたが、今回の授業を行ってみて、伝えることをニュースで日々やっている者として、伝えると教えるっていうのは、割と近い距離にあるような気がしました。

授業担当教員ヒアリング調査 船橋市立金杉台小学校担任

授業全体の感想は？

まずは、こちらからお願いして授業中に取り入れて貰った内容でテストを実施したところ、全国平均以上の点数がとれました。特にメディアリテラシーの部分は満点に近かったです。また電子黒板とプリントの資料をバランスよく上手に使い、プレゼンテーションをされていたので、お願いしてよかったと思いました。

【メディアリテラシー授業】子どもたちはメディアリテラシーを自分ごととして捉えていて情報の危うさを身に染みて感じたと思います。本物のニュースの映像を出してもらって真剣に聞いて貰えました。記述テストの模範解答では「便利になった」だけでしたが、子どもたちの回答は「便利になったけど犯罪に気を付ける」「便利になったけどフェイクニュースに気を付ける」とか「便利」だけだとトラブルに巻き込まれる危険性があるので「気を付ける」ことを教えてもなかなかわからないことがあったので、実際に情報を扱う人にフェイクニュースの実例を出してもらおうのはとても実りのある時間だったと思います。

3. 船橋市立金杉台小学校での実証

社会「メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ」

【ニュース制作ワークショップ】机上よりも実習で体験して貰えて良かったです。教科書で学ぶだけでは伝わらない大変さもわかって貰えたと思います。子どもたちもギリギリのタイミングまで真剣にニュース映像を作っていたので、当日初めて完成版を見ることができました。担任が担当したのは間の2コマだけでしたので、それ以外に子どもたちは、休み時間を使ってまで取材や映像制作をしたので「大変だった」との感想が出ました。これは、「大変だったけど楽しかった」「大変で疲れた」など人それぞれなのですが、やって良かったと思う子の方が多かったように思えました。

事前準備ややりとりなどはいかがでしたか？

事前準備や調整は音楽と同様に校長先生にやって頂いたので負担はありませんでした。また事前打ち合わせはオンラインで2回、行わせて頂きましたが、あの程度でこれだけ完成度の高い授業をやって頂いたのが驚いている。正直足りない内容を後からこちらで追加しようと思っていたのですが、その必要がないくらいの完成度でした。あとニュース制作の間の2時間も担任は楽でした。子どもたちが取材に出かけたり、原稿を一生懸命書くなどしたりしていて、ほぼ手もとにいなかったからです。しかも正しい情報を掴むためにウラをとるのが難しいと(校門の工事の取材などでの情報)子どもたちの方では苦労していました。また発表後に各チームのことを講師の長谷川さんがそれぞれ褒めて頂いたのがとても良かったと思いました。こちらが褒め方の勉強になりました。

他に何か要望はありましたか？

欲を言えばですが、ニュース制作の流れを勉強するときに20秒ほどで良いので、動画で制作現場の方がお仕事をされている姿が欲しかった。その中で「編集はこんな仕事をしています」など、一言ずつインタビューを頂けたらより理解が深まるのではないかと思います。あとは1分間のニュース映像を作るのに、どれだけの人数でどれだけの時間をかけたのかを教えて欲しかった。それによって子どもたちの感じ方も変わると思ったので。

外部人材の活用についてはどう思うか？

今回のニュースの様に5コマ分がパッケージ化された授業は必要なものが揃っていて、こちらとしても負担が少なく、大変ありがたかった。普段は教科書通りの教案以外に考える時間がないので、踏み入れるまでのハードルが高かったが、いざやってみると得るものが大きかったと思います。

今後もご自身で外部人材を活用したいと思うか？

一からなんでもいいから考えてというよりは、こんなことが出来る人がいるよ、というリストがあって、さらに実情に合わせて内容に微調整が利くならよりよいと思います。そういったリストやコーディネーターがあれば各学校でもっと活用が増えると思います。

外部人材が特別免許等で入職して同僚になるとそのような手間が省けるか？

専門家は特定の一単元だけに特化している方なので、確かにその単元の授業をするときはすぐ傍にいるといろいろと聞けてありがたいのですが、その方が学校に常駐し更に担任まで持つというのは現実的ではないと思います。

3. 千葉県教育庁へのヒアリング

今回の船橋市立金杉台小学校での実証授業に合わせ、千葉県内の特別免許状交付状況や特別非常勤講師の届出状況などの近況を伺った

ヒアリング調査先:

千葉県教育庁 教育振興部 教職員課 免許班

千葉県内の特別免許状交付状況:昨年度24件だったが、令和3年度の文科省指針改定に伴い令和4年度に千葉県での基準を改定した結果、今年度は大幅増の見込み。特別非常勤講師の届け出受理数は、昨年度は800件強、本年度も今のところ800件程度受理している。

特別免許状と特別非常勤講師の違い

前者は、検定試験後に授与され、担当教科の領域すべてを教えられることを前提に教員(講師を含む)として採用される。(クラス担任の仕事も可能になる)

後者は、学校→市教委→県教委への届出制であり、届け出があればすぐに受理される。ただし担当教科の領域の一部のみ単独で授業を行うことが認められているだけ。今回のアーティスト人材で考えた場合、例えば書道家に授業を受け持ってもらうにしても国語の書写の授業など一部分、ミュージカル俳優に歌唱指導を行って貰うとしても音楽の授業の一部(楽器の演奏なども出来なければ)のみしか実施できないため、特別非常勤講師として入職して頂くのが妥当だと考える。

特別非常勤講師の届出が市教委から行われぬ事態に関して

学校から市教委経由で届け出があれば、県教委ではすぐに受理する仕組みになっている。今回、船橋市教委からの届け出が行われなかったことは、もしかすると、外部人材登用の際の謝金等予算措置に関する年度計画に従い、特別非常勤講師も年度の限られた時期以外の届け出を行わなかった可能性がある。しかしながら、これでは無償でも講師を引き受けて貰えるボランティアに対しても特別非常勤講師の届け出が限られた時期しか行えないことになってしまうので、運用に関して市教委側が勘違いをしている可能性が高い。特別非常勤講師の方は制度が出来て間もないので、まだまだ学校現場や市町村教委レベルには浸透していない可能性もある。国を含めて、都道府県教委からの更なる周知活動等が必要なのではないかと思う。

ステップアップなど外部人材活用の将来性に関して

特別非常勤講師から特別免許の取得は文科省の定めた1学期以上特別非常勤講師として授業を行った場合、推薦資格を得ることができる。

教員不足の中、学校側が多様性を求め特別非常勤講師を入職させる選択をしても、いちばん苦勞するのが、希望する人材とのマッチングであり、学校側が求める人材を速やかに紹介できる仕組みがあれば、この制度が活性化すると思う。

4. 過去の特別免許授与者への調査(アーティスト枠)

目的

本事業の主たる目的である「外部人材の掘り起こしから採用、研修・講習、学校現場での活躍まで含めた一体的なプロセスに係る実証研究」の中で、特別免許取得までの道程に関しては今回の調査研究事業の中では特別非常勤講師(間に合わない場合はゲストティーチャー)までで、将来的に特別免許取得を目指すという「やや遠い」内容となっていた。

このため本事業の成果として今後、外部発信する際に、既に特別免許を取得しているアーティスト人材の調査結果を付与することにより今回の実証モデル作りから特別免許取得までを繋げ一体的にイメージすることを目指した。

実施計画

文部科学省が各都道府県教育委員会宛てに行っている「教員免許状授与件数等調査」の過去10年ほどのデータから、特別免許状授与者の前歴として「アーティスト」であったと思われる方について抽出されたリストの提供を受け、該当する特別免許状の授与を行った都道府県教委経由で特別免許状授与者へのヒアリング調査を申し込み、応じて頂いた方に対面もしくはオンライン形式でインタビューを行うこととした。

調査内容

- ・特別免許取得までの経歴(実績等)
- ・特別免許取得を目指したきっかけ
- ・取得のために取り組んだ内容(検定を受ける際の準備等)
- ・入職後に教育現場で経験した苦労やよかったこと等(授業や担任などの業務で)
- ・アーティストの経験が教育現場で活かせていると感じたこと
- ・これから特別免許取得を目指す人へのアドバイス

調査訪問先

問い合わせた県教育委員会から学校経由で了解を得たうえで下記の3名の方について対面で調査(インタビュー)を行うこととなった。

年度	県	校種教科	設置者	内容	主な職歴
平成27	千葉	高校音楽	私立	音楽指導	自衛隊音楽隊指揮
平成27	茨城	高校工業	公立	教諭	一級建築士
令和3	福島	高校国語	公立	演劇	劇作家、演出家

アーティスト枠での特別免許状授与者紹介①



平成27年度授与(音楽)

内堀 穰 先生

麗澤中学・高等学校

芸術科・音楽

海上自衛隊音楽隊指揮者から
音楽教員(吹奏楽部顧問)へ

音楽との出会い

音楽に興味を持ったのは生まれ育った信州中野という環境によるものが大きかったと思います。小学校のクラス担任が音楽指導に熱心で合唱コンクール3位に入賞した経験がありましたが、その時、先生は私たちにソルフェージュ(楽譜を読むことを中心とした基礎訓練)を学ばせてくれていたのです。また毎年のように地元の中野市民会館に優れた音楽家が招かれていましたが、中学校の時に恩師に引き合わされた齋藤秀雄氏(小澤征爾氏の師匠にあたる世界的指揮者・指導者)の前で「将来は指揮者になりたい」と語ったことが音楽家への道を作るきっかけになりました。

海上自衛隊音楽隊へ

父を早くに亡くしたこともあり、経済的な事情から音楽系の大学進学をあきらめていた中、周囲の勧めで自衛隊へ入隊し音楽隊に配属されました。音楽隊ではホルン奏者としてスタートしましたが、その後、国内留学制度を使い、東京芸術大学指揮科で学び、指揮者としての道を歩むことになりました。

主な国家行事としては、大喪の礼、即位の礼をはじめとして、万博やオリンピックでの演奏、また震災などの被災地への災害派遣や災害派遣演奏なども行いました。

教員を目指すきっかけ

東西冷戦下に東京ドームが完成(1988年)した時のオープニングセレモニーで自衛隊音楽隊として参加演奏した際、世界中から様々な音楽家が国境や思想を超えて共演する姿に感動しました。さらに翌年のベルリンの壁崩壊でも音楽の力によるものを目の当たりにして、もっと音楽を勉強し、さらに次の世代に伝えていく仕事をしたいと思うようになっていきました。

麗澤中学・高校へ

麗澤中学・高校で毎年実施されるイベント「伝統の日」で演奏を行う吹奏楽部の指揮を依頼されたことがきっかけで、特別免許状を取得し教員になる道を選びました。検定を受けるにあたっては、2名の推薦者が必要でしたので、高校の恩師と自衛隊の上司にお願いしました。検定は専門家複数名による面接でした。

アーティスト枠での特別免許状授与者紹介①

教育現場に入ってから

吹奏楽部の顧問として、音楽好きな子どもたちをさらに伸ばしていくことに心がけた結果、数々の大会で優秀な成績を残し、教え子たちは芸大や音大などに進み、指揮者や舞台監督、国際音楽コンクール優勝など、みんな立派に育ってってくれました。一方で、麗澤高校は進学校なので、芸術科目などに興味を持たない生徒も少なからずいて、彼らに少しでも音楽に興味を持ってもらえるよう、バランスをとって授業を行うことを心掛けました。



音楽室に飾られるトロフィーの数々

今後、特別免許を目指す方に一言

音楽に対する思いは人それぞれ、たくさんお持ちかと思います。その思いが強ければ、いつか音楽の世界に活躍の場を与えてもらえるかもしれません。ですが活躍できることは決して自分だけの力によるものではなく、多くの方々との関わりの中で成し遂げられたことなのです。そのことを伝えていかなければならないと考えます。また著名な作曲家であり指揮者だったバーンスタイン氏も晩年は自分に残された人生は教育に使いたいと語った言葉に私は感動し、教育で音楽の素晴らしさを伝えていかなければならない、これが出来ない世界平和も実現できないと感じました。なぜなら音楽とは戦争やテロなど暴力に訴えなくても、しっかりと人の心に伝わり動かしていくものなので、これを教育の力で次の世代に伝えていかなければならないものと考えたからです。そこで学んだ人がさらに次の世代に伝え、世界がより良い方向に向かうことを信じています。

アーティスト枠での特別免許状授与者紹介②



平成27年度授与(工業)

鈴木 勝 先生

茨城県立水戸工業高校
建築科

建設会社(一級建築士)
から工業高校建築科へ

これまでの経歴

大学の建築学科を卒業後に建設会社に入社し一級建築士の資格を取得。会社では主に戸建て住宅の設計業務や現場管理を行っていました。別の建設会社に移った後は集合住宅、商業施設、医療施設の現場管理も加わりました。

教員を目指すきっかけ

一級建築士(監理技術者)としての経験を通じ、建設分野での多岐にわたる挑戦や責任を経験しました。施工管理の職に就き、プロジェクトの計画から実行、完成までの一連のプロセスに深く関与しましたが、その中でも、特に、東日本大震災後の福島県での復興の経験、翌年に起きたつくば市での竜巻被害地や茨城県常総市での河川氾濫地域での活動は、私にとっては忘れられないものです。被災地での活動は、単なる建築活動以上の意味を持ちました。被災者の方々の生活再建のために働くことは、私にとって誇り高い瞬間であり、同時に責任の重さを痛感する機会でもありました。これらの経験を通じ、社会貢献や人々の支援に対する熱意と責任感が一層強くなる中、教育関係の仕事をしてきた叔父からの影響や助言を受け、教育者への転身を考えるようになりました。

教育者としての志は、学生たちが自らの可能性を見出し、それを追求するための手助けをすることです。私の経験や知識を通じて、学生たちが自信を持ち、自己実現を果たすためのツールとしての教育を提供したいと考えました。また、建築の現場で培ったリーダーシップやチームワークの精神を生徒たちに伝え、彼らが社会で活躍できる力を身につけられるようにサポートしたいと思っています。私の経験と情熱を教育の場で活かし、次世代のリーダーたちの育成に貢献することが、私が特別免許状を取得し教職に就こうとしたきっかけです。

特別免許状の取得に向けて

茨城県で特別免許状を得るためには、まずは一般的な教員採用試験に合格する必要があります。私はこれを達成するために、試験対策(教職教養及び一般教養、集団討論、個人面接、小論文)を行いました。その後、県教育委員会が実施する特別免許試験に合格することが必要となりました。こちらは主に面接でした。

教育現場に入ってから

新型コロナウイルスにより、学校閉鎖やオンライン授業への移行による生徒たちの不安やストレスが増大し、学習意欲や成績に影響を与える要因となりました。これらの問題に対処するために、個別のサポートやカウンセリングが必要とされ、教員としての負担が増加する事もありました。

アーティスト枠での特別免許状授与者紹介②

また教育現場での問題や課題が表面化し、その解決に向けた取り組みの中で教員として、これらの問題に真摯に向き合い、生徒たちの健やかな成長と社会への貢献に努めることが求められます。専門知識・専門分野を仕事に活かし、その分野の魅力を授業で生徒たちに伝えられることで、ただ教科書の知識を教えるだけでなく、自分の専門分野に興味を持ってもらうことが、この仕事での大きな魅力です。どの分野の仕事でも同じように、自分自身のスキルアップや人として成長できることが、やりがいとして感じます。

専門知識や経験が活かされていると感じたこと

建築業界では、計画から実行、監視、報告までのプロジェクト管理が不可欠です。この経験は、教育現場でのクラスやイベントの計画や実施にも活かされます。私は培ったスキルを生徒たちの学習に活用し、自らの学びを管理し、成果を達成する手助けをしています。建設業界ではコミュニケーションが欠かせませんが、この経験は教育現場でも重要であり、円滑なコミュニケーションを図れます。また建築業界では設計思考が重要視されますが、これは教育現場でも有益です。私は生徒たちに設計思考の考え方を導入し、問題解決やアイデアの創出を促す教育活動を行っています。

建築業経験者は、実際の建築現場での経験や実務知識を生徒たちに伝えることができます。現場でのノウハウや実際のプロジェクトの経験を通じて、生徒たちに実践的な知識を提供することができます。建築科のカリキュラムにおいて、実務に即した内容や技術を取り入れることができます。これにより、生徒たちが将来建築業界で活躍するための準備がより充実したものになると考えます。

今後、特別免許を目指す方に一言経験や知識は、教育現場での活動に大きなアドバンテージとなります。自身の経験を活かし、生徒たちに貴重な知識やスキルを提供することができると思います。特別免許状を目指す過程で、教育関連の知識やスキルを向上させるための学びを継続して行うことが重要です。教育の最新トレンドや教育法の理解を深めることで、より良い教育者として成長することができると感じます。

ご自身の今後

私の経験とスキルを教育の場で活かし、次世代のリーダーたちの育成に貢献することが、私の今後の目標です。また自分自身が成長していけるようにしていきたいです。

アーティスト枠での特別免許状授与者紹介③



令和3年度授与(国語)

高山 さなえ 先生

福島県立ふたば未来学園中学高校

近松賞受賞者 劇団演出家から
演劇教員(演劇部顧問)へ

これまでの経歴

地元である長野県松本市で大学を出てから、平田オリザさんの「青年団」で演出部をしていました。青年団演出部が去年解散したことに伴い退団していますが、私が近松賞を受賞した作品「馬留徳三郎の一日」で、平田オリザさんが演出をしてくださり、レパートリー化され、昨年度も再演という形で、西日本を中心に公演をしているため、今でも関わりは続いています。20年以上在籍していた劇団なので劇団員同士が家族に近いような感じでもあるので。

教師を目指すきっかけ

学生時代に教職課程をとっていましたが、免許取得までは至りませんでした。ただ劇団で活動する傍ら、家庭教師や個別指導塾での講師などアルバイトを通じて教える仕事はしていました。また劇団での雇用が不安定だった時期に母校の高校から教員にならないかと誘いを受けたことがありましたが、演劇を諦めることが出来ずにお断りした事もありました。結局免許が取れてなかったのもので、

私のあの時の判断は間違っていないでして。そうした中、劇団関係者の方から、福島県の教員採用試験で、教員免許状が無くても優れた受賞歴等の実績がある者を対象に、演劇の教員を募集しているという話を聞いたのですが、それが締め切り前日で慌てて書類を準備し、翌日の期限ギリギリのタイミングで提出しました。

教員採用試験に向けて

応募書類提出後に特別選考を受けることになりましたが、内容は小論文と面接が3回ほどありました。小論文は演劇以外も含めた受験者全員で受けましたが、面接は私単独でした。特別選考の対策としては面接で何を聞かれても理論立てて答えられるよう事前に演劇教育に関する本を何冊も読みました。

教育現場に入ってから

一年目は、覚えることも多く慌ただしく過ごして終わってしまった印象です。やる仕事の種類も多く、行事などを含めて学校での一年間の流れを掴むため、毎日が勉強でした。

アーティスト枠での特別免許状授与者紹介③

覚えていることと言えば、学校の着任のあいさつで国旗にお辞儀をする作法など、演劇とは違う世界に来たのだなとか、県教委の初任者研修では自分よりずっと下の世代の方々を受講したことなどでした。学校では探究活動として、バスツアーを行い地域の課題を調査するのですが発表はフィクションも交えて演劇形式で行い、そこを指導しました。

専門が活かせたと思えたことは？

二年目の今年は慣れない中で、中学生の国語を指導しました。国語の授業を詰め込むだけでは生徒も疲れると思い、戯曲の書き方をシンプルに説明して自由に書かせることができましたところ、中3の生徒たちから夏休みの課題は戯曲を書かせて欲しいと言われました。いいですよと言ったら大勢の生徒から、やった、と喜ぶ声を聞こえてきて、もちろん全員ではないのですが、すごく嬉しかったことを覚えています。

今後、特別免許を目指す方に一言私のように演劇関係者が今後もっと学校で教える機会が増えれば良いと考えています。理由は日本の芸術分野では演劇の地位は西洋に比べて極めて低いものと感じているからです。音楽や美術の科目はあるのですが、演劇は残念ながら科目としてはありません。欧米では高校の選択授業で普通に演劇があるのにです。来年度からふたば未来学園高校では演劇の授業が加わりますが、これをきっかけに福島県から演劇の授業が増えていくのではないかと期待しています。そして今後の学習指導要領改訂に演劇の科目が入ってくれたらと願っています。そうなればもっと演劇の地位が高まるきっかけになると思いますし、そのためには私も含めた演劇関係者の多くが教育現場で活躍することだと考えます。ですので今後、特別免許での採用の機会があれば是非とも多くの方に挑戦して欲しいと思っています。



ふたば未来学園にある演劇ホール「みらいシアター」
ここで演劇部の活動に加えて演劇の授業も始まる

5. 各種調査のまとめと提言

アンケート及びヒアリング調査

本事業の調査研究結果をとりまとめるため、実証授業の終了と共に速やかにアンケート調査及びヒアリング調査を実施した。内容は下記の通り。

- 実証授業実施校の児童・生徒アンケート4授業分(紙ベース)
- 実証授業実施校の教員アンケート2校分(オンラインベース)

アンケート文案作成及び教員アンケートサイト設置は再委託先である(株)パスコが行い、集計及び分析を行った。(結果はP49以降を参照のこと)

- 実証授業実施校の教員ヒアリング4授業分
- 実証授業実施の外部人材ヒアリング4授業分
- 特別免許状取得者ヒアリング3名分
- 教育委員会ヒアリング2県分

ヒアリング文案作成は(株)パスコが行い、調査は日テレアックスオンが対面もしくは、オンラインで実施した。(ヒアリング内容に関しては、2. 川口市、3. 船橋市、3. 特別免許授与者の項を参照、分析結果はP113以降を参照のこと)

結果のまとめ及び提言

3/19(火)に調査研究担当のお茶の水女子大学担当者(千葉教授、植竹特任講師)及びパスコ社担当者、日テレアックスオン担当でオンライン会議を開催した。千葉教授及び植竹特任講師は、事前の実証授業に立ち合って頂いた上で、各種アンケート・ヒアリング調査結果及び実証授業実施報告を行った後、ご意見、ご感想を頂き提言をまとめた。

結果

授業アンケートから受講した児童・生徒側からは9割以上が好意的な反応がある一方、教員側では授業そのものは好評価であるものの、自分の担当教科での外部人材の活用を自力で行うことに関しては、一部でネガティブな考えもある。その理由として、外部人材との調整や手続きをするのが負担と感じるためだ。外部人材を呼ぶくらいなら自力で行った方が早いし楽だと感じる傾向が小学校の方ではより顕著になる。このため教育現場の負担を軽減する目的でのアーティスト人材のリスト化や授業内容のパッケージ化、学校側とアーティスト人材を繋ぐ授業コーディネーターの存在は不可欠であることが確認された。

また学校側が求めるのはトップレベルのアーティスト人材であるが、秀でた才能を持つ人材は教育に関わることは前向きでも特別免許等を取得しての学校現場への入職(常勤化)にはためらいがあった。

5. 各種調査のまとめと提言

提言

1. アーティスト人材の教員としての入職拡大に向けては、アーティスト見習い世代(若手)に対する教育への様々な参入機会(特別非常勤講師の制度を積極活用することでの学校授業への参画拡大)を提供する一方、トップレベルのアーティスト人材に対しても引き続き教育活動への積極的な参加を促していく場を設ける必要がある。(都道府県及び市町村自治体への更なる外部人材活用への予算確保が必要)
2. 学校現場とアーティスト人材双方の負担を抑えて且つ、多くの児童・生徒が満足できる高いレベルの授業を実施していくための下記の仕組みの構築を次年度以降に速やかに行うべきである。
 - ①アーティスト人材のリスト化及びその特性を活かした授業パッケージの作成
 - ②学校現場とアーティスト人材とを結び付け、授業設計や日程調整などをコーディネートできる人材の育成及びそれらをとりまとめる機関の立ち上げ。

会議での主な発言概要

千葉教授

今回の調査結果をみると、外部人材活用は 受益者である子どもたちはすごく高く評価している一方で、教員側はトップアーティスト人材を求めているけど、打合せや調整がすごく大変だということ等がなんか相反してるような感じがする。教育現場は多忙を極めているため、手間をかけずに今回の授業のようなトップアーティスト人材の方々に来て生徒たちを引きこんで、すごい話をしてもらえたら大歓迎であるという現場のニーズをある程度理解をしていて、外部人材をうまく入れ込む仕組みが必要。つまりは授業コーディネーターがいないと成立しないということが分かった。だから、そういうコーディネーター人材の育成やスキルアップも含めて恒常的に外部人材を流し込むような仕組みがないと現場の手間暇のかかるというアレルギー感をなくすことが難しいと思った。

またアーティストは引退もないし、定年もない。そういう人を学校教員として入職させるのは、なかなか難しいと思う。けれども見習い的な若い人を少しの期間、教育現場に大勢入れて体験させるということも含めてこの事業を続けていくのが重要ではないかなと思った。芸術の世界で必ずしもプロでやっていない人は、世の中にたくさんいるわけで、しばらくは頑張り続けるけれども、そういう人に普通の会社員になったりせずに、学校現場もあるよということを周知させ、社会的な仕組みを作って入っていただくのがいいのではないかな。最初はプロとしてやっていくつもりの人で、途中で諦めるというか、別の方向を考えた人を入れ込むということが、全然違う視点を持った人が学校現場に入っていくということになり、別にトップアーティストでなくても子どもたちにとってはいいかなと思うんですけど、その仕組みをもう少し考えて作っていくということですかね。

また船橋の実証授業は学校長が特別非常勤講師として申請したものを市教委側の都合で止めていた事務手続き上の問題なので、アンケートやヒアリング調査の内容を今回の調査結果に組み込んでも問題はないと認識している。

5. 各種調査のまとめと提言

植竹特任講師

今回、どの授業も簡単に言うとプロフェッショナル感が出ていて、例えば音楽の授業でも歌唱技術とか教えるだけではなく、歌う時の視線とか姿勢とか、そういうところが変わると、こんなに変わるんだ。子どもたちも実際歌って、ちょっとアドバイスをもらったら、こんなに変わったというのは実感してると思うんですね。やっぱり専門家の方は視点が違うなと思って。どの授業もそうだったのですけれど、専門的な授業は良かったと思います。例えばVRの授業とかは、希望制でしたし、ちょっと遊びに向いてしまう感じだったんですけど、授業の中で外部人材講師の先生が実際に今こういう技術はこういうことに使われている、例えば車の設計では、昔はクレモデルを作っていたのだけれど、今はVRを使うんだよ、そうすると、こういうところにメリットがあるよみたいなところも具体的に話されていましたよね。クレモデルは1回削ると元に戻せないけど、VRだったら何回も作れるし、光の加減を変えたりもできるよねとか、その場に集まらなくても、いろんな国の人と一緒にディスカッションできるよね、など実際、仕事として使われているんだよっていうことをどの講座でもちゃんと話が出ていたので、私はこれが専門家、学校の先生が教えているんじゃないという感じで、すごい良かったなと思っています。

千葉先生の見習いの方を入れては？ということ、とても分かります。

バリバリのプロフェッショナルな方ではなくて、見習いの方を入れることで特別免許状で入職する外部人材を増やす。でもそうするとやっぱりプロフェッショナル感は薄れると思うんですね。より普通の先生に近づく感じ、子供たちから見たとしても、特別免許状で入ってしまうと、通常の先生と同じ業務をしなければいけないわけですよ。過去に特別免許状を授与された3人の先生の調査がありました。担任とかも持たれたりしていますよね。やりたい人を見つけるということも難しいですけれど、受け入れ先の現場の先生方の意識が結構大きいと思って。特に今回おそらく小学校の先生の方がちょっとネガティブ感が出ていると思うんですけど、それはやはり現場の学校の先生は自分たちと同じ仕事をしてくれる教員が欲しいんですよ。今回みたいにスポット的にそういう方が来てくれて授業をしてくれるっていうのはウェルカムなんですけど、おそらく特別免許で自分たちと同じことが本当にできるの？頭数だけ増えても自分たちがやらなきゃいけないことが逆に増えるのでは？とかいうことに対しての心配っていうか、そこがすごいネガティブに向かっているところだと思うので、そこは難しいですよ。

アックスオン担当

今回のようなトップアーティストのみなさんが、特別免許を取らないまでも特別非常勤講師などで月に何回とか週に1回来てもいいよという流れをうまく拡大しつつ、一方でアーティスト見習いの方に教育現場を体験させるという方式で、教育の道に進む機会を与えるという2段階構えで今後臨んでいく方向でいかがでしょうか？

パスコ担当

今回のアンケートの中で好ましい活用形態というところがありまして、常勤の教員として来てほしいところは必ずしも多くなく、特別免許状を取得し、その先生に常勤教員になってほしいという発想が現場とマッチしていないんじゃないのかなっていうところはアンケートからは見られました。あとは先生方のおっしゃっている通りだと思います。

6. 外部への情報発信について

外部人材活用事業の周知を目的に本調査研究事業の情報発信を提案当初は積極的に行うことを想定していたが、受託時に「テレビの視聴率稼ぎのコンテンツにならぬように」と審査委員側からのコメントがあったことや、社内からも外部講師内定者を興味半分で取材をしようとする動きもあったことから、情報発信は最低限に止めて、事業を安全確実に運営することを優先した。また授業記録映像も外部公開向けから実証校教員及び外部人材講師などの振り返りや検証用に活用された。

1. 会社ホームページからの情報発信

川口市立高校での1回目の実証授業と直前に実施した埼玉県立総合教育センター事前研修の様子を記事にして発信した。総合教育センターのホームページからもリンクを貼って頂き、記事を読覧できるようにした。



埼玉県総合教育センターのHP



日テレアックスオンのHP記事

2. 船橋市広報からの情報発信

船橋市立金杉台小学校での最終の実証授業に市の広報から取材が入り、WEB広報誌「まいふな」で卒業式に向けての歌唱指導を行う授業の様子を記事として掲載された。この際も記事の内容に関しては必要最低限の情報発信に止めて、卒業前の子どもたちに注目が集まるよう、工夫した。



「まいふな」に掲載された記事

今後

3月末の本事業終了後、4月以降に弊社ホームページ及びエンタメニュースサイトなどから、外部人材活用事業を実施した報告記事を掲載する予定。

別紙

株式会社日テレアックスオン御中

文部科学省「学校教育における外部人材活用事業」
(アーティスト人材に関する実証研究)における調査業務
報告書

令和6年3月

株式会社パスコ

事業概要

実施概要

趣旨・目的

- 多様な経験を有する外部人材を学校現場で積極的に活用するため、外部人材と学校現場をマッチングし、将来的に特別免許状等の取得により教員として入職を目指すことを前提とした講習・研修を研究する一体的な支援体制(仮称:アーティスト・ティーチャーズバンク)実現の可能性を将来に向けて外部人材が正規教員として入職することによる学校現場における成果に関する実証研究
- うち、本報告書では、外部人材の学校教育現場での活用状況や実証授業後の課題調査のためのアンケート、ヒアリング調査について記載する。

実施内容

- 実証授業実施校の児童・生徒アンケート
- 実証授業実施校の教員アンケート
- 関係者・機関ヒアリング
 - 実証授業実施校の教員ヒアリング
 - 実証授業実施の外部人材ヒアリング
 - 特別免許状取得者ヒアリング
 - 教育委員会ヒアリング

実施期間

- 令和5年12月～令和6年3月

実証事業

- 本事業において実施された実証事業は以下のとおり。

実証授業一覧

	実施校	授業名	教科	対象学年	講師(敬称略)	実施日
1	千葉県船橋市立金杉台小学校	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 1回目(クラス毎)	音楽	小学5年生 小学6年生	天寿光希 (俳優・アーティスト)	1月30日 1月31日
		〃 2回目(5,6年生合同)	音楽	小学5年生 小学6年生	〃	3月4日
2	千葉県船橋市立金杉台小学校	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ_1回目(講義形式)	社会	小学5年生	長島崇彦 (日テレアクセスオン ニュース部)	2月9日
		〃 2,3回目(ワークショップ形式)	社会	小学5年生	長谷川智彦 (日テレアクセスオン ニュース部)	2月14日 2月21日
3	埼玉県川口市立高等学校 附属中学校	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業	総合	中学1年生	千北英倫子 (フリーアナウンサー)	3月6日
4	埼玉県川口市立高等学校	VR(Virtual Reality)アート制作	美術	高校1年生 高校2年生 (希望者)	小原宏文 (日テレアクセスオン クロステック事業部)	1月15日 1月26日

実証授業実施校の児童・生徒アンケート

調査概要 実証授業実施校の児童・生徒アンケート

- 目的 : 児童・生徒による、実証授業及び講師の評価
- 調査対象 : 実証事業実施校の児童・生徒
- 調査方法 : 調査票によるアンケート調査
- 調査期間 : 令和6年1月～3月(各実証授業直後に実施)

調査項目

- 満足度
- 理解度
- 教え方の工夫
- 関係する仕事への就業意向
- 専門家への敬意
- 知識の獲得
- 有用性
- 今後の受講意向
- 他者への推薦意向
- 感想

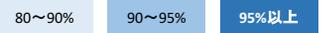
回答者数

	授業名	教科	学年	回答数
1	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 1回目(クラス毎)	音楽	小学5年生 小学6年生	89
	〃 2回目(5,6年生合同)	音楽	小学5年生 小学6年生	90
2	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ_1回目(講義形式)	社会	小学5年生	44
	〃 2,3回目 (ワークショップ形式)	社会	小学5年生	46
3	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業	総合	中学1年生	78
4	VR(Virtual Reality)アート制作	美術	高校1年生 高校2年生 (希望者)	11

授業の感想(全体要約)

- いずれの授業も「理解できた」「専門家の先生はすごいと思った」が9割を超える。
- 「満足した」「教え方が工夫されていた」「新しい知識が得られた」「今後もこのような授業を受けたいと思った」も8割を超える。

授業名	教科	学年	回答者数	そう思う 計（「そう思う」「ややそう思う」の計）（％）									
				満足した	理解できた	教え方が工夫されていた	興味を持った	関係する仕事に就きたいと思った	専門家の先生はすごいと思った	新しい知識が得られた	自分にとって役に立つと思った	今後もこのような授業を受けたいと思った	他の人にも聞かせたい内容だった
卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導_1回目(クラス毎)	音楽	小5、小6	89	95.5	91.0	92.1	83.1	31.5	96.6	84.3	79.8	89.9	80.9
卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導_2回目(5,6年生合同)	音楽	小5、小6	90	88.9	91.1	92.2	73.3	25.6	90.0	87.8	74.4	83.3	74.4
メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ_1回目(講義形式)	社会	小5	44	93.2	93.2	100.0	84.1	54.5	93.2	95.5	84.1	93.2	84.1
メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ_2,3回目(ワークショップ形式)	社会	小5	46	87.0	91.3	89.1	78.3	50.0	91.3	87.0	67.4	80.4	71.7
コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業	総合	中1	78	100.0	98.7	100.0	94.9	21.8	100.0	96.2	98.7	96.2	94.9
VR(Virtual Reality)アート制作	美術	高1、高2(希望者)	11	90.9	90.9	100.0	90.9	45.5	100.0	100.0	90.9	90.9	100.0



授業の感想(主な感想要約)

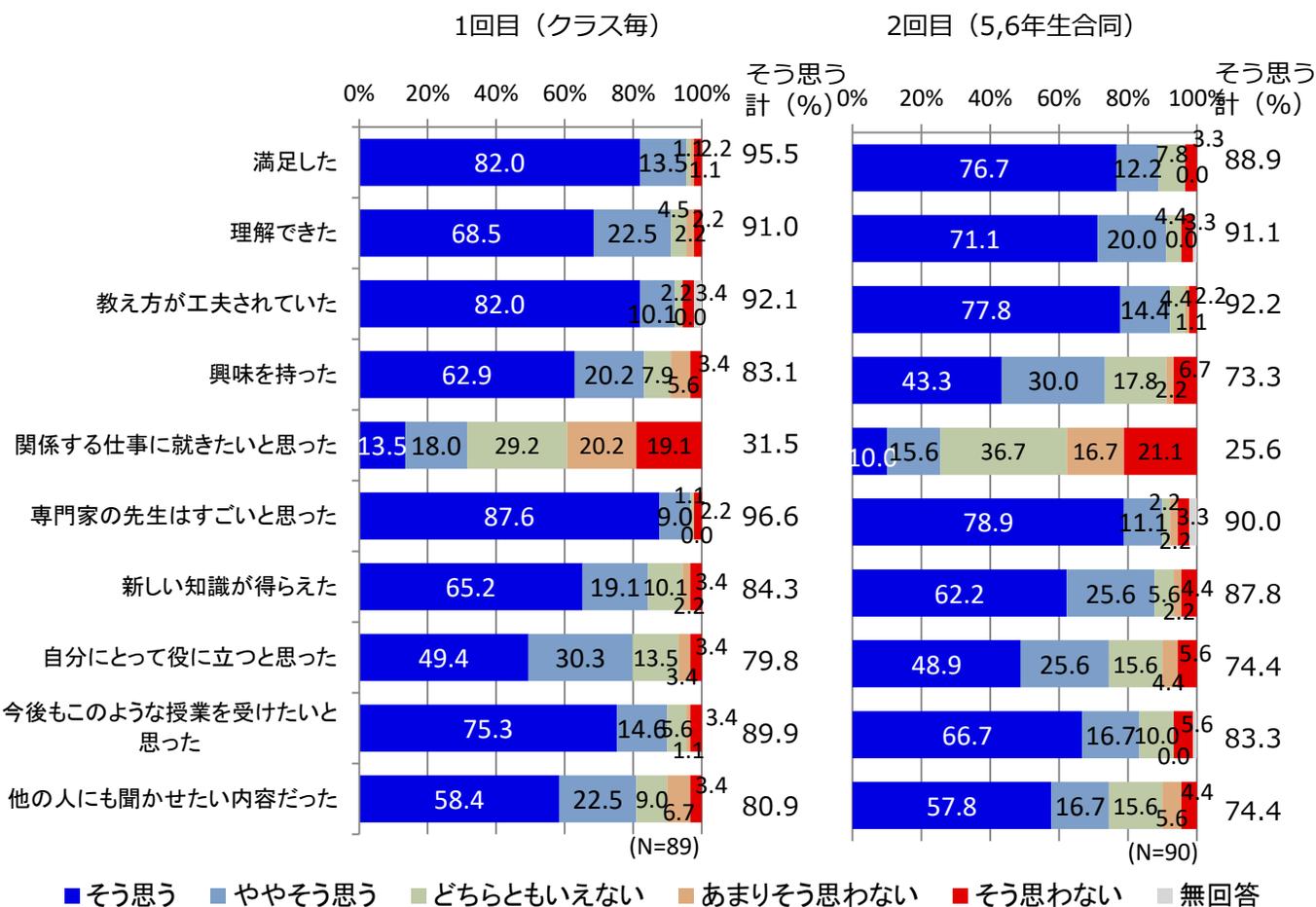
- 専門家の「本物」としての知識と能力、指導力が評価されている。
- 授業は工夫されており、楽しく、児童・生徒にとって初めての経験を与えることができる。
- それぞれ、専門家が持つ知識が伝えられており、自身の能力の向上、苦手意識の克服、今後の意欲につながっている。

授業	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業	VR(Virtual Reality)アート制作
講師	俳優・アーティスト	日テレアクセスオンニュース部	フリーアナウンサー	日テレアクセスオンクロステック事業部
専門性	<ul style="list-style-type: none"> • 専門家はすごい。 • 歌声がきれい。 • 先生の指揮でみんなの声が変化した(すごい)。 • やる気を引き出すのが上手い。 	<ul style="list-style-type: none"> • フェイクを見抜く専門家はすごい、かっこいい。 • ニュースを作る人はいたいへん。 	<ul style="list-style-type: none"> • 本物のアナウンサーならではの体験だった。 • 話し方、表現が優れている。 • お手本にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 専門家の指導がわかりやすかった。
授業・指導法	<ul style="list-style-type: none"> • 明るく楽しい授業だった。 • 知らなかったことを学べた。 • 人生のグラフが面白かった。 	<ul style="list-style-type: none"> • プリントがわかりやすかった。 • ニュースづくりが楽しかった。 • 自分が作ったニュースを見てもらい、アドバイスをもらえてうれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> • インタビューを通じて交流できた。 • 実践的な授業で知識が身に付いた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 普段はできない体験ができた。 • 役に立った、刺激を受けた。
内容・身に付いたこと	<ul style="list-style-type: none"> • 歌い方、呼吸の仕方がわかった。 • 歌う前のウォーミングアップが役立った。 	<ul style="list-style-type: none"> • デマ・詐欺についてわかった。 • 情報のメリット・デメリットがわかった。 • ニュースや情報発信には手がかかっていることがわかった。 • ニュースの作り方がわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 具体的で有用な知識を得ることができた。 • 生涯役立つ知識が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> • VRの可能性を感じた。 • VRに絵を描く体験が楽しかった。
反省点・課題	<ul style="list-style-type: none"> • 声が出るようになった。 • 歌が上達した、自信につながった。 • 音楽の授業が楽しくなった、好きになった。 	<ul style="list-style-type: none"> • フェイクニュースに注意しようと思った。 • ニュースやアナウンサーに興味を持った。 • ニュースにかかわる仕事をしたいと思った。 • 教わったことを活かしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分のプレゼンテーションの改善につながった。 • 苦手意識を克服できそう。 • 教わったことを授業や将来の仕事に活かしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 絵が苦手な自分にとって有用と感じた。 • 創作意欲が湧いた。

1.卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 (小学校5,6年生 音楽)

- 9割以上の児童が「満足した」(1回目)、「理解できた」「教え方が工夫されていた」「専門家の先生はすごいと思った」と回答している。
- 「興味を持った」(1回目)、「新しい知識が得られた」(1回目)、「今後もこのような授業を受けたいと思った」「他の人にも聞かせたい内容だった」も8割を超えている。
- 約3割が「関係する職業に就きたいと思った」と回答している。
- 「新しい知識が得られた」は1回目よりも2回目の授業の評価が高く、「満足した」「興味を持った」「関係する仕事に就きたいと思った」「専門家の先生はすごいと思った」「自分にとって役に立つと思った」「今後もこのような授業を受けたいと思った」「他の人にも聞かせたい内容だった」は1回目の評価が高い。

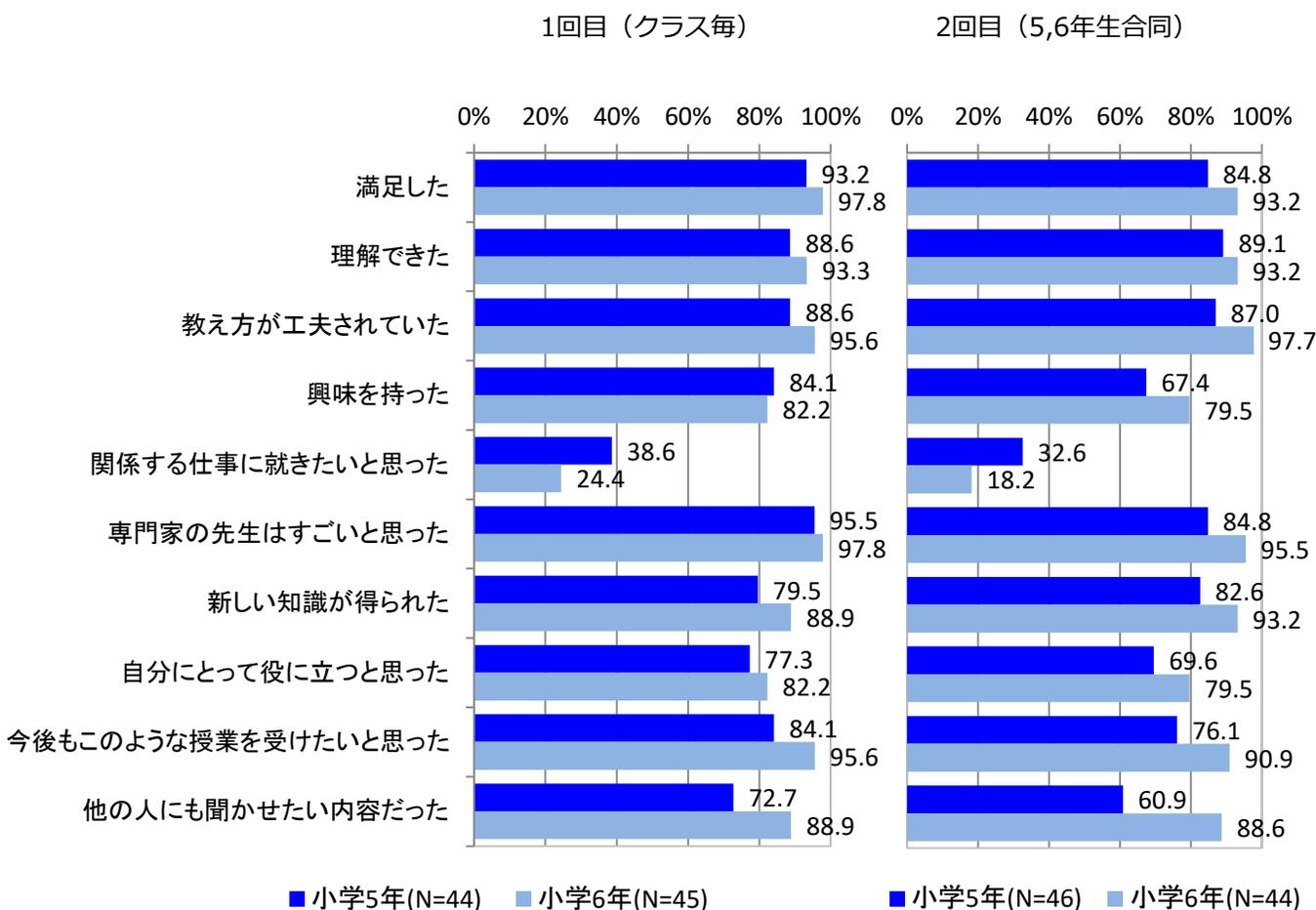
卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導



1.卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 (小学校5,6年生 音楽)学年別

- ほとんどの項目では5年生よりも6年生の評価が高い。特に「他の人にも聞かせたいと思った」は5,6年生の差が大きい。
- 「興味を持った」(1回目)、「関係する職業に就きたいと思った」は6年生よりも5年生の評価が高い。

卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導（そう思う計）学年別



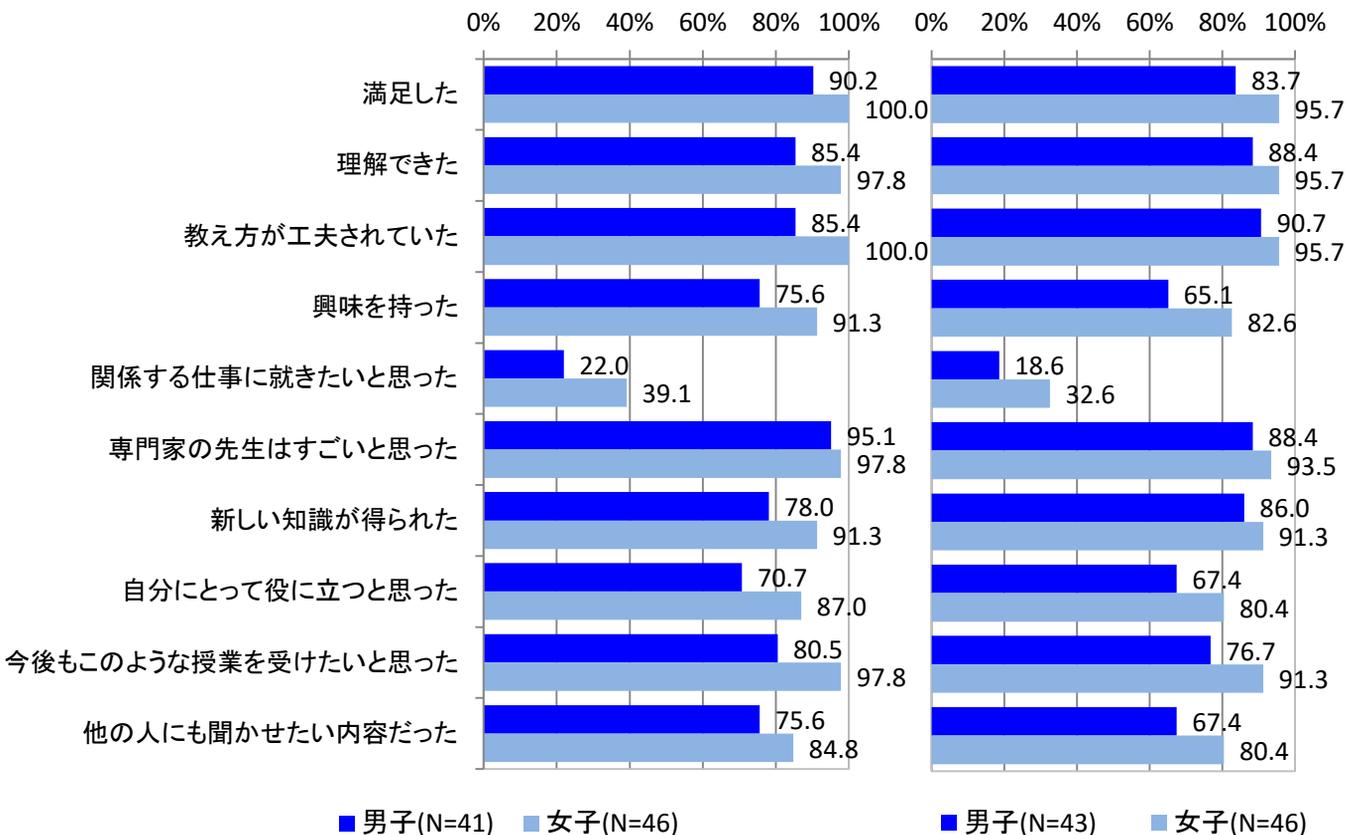
1.卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 (小学校5,6年生 音楽)性別

- 全ての項目で、男子より女子の評価が高い。

卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導（そう思う計）性別

1回目（クラス毎）

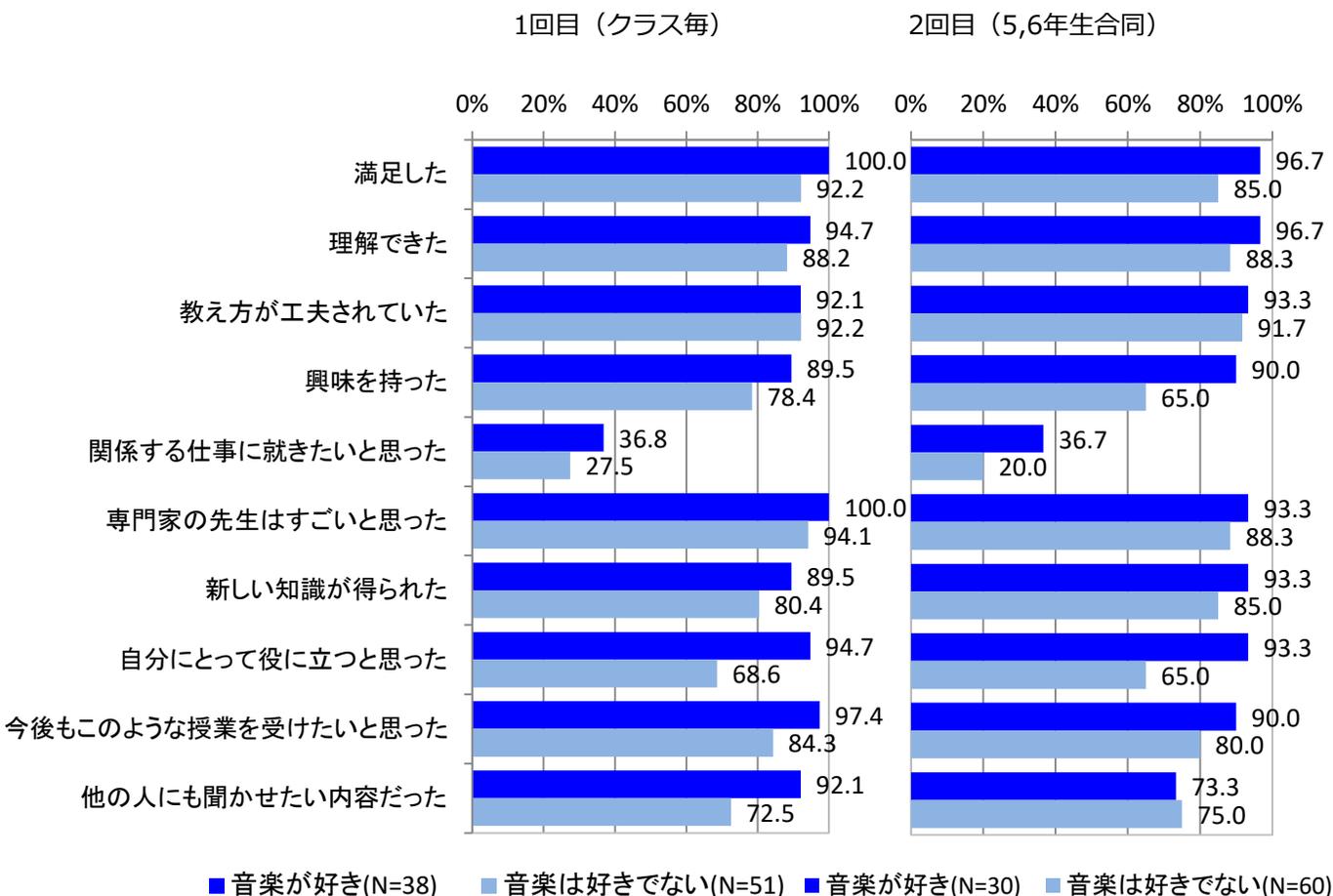
2回目（5,6年生合同）



1.卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 (小学校5,6年生 音楽) 音楽の好き嫌い別

- ほとんどの項目で音楽が好きな児童の評価が高い。特に「自分にとって役に立つと思った」「興味を持った」(2回目)は20ポイント以上の差がある。

卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導（そう思う計）
音楽の好き嫌い別



1.卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 (小学校5,6年生 音楽)主な感想(抜粋)

- 専門家はすごい。
 - 本物の歌を聞いてびっくりしたし楽しかったです。もっとこういう授業をしたいです。
 - プロのすごさを肌で感じて謎の鳥肌がたった。
 - 満足はできなくて、あまり楽しくもなかったけど、専門家はすごいと思った。
 - 専門家の先生が来てわくわくした。
 - きちんとした感じではなく、楽しさを優先していて憧れるような存在だった。
- 歌声がきれい。
 - 先生はとてもすごく人生の中で一番きれいな歌声でした。
 - 歌がすごく上手で表現がすごかった。
 - 自分もいつかあんなきれいな高い声を出せるようになりたい。
 - 歌声がとてもきれいだった。一人で歌っているのに声がみんなより大きな声を出していてすごかった。
- 先生の指揮でみんなの声が変化した。
 - 指揮によってみんなの声が変化した。
 - 指揮をするだけでみんなの声が変わってすごかった。
 - 先生の指揮で、こんなにも変わるんだとびっくりした。
- やる気を引き出すのが上手い。
 - 人のやる気を引き出すのが上手な人だと思った。歌が好きっていう気持ちが伝わってきて、そこに引っぱられる感じ。

1.卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 (小学校5,6年生 音楽)主な感想(抜粋)

- 明るく楽しい授業だった。
 - 楽しくお話ができたし、すごく満足できました。
 - ふざけながらもいろいろ勉強になって楽しかった。
 - とても明るく楽しい授業だった。
 - 先生がポップで楽しかったし、わかりやすかったので、音楽の先生になってほしいと思いました。
 - おもしろいし、生徒の関わりがよかった。優しい。
- 人生のグラフが面白かった。
 - 折れ線グラフの人生版がおもしろかった。
 - グラフに人生をかいていたやつがわかりやすかった。
- 知らなかったことを学べた。
 - とても楽しかったし、いろいろ新しく知ったこともたくさんありました。
 - 今まで教えらえたことがないような物までしっかり教えてくれてうれしかったです。
 - 知らないこともあってすごいと思った。
 - 音楽を改めて知れてよい機会でした。
- 歌い方、呼吸の仕方がわかった。
 - 息の使い方が分かりやすかった。
 - 歌の歌い方をとてもわかりやすく教えてくれてとてもよかったです。
- 歌う前のウォーミングアップが役立った。
 - 最初のウォーミングアップ?のことをしたら歌いやすくなった。
 - 歌う前のトレーニングを知れた。楽しく学べた。
 - 教え方がおもしろかった。いろいろな筋肉のほぐし方があっておもしろかった。

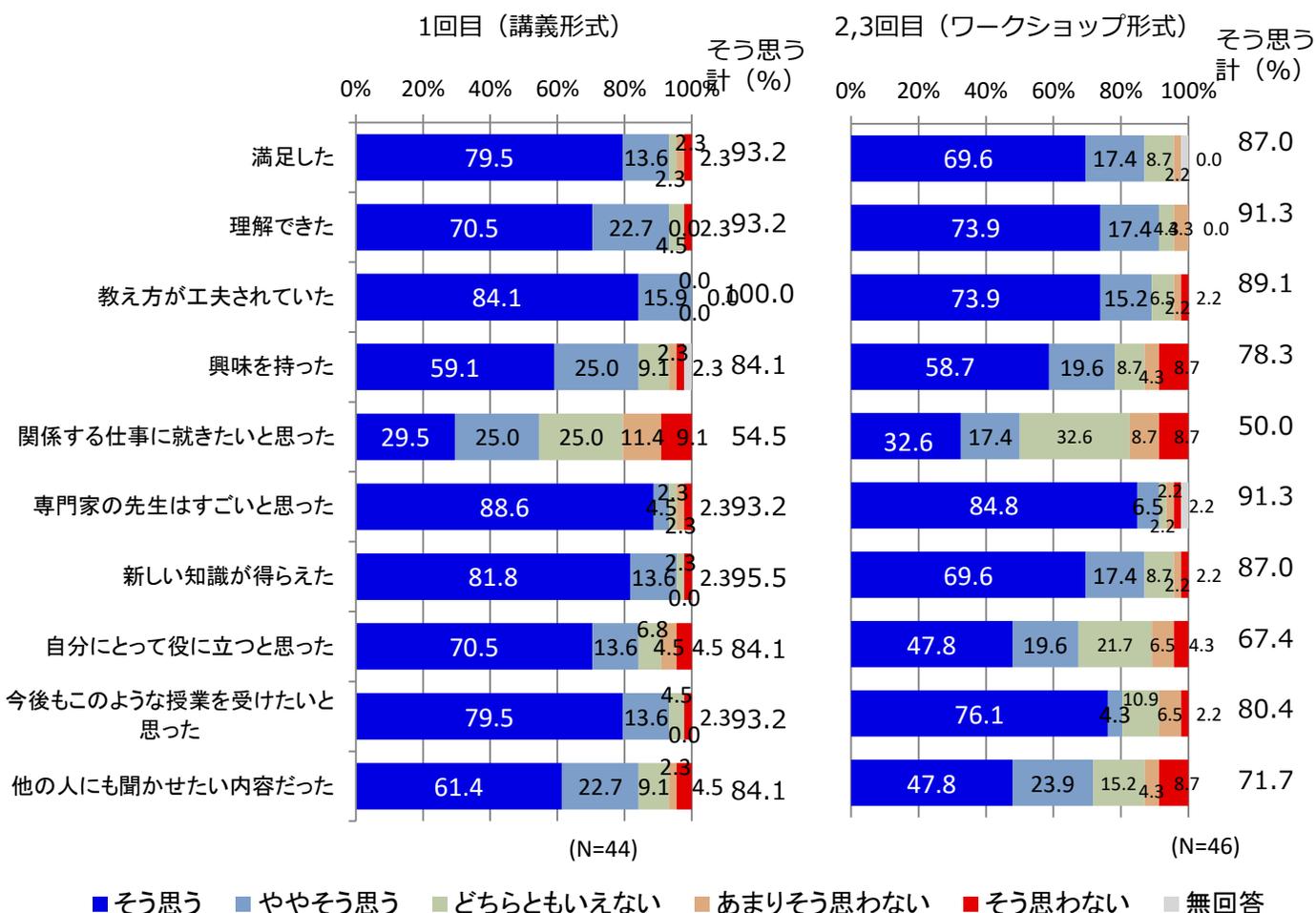
1.卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 (小学校5,6年生 音楽)主な感想(抜粋)

- 声が出るようになった。
 - とても楽しかったし、いつもは遠くへ響く声が出せないのに今日はリップロールなどのトレーニングをしてから歌ったので、のびのびと遠くへ響く声が出せた。
 - いつもより声が出て楽しかった。
 - 授業も分かりやすく、授業を受ける前より声が出やすくなった。
- 歌が上達した、自信につながった。
 - 少し歌がうまくなった気がした。
 - 先生の授業のおかげで歌がうまくなりました。楽しかったです。
 - 最初に歌った時と最後に歌った変化が自分でも感じとらえることができた。
 - 歌が上手くなった気がします。
 - 楽しかった。授業の中で上手くなっていく気がした。
 - 自分の歌に自信が持てた。
- 音楽の授業が楽しくなった。好きになった。
 - すごくおもしろくて、音楽の授業が好きになりました。
 - 授業がいやだという気持ちを消してくれた。
 - 楽しかったです。音楽がもっと好きになりました。
 - 歌はもともと好きだけど、先生が来てもっと好きになりました。
 - 音楽の楽しさがわかりました。
 - 音楽がもっと楽しくなりました。

2.メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ (小学校5年生 社会)

- 9割以上の児童が「満足した」(1回目)、「理解できた」「教え方が工夫されていた」(1回目)、「専門家の先生はすごいと思った」「新しい知識が得られた」(1回目)「今後もこのような授業を受けたいと思った」(1回目)と回答している。
- 「興味を持った」(1回目)、「自分にとって役に立つと思った」(1回目)、「他の人にも聞かせたい内容だった」(1回目)も8割を超えている。
- 約5割が「関係する職業に就きたいと思った」と回答している。
- 全ての項目で2,3回目(ワークショップ形式)よりも1回目(講義形式)の授業の評価が高い。

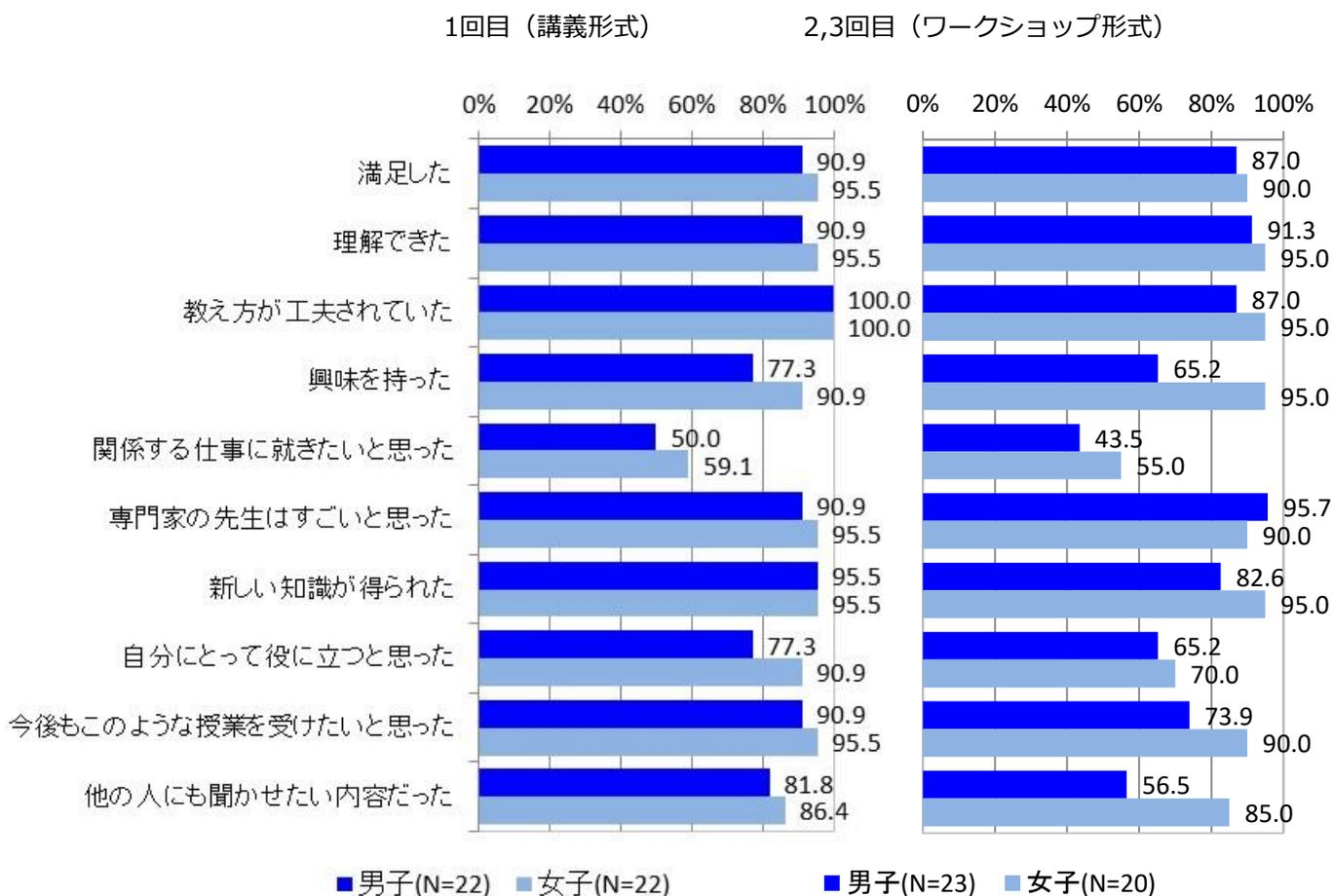
メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ



2.メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ (小学校5年生 社会) 性別

- ほとんどの項目で男子より女子の評価が高い。
- 特に2,3回目(ワークショップ形式)の「興味を持った」「他の人にも聞かせたい内容だった」は男子と女子に約30ポイントの差がある。

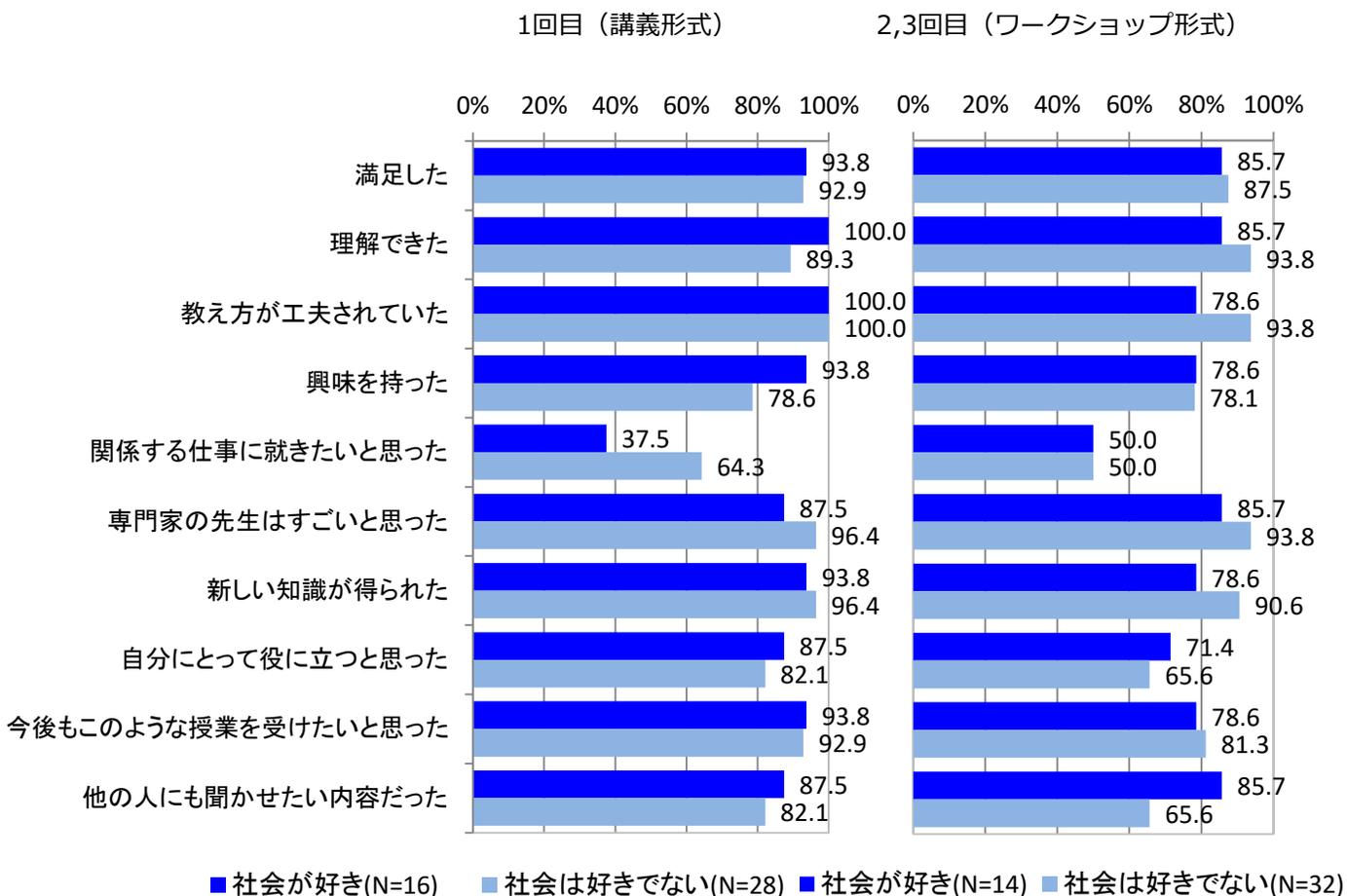
メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ（そう思う計）性別



2.メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ (小学校5年生 社会) 社会科の好き嫌い別

- 1回目の授業では、社会科が好きでない児童よりも、社会科が好きな児童において「理解できた」「興味を持った」の評価が高く、社会科が好きでない児童において「関係する仕事に就きたいと思った」が高い。
- 2,3回目の授業では、社会科が嫌いな児童よりも、社会科が好きな児童において「他の人にも聞かせたい内容だった」が高く、社会科が好きでない児童において「理解できた」「教え方が工夫されていた」が高い。

メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ（そう思う計）社会科の好き嫌い別



2.メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ (小学校5年生 社会)主な感想(抜粋)

- フェイクを見抜く専門家はすごい、かっこいい。
 - 専門家の先生はいろんなうその情報がわかるのがすごいと思いました。
 - 警察官みたいなことをやっています、かっこいいし、良いことを学べてよかったです。
 - 専門の先生はすごいと思った。
- ニュースを作る人はたいへん。
 - ニュースを作る時に、1分とかシンプルでわかりやすくしないといけないので、アナウンサーの人とかプロデューサー、編集って大変ってことに気づきました！
 - ニュースを作っている人たちは大変なんだと思いました。
 - バンキシャや他のテレビの放送を朝早くやって夜も遅いのに頑張っているのはとてもすごいと思った。
- プリントがわかりやすかった。
 - わかりやすかった。(説明プリント)
 - プリントがあったり、わかりやすく説明してくれたりしたので、すごくわかりやすかったです。
- ニュースづくりが楽しかった。
 - ニュースづくりたのしかったです。
 - ニュースをつくるのが楽しくて、良い経験になった。
 - ニュース作りや編集が楽しかったしアドバイスもわかりやすくて最高の授業でした！！
- 自分が作ったニュースを見てもらい、アドバイスをもらえてうれしかった。
 - 自分たちが作ったニュースを見てもらえてよかったです。
 - ニュースをほめてもらえてうれしいです！
 - わかりやすくてアドバイスをもらえてうれしかった。

2.メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ (小学校5年生 社会)主な感想(抜粋)

- デマ・詐欺についてわかった。
 - デマの情報の見抜き方がわかった。
 - デマ情報というものを知れてうれしいです。
 - 「詐欺などの話を聞かせてもらってありがとうございました」という気持ちでいっぱいだったです。
- 情報のメリット・デメリットがわかった。
 - 情報のメリットデメリットが知れたよかった。例えばインターネットでの危険なことなどです。知らないことがえられてよかったです、次もたのしみです。
- ニュースや情報発信には手がかかっていることがわかった。
 - ニュースはすごく確認するのがすごかった。
 - 何かを書いたり聞いたりする時は、何かしらの工夫がされていることを知った。
- テレビは多い人がいるからできるんだなと思った。ニュースの作り方がわかった。
 - ニュース作りはたいへんだったけど、ニュースを作る時の順番やニュースの作り方がわかってうれしかったです。
 - ニュースの作り方がよくわかりました。とても楽しかったです。

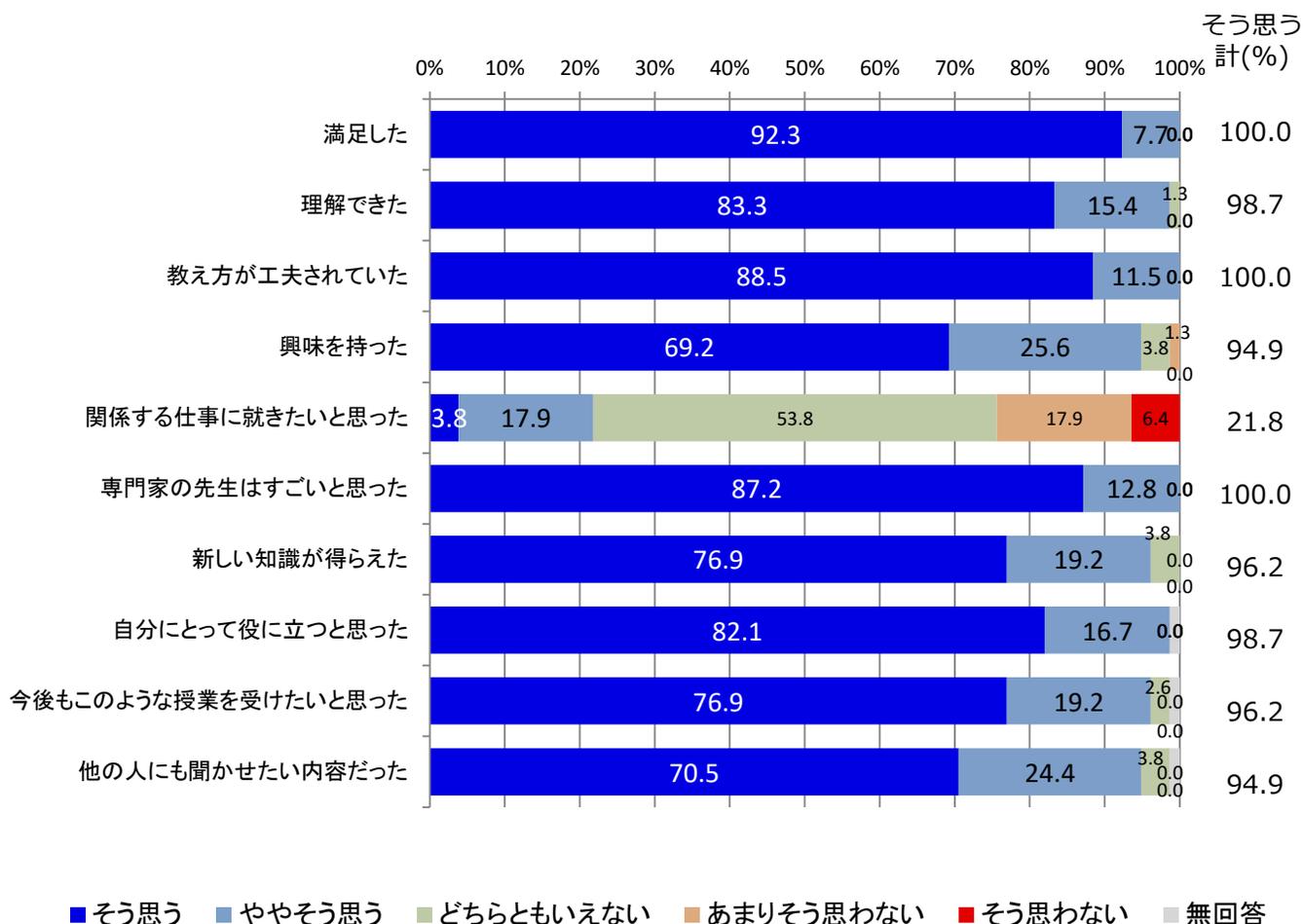
2.メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ (小学校5年生 社会)主な感想(抜粋)

- フェイクニュースに注意しようと思った。
 - フェイクニュースに気をつけようと思いました。
 - ニュースのフェイク動画の対策方法を教えてくれて、そのようなことにかからないようにします。
- ニュースやアナウンサーに興味を持った。
 - 理解が出来て興味を持ちました。
 - アナウンサーやニュースに興味をもった。もっとニュースを見てみようと思った。
 - ニュース作りが楽しかったです。東京の一部から来て下さったので自分もその仕事場に行きたいと思いました。
- ニュースにかかわる仕事をしたいと思った。
 - 私は将来の夢がアナウンサーになることです。テレビのアナウンサーさんが放送するまでにたくさんの作業あることを知り、よりくわしく学んで将来、日本テレビのアナウンサーになりたいと思いました
 - ぼくはテレビに出るお仕事をしたいから、こういうことをしているんだと思いました。もっとやりたくなりました。
- 教わったことを活かしたい。
 - これからニュースを見る時、もっと教わったことを活かしてみようと思いました。

3.コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業 (中学校1年生 総合)

- 9割以上の生徒が「満足した」「理解できた」「教え方が工夫されていた」「興味を持った」「専門家の先生はすごいと思った」「新しい知識が得られた」「自分にとって役に立つと思った」「今後もこのような授業を受けたいと思った」「他の人にも聞かせたい内容だった」と回答している。
- 「関係する職業に就きたいと思った」は約2割である。

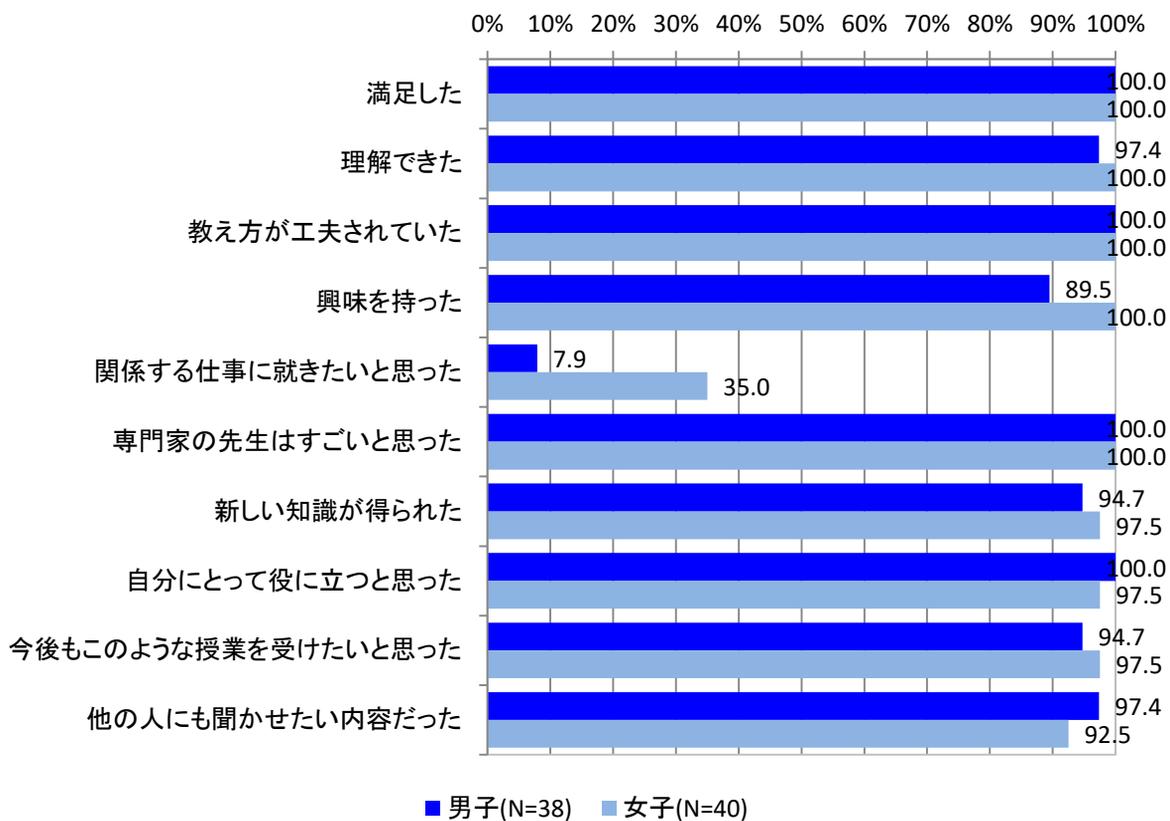
コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業



3.コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業 (中学校1年生 総合) 性別

- 全体的に評価が高く、多くの項目で男女差は小さいが、「関係する仕事に就きたいと思った」「興味を持った」は男子よりも女子において高い。

コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業（そう思う計）性別



3.コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業 (中学校1年生 総合)主な感想(抜粋)

- 本物のアナウンサーならではの体験だった。
 - 実際にテレビで活躍されている方にお話をうかがい、とても説得力があったと感じました。また、言っているときも終始笑顔で、聞き取りやすい声でそれを仕事にしている人は本当にすごいんだなと衝撃を受けました。
 - 今までテレビでしかアナウンサーさんは見てこなかったけど、実際に近くで声を聞くと、とても聞こえやすい声量や抑揚で、おどろきました。
 - 本物のアナウンサーからしか学べないことを習えた。これからの授業・生活にかける事ばかりで興味深かった。
 - すごかったです。結構、有名なアナウンサーが生で来てくれて、すごく実用性のあることを学べて良かったです。
- 話し方、表現が優れている。
 - アナウンサーの方で、話し方も綺麗でとても聞き取りやすくして尊敬しました。
 - 話し方や表現がとても上手で、今までで一番上手なスピーチでした。本当にありがとうございました。
 - 先生は教えてもらったポイントを授業で全てつかっていて、すごいなと思った。
 - 千北さんの声がすごく聞きやすく、それはそれは美して耳福でした！
- お手本にしたい。
 - 先生の声もとてもお手本になり、マネをして、上手にプレゼンテーションできるようになれるといいなと思いました。ありがとうございました。
 - 初めて聞くことでも、理解しやすく、千北先生のようなプレゼンができるようになりたいと思いました。あがり症改善にもなりそうだと感じました。

3.コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業 (中学校1年生 総合)主な感想(抜粋)

- インタビューを通じて交流できた。
 - 今回インタビューを通してあまり話したことない人でも質疑応答を通して話が広がったのでこれからも実践していきたいと思いました。
 - みんなとも交流できてとても楽しめた。私は発表苦手なので、授業の内容をこれから使ってがんばりたいと思う。
- 実践的な授業で知識が身に付いた。
 - 現役のアナウンサーの方のお話を聞くという貴重な経験ができた上に短時間でインタビュー構成、発表をする他己紹介もできた。今後もプレゼンの機会があると思うので、今日のことを思い出して生かしていきたい。
 - お話で聞いたことを基にして活動したことがたのしかったし、実践したので、どのように今後使っていけば良いのか理解できました。
 - 本日の講習でプレゼンテーションの分かりやすく、相手に伝える方法、他己紹介を通してカンペのデザインや相手に分かりやすく伝える方法が分かりました。
- 具体的で有用な知識を得ることができた。
 - アナウンサーを目指している友達にすごく伝えたくなったし、プレゼンなどに説得力をもたせるために必要なことがよくわかった。
 - シャベルすることが上手くなるにはどうしたらよいのか、いままでよくわかりませんでした。しかし母音をどの文字でもしっかり意識してやることなど、新しい知識を得ることができ、1歩近づけたと思います。
 - 今回の授業は専門の方に来ていただいたので、専門的な知識がついた。
 - パワーポイントや話し方が飽きないように工夫されていてすごいと思いました。例文なども教えてくれたので、どのように活用するか分かってためになりました。楽しかったです。
- 生涯役立つ知識が得られた。
 - まったく知らなかったことを知れたし、とてもこれからの生き方に参考になる内容で楽しかった。
 - 一生話していくので、ありがたい知識ばかりでした！ これからも生活にいかしていきます。

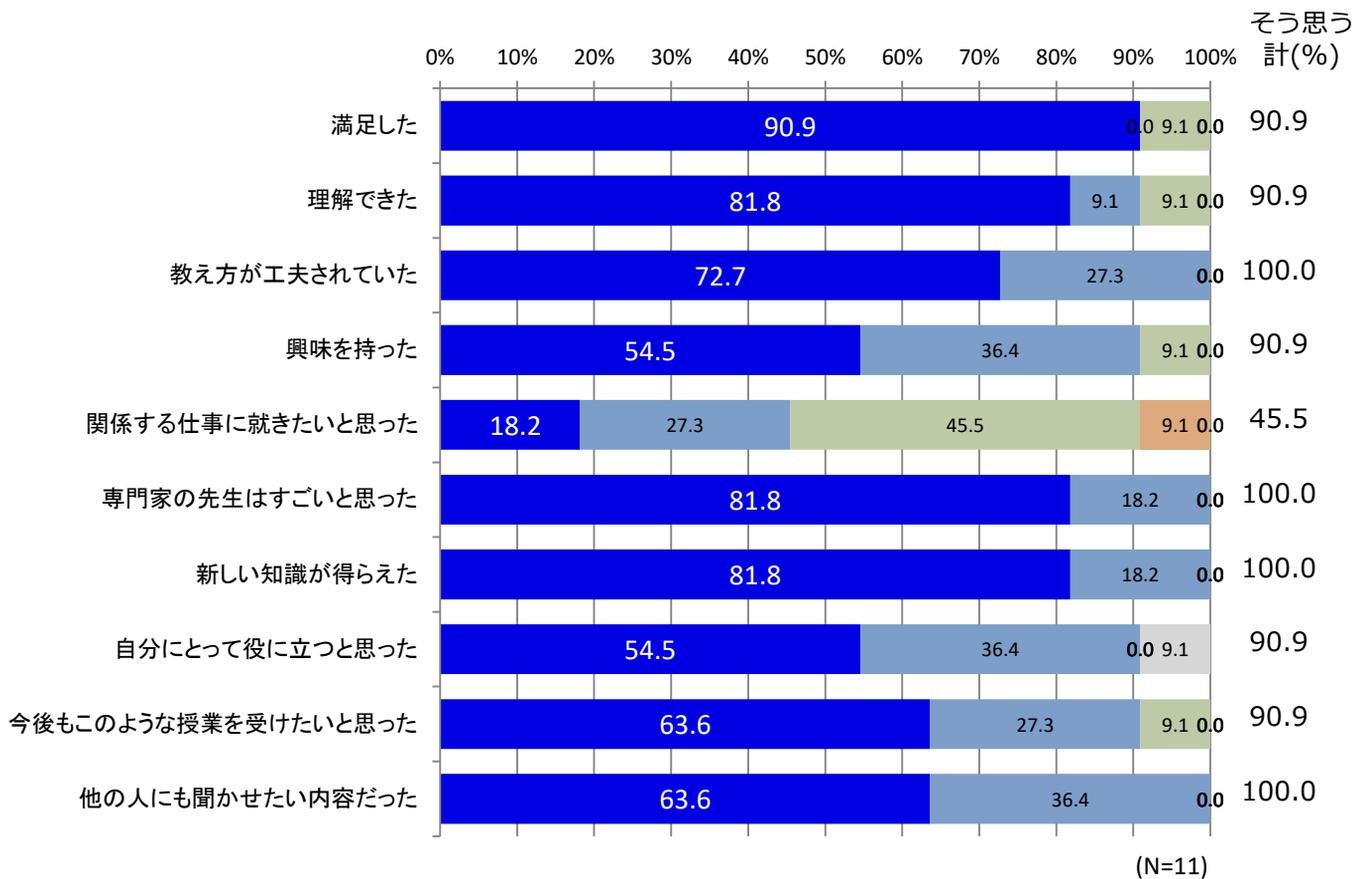
3.コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業 (中学校1年生 総合)主な感想(抜粋)

- 自分のプレゼンテーションの改善につながった。
 - 僕のプレゼンテーションはいままで情報をつめこみすぎていたことなど、自分のプレゼンテーションの改善点を見つけることもできました。
 - もともとプレゼンは得意な方だと思っていたが、自らに足りないことを見なおすことができ、非常にためになった授業だった。
- 授業で学んだことで、プレゼンテーションに対する苦手意識を克服できそう。
 - 自分は人前だと緊張してしまい、あまり人前で話すのが得意ではなかったけど、今日話を聞いて自信をもてました。自分は表情から入ってみようと思いました！ありがとうございました！
 - 今回、授業を受けてみて、自分は人前に立って発表することは苦手ですが、それでもすばらしいことだと考えました。今日教えてもらったことを意識して生活するとより関係が深まっていくと考えたので、自分は目を合わすことをがんばろうとしました。
 - 自分は口頭でのプレゼンテーションが苦手だったため、今回の授業で少し自信がつけました。これからの生活でも発声方法など生かしていきたいです。
 - 今までずっと滑舌が悪くて悩んでいたもので、教えてもらったことを活かして聞き取りやすい話し方を手に入れたいです！
 - 教わったことを授業や将来の仕事に活かしたい。
 - 今日教えてもらったプレゼンのコツを今後の発表などで生かしていきたい！
 - とても楽しく分かりやすい授業で、実践したいと思う事が多くありました。将来人の上に立つ仕事をしたいので生かします！ご講演ありがとうございました！
 - 話すのがとてもうまく、自然と前のめりになるような授業だった。これからパワポを作ったり発表するときは、今日のことを思い出して作ったり話したいと思った。

4.VR(Virtual Reality)アート制作(高校1,2年生 美術)

- 9割以上の生徒が「満足した」「理解できた」「教え方が工夫されていた」「興味を持った」「専門家の先生はすごいと思った」「新しい知識が得られた」「自分にとって役に立つと思った」「今後もこのような授業を受けたいと思った」「他の人にも聞かせたい内容だった」と回答している。
- 「関係する職業に就きたいと思った」は約5割である。(但し、本授業は希望者のみが受講している。)

VR(Virtual Reality)アート制作

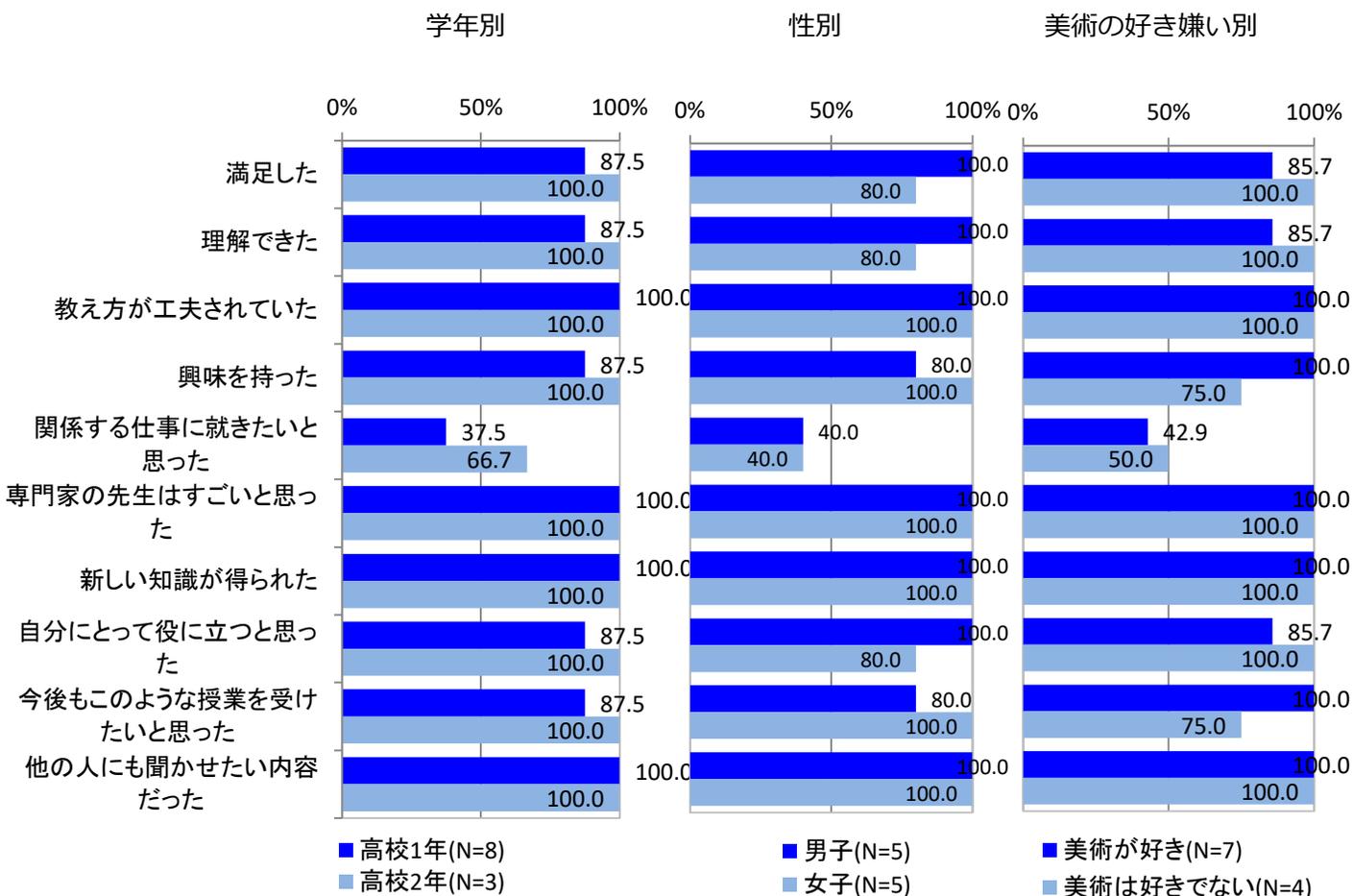


■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

4.VR(Virtual Reality)アート制作(高校1,2年生 美術)

- ・ (回答者が少ないため参考)

VR(Virtual Reality)アート制作 (そう思う計)



4.VR(Virtual Reality)アート制作(高校1,2年生 美術)主な感想(抜粋)

- 専門家の指導がわかりやすかった。
 - 専門家の方々の丁寧でわかりやすい説明のおかげで思い描く作品を完成させることができました。
- 普段はできない体験ができた。
 - VRという今まで体験したことのないジャンルで、とても面白かったです。満足しました。
 - ツールがたくさんあったので普段はつukれないような質感などを出すことができましたので楽しかったです。
 - いつかやってみたいと考えていたので、今回実際に体験できて本当によかったです。
 - VR空間での体験は今回が初めてで、普段できないような経験をすることができました。
- 役に立った、刺激を受けた。
 - VR体験ができて、将来そういう仕事もいいかなと考えていて、貴重な体験ができて、自分にとってとても役に立ちました。
 - 今回学べたことはこれからの社会でも多く使えることだと思うので、このような機会を大切にしたいです。
 - 今回の体験は私の創作活動に大きな影響を与えてくれたと思います。
 - 自分は将来、絵に関する仕事に就きたいと思っていて、今回このような授業を受けて、新しい知識を得ることができたし、良い刺激をうけることができました。機会があればまたやりたいです。

4.VR(Virtual Reality)アート制作(高校1,2年生 美術)主な感想(抜粋)

- VRの可能性を感じた。
 - 今回のVRを初めて体験して、立体的な作品を作ることができてVRには可能性がたくさん秘められているのだと実感しました。
 - VRで創ったものをNFTで価値を付けて売るという金策を知れたよかったです。
 - 他の人の作品もアイデアが豊富で、3Dの色々な捉え方を知ることができ、良かったです。
 - 人の体の中とか小さな生物などを再現すれば、小さな子どもが直感的体験できる教育の場面で使用できると思いました。
 - 自分はジオラマづくりをすることがあるけど色々な「素材」を使って作り上げるのとVR上でいろいろな「ブラシ」を使うのは少し似ていると感じた。ジオラマでは発泡スチロールなどを切ることが多いので一部を削れるツールがあるといいなと思った。
 - こういうのをどう広めるかだったり、どうしたら見てもらえるか、そのような場所に役立つかというのを考えさせられて、楽しくまじめな話題に入りこめたなと思いました。
- VRに絵を描く体験が楽しかった。
 - 自分の描いたものに囲まれながら制作していくのが面白いなと思いました。
 - 立体空間に描くのは難しかったけど楽しかったです。
 - VR上に絵を描くというとても貴重な時間を過ごすことができとても楽しかったです。
- 絵が苦手な自分にとって有用と感じた。
 - 自分は絵があまり得意でないけど立体を作るのは得意なので感覚的に描けるのは楽しかった。
 - 思ったようにはなかなか描けなかったけど平面で立体を表現するのが苦手な自分には直接立体になるので今までと違った表現ができて様々な場面で使えると思った。
- 創作意欲が湧いた。
 - 講師の方が物理演算(押したり、落ちたり)のあるVR機能があると教えてください、私も自分でマリオブラザーズの世界やゼペット(というアプリゲーム)にあるワールドのようなアトラクションを作りたいなと想像する気持ちが止まりません。
 - 皆さんの作った作品を見てすごく作りたい！！と思いました。ありがとうございました。

実証授業実施校の児童・生徒アンケート 自由回答集

1.卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 (小学校5,6年生 音楽)- 1回目

No.	授業の感想	学年	性別
1	先生はとてすごく人生の中で一番きれいな歌声でした。	小5	男子
2	授業がいやだという気持ちを消してくれた。	小5	男子
3	専門家先生に会えて楽しかった。また会うのがたのしみです。	小5	男子
4	おもしろかった。	小5	男子
5	ふざけながらもいろいろ勉強になって楽しかった。	小5	男子
6	楽しかったです。音楽がもっと好きになりました。	小5	男子
7	少しまじめにやってほしかったです。	小5	男子
8	満足はできなくて、あまり楽しくもなかったけど、専門家はすごいと思った。	小5	男子
9	上手になりつつ、おもしろくてよかったです。	小5	男子
10	楽しかったです！ありがとうございました。	小5	男子
11	歌声がさすがプロだなあと思いました。次の授業が楽しみです。	小5	男子
12	Let's search for tommorowが難しい曲だったことがびっくりしました。	小5	男子
13	歌はもともと好きだけど、先生が来てもっと好きになりました。	小5	男子
14	歌声がとてきれいだっただ。一人で歌っているのに声がみんなより大きな声を出してすごかった。	小5	男子
15	少し歌がうまくなった気がした。	小5	男子
16	知らないこともあってすごいと思った。	小5	男子
17	本物の歌を聞けてびっくりしたし楽しかったです。もっとこういう授業をしたいです。	小5	男子
18	いつもより声が出て楽しかった。	小5	男子
19	体のほぐし方が個性的でおもしろかった。	小5	男子
20	先生の声がとてきれいで、いろいろなアドバイスをくれてとてものしかつたし、次に生かせると思いました。	小5	女子
21	自分たちの苦手な場所を詳しく教えてくれて、3月の卒業のとき頑張ります。	小5	女子
22	楽しくお話ができたし、すごく満足できました。	小5	女子
23	すごくおもしろくて、音楽の授業が好きになりました。	小5	女子
24	すごく明るい方で楽しく授業ができたし、音楽はもともと好きだったので音楽を改めて知れてよい機会でした。3月が楽しみです。	小5	女子
25	先生がポップで楽しかったし、わかりやすかったので、音楽の先生になってほしいと思いました。	小5	女子
26	とてよかつたし、また会いに来るときにレッツサーチフォートゥモローを見せつけたい。	小5	女子
27	とてフレンドリーでやさしく教えてくれたのでわかりやすかつたです。	小5	女子
28	今まで教えらえたことがないような物までしっかり教えてくれてうれしかつたです。	小5	女子
29	とて教え方がわかりやすかつた。最初に歌った時と最後に歌った変化が自分でも感じとらえることができた。	小5	女子
30	分かりやすくて、楽しかつた。	小5	女子
31	話しかけやすくて、やさしくて、楽しかつた！	小5	女子
32	歌がすごく上手で表現がすごかつた。	小5	女子
33	自分もいつかあんなきれいな高い声を出せるようになりたい。	小5	女子
34	音楽で先生が「きれいな声ですね」と言われてうれしかつたです。また一緒に歌を歌いたいです。	小5	女子
35	とて楽しかつたし、いつもは遠くへ響く声が出せないのに今日はリップロールなどのトレーニングをしてから歌ったので、のびのびと遠くへ響く声が出せた。	小5	女子
36	楽しくて、また教えてほしいと思いました。	小5	女子
37	教え方がすごく上手で、いままでないような歌声を出せたのですごかつたです。	小5	女子
38	先生の授業のおかげで歌がうまくなりました。楽しかつたです。	小5	女子
39	すごくわかりやすかつたです。今までこんなに音楽に集中したことがなかつたので、すごく楽しかつたです。	小5	女子
40	今日の授業でいろいろなことが分かりました。	小5	女子
41	歌の歌い方をとてわかりやすく教えてくれてとてよかつたです。歌声がとてきれいでした。	小5	性別無回答
42	プロのすごさを肌で感じて謎の鳥肌がたつた。	小5	性別無回答

1.卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 (小学校5,6年生 音楽)- 1回目

No.	授業の感想	学年	性別
43	歌う前のトレーニングを知れた。楽しく学べた。	小6	男子
44	音楽の授業で言われたことをなおそうと思いました。	小6	男子
45	分かりやすかったし、楽しかった。	小6	男子
46	とてもわかりやすく、楽しかったです。	小6	男子
47	指揮をするだけでみんなの声が変わってすごかった。	小6	男子
48	よくわかったし、面白い先生だった。	小6	男子
49	体操がおもしろかった。	小6	男子
50	おもしろいし、生徒の関わりがよかった。優しい。	小6	男子
51	教えてくれて(未完)	小6	男子
52	教え方がおもしろかった。いろいろな筋肉のほぐし方があっておもしろかった。	小6	男子
53	おもしろかった。	小6	男子
54	専門家の人にもっといろいろな事を聞いてみたいです。	小6	男子
55	とても授業を楽しめた。おもしろかった。	小6	男子
56	授業がとてもわかりやすく勉強になった。	小6	男子
57	特に何も無い。	小6	男子
58	色々な事を楽しく学べてまたやってもらいたいと思った。	小6	男子
59	とてもユニークで楽しかったです。	小6	男子
60	色々なことを知れたし、授業の内容も楽しかった。	小6	男子
61	とても分かりやすく、楽しくて時間があっという間だった。	小6	男子
62	楽しかった。	小6	女子
63	専門家の先生が来てわくわくした。	小6	女子
64	今日の授業をとおして、歌うとき体操みたいなのがやれて楽しかったです。	小6	女子
65	小学生に教えるのは初めてと言っていたけど、教え方が上手ですごかったです。	小6	女子
66	とても楽しい授業でした。	小6	女子
67	楽しかった。先生の指揮が上手だった。	小6	女子
68	最初のウォーミングアップ?のことをしたら歌いやすくなった。	小6	女子
69	授業がわかりやすくて楽しかった。	小6	女子
70	授業も分かりやすく、授業を受ける前より声が出やすくなった。	小6	女子
71	先生の指揮で、こんなにも変わるんだとびっくりした。	小6	女子
72	息の使い方が分かりやすかった。	小6	女子
73	楽しかった。次の授業が楽しみ。	小6	女子
74	音楽の先生として来て、教えてくれてうれしかったし、また授業を受けたいと思った。	小6	女子
75	おもしろかったし、わかりやすかったので他の授業でも活用したいと思った。	小6	女子
76	明るい先生だったから、気楽だったし、楽しかった。	小6	女子
77	教え方が上手でまた授業を受けたいと思います。	小6	女子
78	普段ではこのようなすごい方に教えてもらう機会はなかなかないし、すごくいろいろなことを学ぶことができたので楽しかった。	小6	女子
79	分かりやすかったし楽しかったからまたこの授業をやりたいと思った。	小6	女子
80	おもしろかったし、教え方がわかりやすかった。すごかった(いろいろ)。調べてみたいと思った。	小6	女子
81	先生がとても明るくて面白かった！また教わりたい。	小6	女子
82	とても明るく楽しい授業だった。	小6	女子
83	教え方がとても工夫されていて、とても楽しかったです。	小6	女子
84	とても楽しかったし、いろいろ新しく知ったこともたくさんありました。歌が上手くなった気がします。	小6	女子
85	知らないことが知れてすごく役に立った。すごく楽しかった。	小6	女子

1.卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 (小学校5,6年生 音楽)- 2回目

No.	授業の感想	学年	性別
1	たまにうたってくれた時があったけど、前とおなじくとてもきれいだった。六年生の歌声もすごかった ので負けないように頑張りたいです。	小5	男子
2	また来年来てください。	小5	男子
3	ありがとうございました。	小5	男子
4	今まで自信なかった卒業が天寿先生のおかげできょうみをもった。	小5	男子
5	つらくても笑顔になれる授業でした。	小5	男子
6	音楽の楽しさがわかりました。	小5	男子
7	音楽がもっと楽しくなりました	小5	男子
8	あまり楽しくなかったです	小5	男子
9	楽しかったです。またやりたいです。	小5	男子
10	折れ線グラフの人生版がおもしろかった。	小5	男子
11	とても先生のテンションが高くて、Happyな気持ちでいられた。	小5	男子
12	これからも音楽に興味ができた。	小5	男子
13	教え方が工夫されていた。	小5	男子
14	自分の歌に自信が持てた。	小5	男子
15	5年生や6年生の歌声を合わせても、先生はレベルがちがくてすごいと思いました。	小5	男子
16	キレイにうたう方法がわかりました。ありがとうございます。	小5	男子
17	音楽のコツがだいぶつかめてよかったです。	小5	男子
18	楽しかったのでまた教えてほしいです。	小5	男子
19	歌い方を分かりやすく説明してくれて歌いやすくなった。	小5	男子
20	自分たちの良いところと悪いところを教えてくれてよかった。	小5	女子
21	天寿先生の授業が最後で悲しかったけど、楽しく授業ができてうれしかったです。またこういう授業 がしたいです。	小5	女子
22	みんなで歌うのが楽しかったです。	小5	女子
23	わかりやすい教え方だったので、もっと声が出た気がしました。	小5	女子
24	教え方が上手だった。	小5	女子
25	またこのような授業を受けたいと思いました。歌うのが楽しくなったし、自信が持てるようになりま した。	小5	女子
26	2回もうたをおしえてくれてありがとうございました。卒業式でがんばります。	小5	女子
27	次の音楽にいかしたいと思いました！	小5	女子
28	2回目の授業でも新しいことも学べて楽しくできてよかったです。	小5	女子
29	先生のおかげでリラックスの方法をやっていろいろな声の出し方の工夫を教えてくださいなど、そ のおかげで少しずつ大きい声ができるようになりました。	小5	女子
30	一人であの音量…すごいと思った！	小5	女子
31	最初の深呼吸みたいなのがたのしかったです。また来てください。ありがとうございました。	小5	女子
32	レッツサーチフォートゥモローをくわしくおしえてくれて、わかりやすかったです。	小5	女子
33	楽しく授業ができたので、歌を歌うコツがしっかり理解できました。	小5	女子
34	どうすればよく声が出るのか詳しくわかりました。2回も来ていただきありがとうございました。	小5	女子
35	自分の人生をいったりしていたのですごかったです。	小5	女子
36	歌声がとてもきれいで、すごいなと思いました。	小5	女子
37	声が出しやすくなった。	小5	女子
38	前もすごかったけど、今回は人生について知れてうれしかった。	小5	女子
39	教え方が工夫されていてすごくわかりました。また授業にうけたいと思いました。	小5	女子
40	歌の教えがとてもわかりやすかったです。教えてもらって歌ったら歌いやすかったです。	小5	女子
41	私は放送をするとき小さな声で放送してしまうことがあるけど、みつさんが教えてくれたウォーミ ングアップをやることでのびのびと聞き取りやすく放送できるようになったし、将来の夢がアナウ ナーなので将来の夢に一歩近づくことができたのかなと思いました。今回教えていただきありが とございました。	小5	女子

1.卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導 (小学校5,6年生 音楽)- 2回目

No.	授業の感想	学年	性別
42	ちゃんとやってほしいとはおもいましたが、プロというのはたしかだとおもいました。	小5	性別無回答
43	すごくおもしろくて、笑いながらやったので全然あきなかった。	小6	男子
44	とても教え方が工夫されていてわかりやすかった。	小6	男子
45	いのちの歌のときに、やっぱり六年生はすごい！！と言ってくださったのが嬉しかったです！！	小6	男子
46	先生の指導により、よりよい卒業式を迎えられそうです。	小6	男子
47	目線が1つに集まったからいい音楽になった。	小6	男子
48	とてもたのしかった。元気になった。	小6	男子
49	授業がわかりやすく、声を大きく話してくれて、やさしかったから あと色々(未完)	小6	男子
50	すごくわかりやすかったです。	小6	男子
51	楽しくてわかりやすく教えてくれたのでよかったです。	小6	男子
52	先生のおしえが上手だった。	小6	男子
53	教え方がよくてとても分かりやすかった。卒業式にいい歌がうたえると思う。	小6	男子
54	授業を受けて今まで分からなかった事や上手くできるコツを知ることができた。	小6	男子
55	とても小学生にわかりやすいように工夫されていたのですが、すこしぐたいきな表現ではなかった。	小6	男子
56	先生が面白いし、ちゃんと音楽も教育してくれて、また先生と音楽をやりたいと思った。	小6	男子
57	おしえ方がおもしろくて楽しかった。	小6	男子
58	グラフに人生をかいていたやつがわかりやすかった。	小6	男子
59	きちんとした感じではなく、楽しさを優先していて懂れるような存在だった。	小6	男子
60	じゅぎょうのせつめいもわかりやすかったし、歌のうたいかたやいいこえのだしかたとかをおしえてくれてありがとうございます。	小6	男子
61	ただの授業だけではなく楽しくできました。いつもより頭にはいってきました。	小6	男子
62	とくに無い。	小6	男子
63	前よりも歌いやすくなった。	小6	女子
64	楽しかった。授業の中で上手くなっていく気がした。	小6	女子
65	どんな風に歌えばいいのか分かった。これからも続けていきたいと思った。	小6	女子
66	教え方がとても上手でとてもわかりやすい授業でした！	小6	女子
67	ピアノからみんなの歌をきいて、いつもよりもよい歌声だったから、びっくりした。	小6	女子
68	たのしかった。	小6	女子
69	わかりやすく、どのように歌ったらよいかくわしくわかってたのしかった。	小6	女子
70	授業がわかりやすかつたし楽しかった。	小6	女子
71	分かりやすくして楽しかった。	小6	女子
72	とても教え方がわかりやすかったです。	小6	女子
73	指揮が工夫されていて歌いやすかった。	小6	女子
74	とても理解しやすくおもしろかったから続けてほしいと思った。	小6	女子
75	教え方が上手でとても分かりやすかったです。明るく楽しく教えてくれたのでとても楽しい2時間でした。	小6	女子
76	人のやる気を引き出すのが上手な人だと思った。歌が好きっていう気持ちが伝わってきて、そこに引っぱられる感じ。	小6	女子
77	明るい先生だったし、楽しい授業だった。また受けてみたいと思った。	小6	女子
78	わかりやすくして楽しかった。	小6	女子
79	専門家の人が面白いし勉強になった。卒業してしまうけどおしえてもらったことをわすれないうで中学校でも頑張って行こうと思いました。	小6	女子
80	いままで高い声をだすと声がかすれていたけれど、教えてもらってからこえがだしやすくなった。	小6	女子
81	分かりやすかつたし楽しかつたから、いつかまたやりたいと思いました。	小6	女子
82	教え方などが工夫されていて楽しかつたので、今後もこのような授業を受けたいと思いました。	小6	女子
83	卒業式で歌う曲をより良くするためにこう歌うといいんだよというのを聞いて、どんどんいかしていきたいなと思った。	小6	女子
84	すごい分かりやすいく教えてくれたし、とても楽しかつたです。機会があれば、またピアノや歌を教わりたいたいです。ありがとうございました。	小6	女子

2.メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ (小学校5年生 社会)- 1回目

No.	授業の感想	学年	性別
1	フェイク映像などいろいろ知れておもしろかったです。	小5	男子
2	デマの情報の見抜き方がわかった。	小5	男子
3	教え方が上手だった。	小5	男子
4	詐欺についてわかった。	小5	男子
5	フェイクニュースを気をつけたいです。	小5	男子
6	デマ情報というものを知れてうれしいです。	小5	男子
7	ニュースを作るのが楽しみです。	小5	男子
8	いろんな注意があったからツイッターはこわいと思った。	小5	男子
9	ニュースのことがだいぶわかった。	小5	男子
10	うれしい	小5	男子
11	バンキシャや他のテレビの放送を朝早くやって夜も遅いの頑張ってやっているのはとてもすごいと思った。	小5	男子
12	フェイクは簡単にできるもの。AIをよいものにかきたい。	小5	男子
13	すごい人に教えてもらってうれしかった。	小5	男子
14	楽しかったし、これからも気をつけること。ぼくはテレビに出るお仕事をしたいから、こういうことをしているんだと思いました。もっとやりたくなりました。	小5	男子
15	「詐欺などの話を聞かせてもらってありがとうございました」という気持ちでいっぱいだったです。	小5	男子
16	インターネットを使うときには気をつけようと思った。	小5	男子
17	教え方が工夫されていて理解ができました。	小5	男子
18	とても勉強になりました。	小5	男子
19	すごくてのしかったです。	小5	男子
20	いろいろなことを教えてもらったので、次やもっと違うものも教えてもらいたいと思いました。	小5	女子
21	フェイクニュースに気をつけようと思いました。	小5	女子
22	ニュースで私が出たらいいなと思いました。またニュースの人が来たらもっと教えてほしいです。	小5	女子
23	私は放送委員会で放送原稿を作ることがあります。ニュースは緊急のときは手書きですぐに原稿を書く聞いて驚きました。	小5	女子
24	フェイク情報にはだまされないようにしたいです。	小5	女子
25	新しい言葉や内容が知れてよかった。アナウンサーや記者はとてもたいへんと思った。	小5	女子
26	今までわからない言葉がたくさん出てきたけど、一つ一ついいに教えてくれたからよくわかるようになりました。(わざわざ金杉台小学校に来てくれてありがとうございました！！)	小5	女子
27	教え方がすごく上手でした。	小5	女子
28	専門家の先生はいろんなその情報がわかるのがすごいと思いました。	小5	女子
29	見たり、教えてもらったりしてる間はすごくおもしろかったです。	小5	女子
30	警察官みたいなことをやっていますすごし、かっこいいし、良いことを学べてよかったです。	小5	女子
31	ニュースのフェイク動画の対策方法を教えてくれて、そのようなことにかからないようにします。	小5	女子
32	フェイクニュースには気をつけなければならないと改めて思った。何かを書いたり聞いたりする時は、何かしらの工夫がされていることを知った。	小5	女子
33	情報のメリットデメリットが知れたよかった。例えばインターネットでの危険なことなどです。知らないことがえられてよかったです、次もたのしみです。	小5	女子
34	教え方が工夫されていてわかりやすかった。	小5	女子
35	プリントがあったり、わかりやすく説明してくれたりしたので、すごくわかりやすかったです。	小5	女子
36	私、最近インターネットを使うから、今回の授業で「あっ私も気をつけなきゃ」と思えることができました！	小5	女子
37	わかりやすかった。(説明プリント)	小5	女子
38	フェイクニュースがこわいと思った。	小5	女子
39	あらためてフェイクニュースには気を付けようと思った。	小5	女子
40	初めてこういう授業を受けて楽しかった。	小5	女子

2.メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ (小学校5年生 社会)- 2,3回目

No.	授業の感想	学年	性別
1	ニュースの作り方をもっと知りたいです。	小5	男子
2	よくわかった。	小5	男子
3	テレビは多い人がいるからできるんだなと思った。	小5	男子
4	専門家の教え方はすごいなと思った。	小5	男子
5	もっと長いニュースをつくってみたいです。	小5	男子
6	ニュースをつくるのが楽しくて、良い経験になった。	小5	男子
7	特にありません。	小5	男子
8	とてもよかったしニュースのことがいっぱい知れたのでよかったと思います。	小5	男子
9	ニュースづくりののしかったです。	小5	男子
10	ニュース作りのやり方がわかったよかった。	小5	男子
11	わかりやすくアドバイスをもらえてうれしかった。	小5	男子
12	知識がすごかった。	小5	男子
13	いろいろなことをしないといけないから大変だった。	小5	男子
14	テレビの裏とか気になってたので知れてよかったと思いました。	小5	男子
15	ニュースはすごく確認するのがすごかった。	小5	男子
16	もっといろいろなことを教えてほしい。	小5	男子
17	映像を作って見せたらほめられてうれしかった。	小5	男子
18	ニュースの作り方がよくわかりました。	小5	男子
19	教え方が工夫されていた。	小5	男子
20	ニュース作りが楽しかったです。東京の一部から来て下さったので自分もその仕事場に行きたいと思いました。	小5	男子
21	ニュース作りや編集が楽しかったしアドバイスもわかりやすく最高授業でした！！	小5	男子
22	専門の先生はすごいと思った。	小5	男子
23	理解が出来て興味を持ちました。	小5	女子
24	難しいと思うところ、楽しいと思うところがあって、結果、楽しかった。	小5	女子
25	わかりやすく、ほめてもらったりして、たのしかったです。またやりたいです。	小5	女子
26	ニュースを作る時に、1分とかシンプルでわかりやすくしないといけないので、アナウンサーの人とかプロデューサー、編集って大変ってことに気づきました！	小5	女子
27	ニュースを自分で作って、アナウンサーをしたのが楽しかったです。	小5	女子
28	ニュース作りはたいへんだったけど、ニュースを作る時の順番やニュースの作り方がわかってうれしかったです。	小5	女子
29	ニュースの作ってよかったところを教えてくださいありがとうございました。	小5	女子
30	アナウンサーやニュースに興味をもった。もっとニュースを見てみようと思った。	小5	女子
31	1分間ニュースは作れなかったけど授業はできてよかった。	小5	女子
32	自分たちが作ったニュースを見てもらえてよかったです。	小5	女子
33	ニュースを作っている人たちは大変なんだと思いました。	小5	女子
34	校長先生の1日など知らなかったことが知れたのでうれしかったし、たのしかったです。	小5	女子
35	ニュースをほめてもらえてうれしいです！	小5	女子
36	みんなの作ったニュースがすごくて、1分でおさめたのがすごかったです。	小5	女子
37	ニュース作りにはたくさんの情報が使われていて、にせものか本物か見分けるのは大変だと思いました。	小5	女子
38	これからニュースを見る時、もっと教わったことを活かしてみようと思いました。わざわざ来ていただいてありがとうございました。	小5	女子
39	ニュースをはじめて作って見せたので、とてもはずかしかったです。	小5	女子
40	私は将来の夢がアナウンサーになることです。テレビのアナウンサーさんが放送するまでにたくさんの作業があることを知り、よりくわしく学んで将来、日本テレビのアナウンサーになりたいと思いました。	小5	女子
41	専門家の先生が言ったことがわかりやすい。	小5	女子
42	すごくてのしかったです。	小5	性別無回答
43	編集をどのようにしたらよいかわかったのでよかったです。	小5	性別無回答
44	ニュースの作り方がよくわかりました。とても楽しかったです。	小5	性別無回答

3.コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業 (中学校1年生 総合)

No.	授業の感想	学年	性別
1	現役プロアナウンサーというこの附属中でしか体験することができない特別な授業をもとに、これからの授業にも生かしていきたい。	中1	男子
2	いつもと違う授業で、また違った楽しさを感じられました。他の班の人の発表も聞きたかったです。	中1	男子
3	プロの授業はとても興味深く面白かった。とても勉強になった。	中1	男子
4	今回、授業を受けてみて、自分は人前に立って発表することは苦手ですが、それでもすばらしいことだと考えました。今日教えてもらったことを意識して生活するとより関係が深まっていくと考えたので、自分は目を合わせることをがんばろうとしました。	中1	男子
5	今回は正直2hもあるのか、と肩を落としていたところでしたが、想像よりも3.1415倍は速く過ぎていきました。楽しかったということだと思います。楽しかったのは、まあ他己紹介です。それ自体はたいして珍しいものでもありませんが、工夫を短時間でつめこみ、それを活かすことです。大変難しい作業だったので、それらよりもっと過密な作業をしているテレビ局は尊敬に値します。	中1	男子
6	プレゼンテーションは附属中にとって毎日のようにやるくらいたくさんやるので、知識をえられたのはとてもいいことだと感じた。	中1	男子
7	今日はプロの授業を聞いてよかったです。自分は人前だと緊張してしまい、あまり人前で話すのが得意ではなかったけど、今日の話聞いて自信をもてました。自分は表情から入ってみようと思いました！ありがとうございました！	中1	男子
8	しゃべることが上手になるにはどうしたらいいのか、いままでよくわかりませんでした。しかし母音をどの文字でもしっかり意識してやることなど、新しい知識を得ることができ、1歩近づけたと思います。また僕のプレゼンテーションはいままで情報をつめこみすぎていたことなど、自分のプレゼンテーションの改善点を見つけることもできました。	中1	男子
9	プレゼンテーション能力は就職したら仕事にも役立つと思うので、こういう機会を機にきちんとコツのようなものを理解できてよかった。	中1	男子
10	もともとプレゼンは得意な方だと思っていたが、自らに足りないことを見なおすことができ、非常にためになった授業だった。	中1	男子
11	今日1日で、はかりしれない程に学力が向上できた。	中1	男子
12	とてもわかりやすく、つかってみようと思いました！今日は本当にありがとうございました！！	中1	男子
13	とても楽しかったし、理解もすることができました。自分の学校生活にもつながることがあってよかったです。これからも続けた方がよいと思いました。	中1	男子
14	今回の授業を受けて、アナウンサーという仕事に興味がもてました。	中1	男子
15	すごかったです。結構、有名なアナウンサーが生で来てくれて、すごく実用性のあることを学べて良かったです。今日はまことにありがとうございました。	中1	男子
16	今回の授業内容はとてもよかった。またいつもはこのような授業はねむくなってしまうが、そうならなかった。	中1	男子
17	想像より深く、濃く、とても良いことを知れました。	中1	男子
18	先生の立ちふるまいに工夫を感じました。とても良い時間だったと思います。ありがとうございました。	中1	男子
19	専門的な詳しい知識が得られて楽しかったのでまたやってほしい。	中1	男子
20	普段、得られないような技術や学びを得ることができて、とても楽しかった。これをいかしてプレゼンや発表をしたい。	中1	男子
21	アナウンサーの授業でとても分かりやすく、ためになるものでした。今回教えてもらったことを意識して今後のプレゼンにいかしていきたいです。	中1	男子
22	今回の授業を受けて、発声の方法、スピーチの方法など、さまざまなことを教わった。次回以降はまた別のこういった授業を受けてみたい。	中1	男子
23	話し方や表現がとても上手で、今までで一番上手なスピーチでした。本当にありがとうございました。	中1	男子
24	まったく知らなかったことを知れたし、とてもこれからの生き方に参考になる内容で楽しかった。	中1	男子
25	メラビアン の法則などを使って実際に声を出して実演されていました。これからのプレゼンテーションではそれらをしっかり活用したいです。	中1	男子
26	先生は教えてもらったポイントを授業で全てつかっていて、すごいなと思った。	中1	男子
27	今後社会に出る上で重要になるプレゼンテーション技術なので、それを分かりやすく教えてくれたのが良かった。	中1	男子
28	本日の講習でプレゼンテーションの分かりやすく、相手に伝える方法、他己紹介を通してカンペのデザインや相手に分かりやすく伝える方法が分かりました。本日はありがとうございました。	中1	男子
29	地理の学習で1回行った他己紹介を今度は別のクラスの人とでき、さらに詳しく聞けたので、とても楽しかったです。	中1	男子

3.コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業 (中学校1年生 総合)

No.	授業の感想	学年	性別
30	今回の授業は専門の方に来ていただいたので、専門的な知識がついた。ユーモアがある方で楽しく受けることができた。	中1	男子
31	楽しく学べるように工夫されていて面白かった。	中1	男子
32	ニュースやアナウンサーの人は裏でとても忙しくて、それでも続けている千北さんがすごいと思った。プレゼンテーションのことも聞いて、テレビも社会の一部なんだなと思った。	中1	男子
33	テレビの裏でどんな工夫をしているのかを知れたし、話し方のコツを教わり、今後のプレゼンの役に立つと思いました。	中1	男子
34	とても楽しく、とても身になる授業でした。今後のプレゼンテーション授業でもいかにしていきたいです。	中1	男子
35	分かりやすく説明してくれてよかったですと思います。	中1	男子
36	自分はプレゼンテーションが苦手だったが先生の話をよくきいて発表をしたら、いつも以上にやりやすかったです。とてもいい経験になりました。	中1	女子
37	千北さんの声がすごく聞きやすく、それはそれは美しくて耳福でした！ 一生話していくので、ありがたい知識ばかりでした！ これからも生活にいかしていきます。	中1	女子
38	本物のアナウンサーからしか学べないことを習えた。これからの授業・生活にいかせる事ばかりで、興味深かった。	中1	女子
39	初めて聞くことでも、理解しやすく、千北先生のようなプレゼンができるようになりたいと思いました。あがり症改善にもなりそうだと感じました。	中1	女子
40	プレゼンの機会が多い中で、このような授業を受けられて、とてもためになりました。今後のプレゼンの機会でもいかにするため、さらにスキルアップしていきたいと思います。本当にありがとうございました。	中1	女子
41	人は外見の印象がほとんどで、人の話の内容はあまり印象に残らないということが、おもしろかった。	中1	女子
42	実際にテレビで活躍されている方にお話をうかがい、とても説得力があったと感じました。また言っているときも終始笑顔で、聞き取りやすい声でそれを仕事にしている人は本当にすごいんだなと衝撃を受けました。今回話していただいたことを、ぜひ家族に話すときにでもすぐに使って、使いこなせるようになりたいなと思いました。	中1	女子
43	現役のアナウンサーの方のお話を聞くという貴重な経験ができた上に短時間でインタビュー構成、発表をする他己紹介もできた。今後もプレゼンの機会があると思うので、今日のことを思い出して生かしていきたい。	中1	女子
44	アナウンサーの方で、話し方も綺麗でとても聞き取りやすく尊敬しました。2時間ほどの長い授業でしたが、内容が面白くて一瞬に感じました。今後もこのような授業を受けたいと思いました。	中1	女子
45	プレゼンテーションで意識することや大切なことについて知れて良かった。今後の授業で生かせようと思った。	中1	女子
46	実際に活動してみて、インタビューや要点をまとめることはとても難しかったです。テレビ、芸能関係の仕事に少し興味があったのでとても勉強になりました。	中1	女子
47	アナウンサーを目指している友達にすごく伝えたくなったり、プレゼンなどに説得力をもたせるために必要なことがよくわかった。また、今回インタビューを通してあまり話したことない人でも質疑応答を通して話が広がったのでこれからも実践していきたいと思いました。	中1	女子
48	アナウンサーとしてテレビに出ている方と同じ空間にいることに感動した。また私はずっと目を見つめがち(怖い)なので逆三角形の話は役に立ちそうです。	中1	女子
49	とても楽しかったし、学ぶことができました。今後生かしていきたいです。	中1	女子
50	とても楽しく、学びになりました！このような授業がもっとあるとうれしいです！	中1	女子
51	体験型の授業でアクティビティがあったから、すごく楽しかったし、自分のためになったと思う。	中1	女子
52	知らない情報を知れて良かった。交流が楽しかった。インタビューのときにも使いたい。	中1	女子
53	発表の仕方を工夫することで、いっきに内容が入りやすくなり、実践できるようにしたいと思った。	中1	女子
54	今までテレビでしかアナウンサーさんは見てこなかったけど、実際に近くで声を聞くと、とても聞こえやすい声量や抑揚で、おどろきました。	中1	女子
55	プレゼンテーションって難しいけど、いろいろ工夫できる部分があって全然印象が違うんだなと思った。今後のプレゼンテーションで意識したい。	中1	女子
56	新しく知ったことが多く、とても楽しい時間でした。分かりやすく、もっと長い時間聞いていたかったです。	中1	女子
57	プレゼンテーションのときに今日教わった方法を実行すると、聞いている人に良い印象が与えられるからやってみたい。	中1	女子

3.コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業 (中学校1年生 総合)

No.	授業の感想	学年	性別
58	とても楽しく分かりやすい授業で、実践したいと思う事が多くありました。将来人の上に立つ仕事をしたいので生かします！ご講演ありがとうございました！	中1	女子
59	とても面白くて楽しい授業でした。発表するときや自己紹介をするとき、今日のことを思い出してみようと思います。	中1	女子
60	メラビアン法の法則や構成を考えるうえで大事なことなどプレゼンテーションをするにあたって大切なことを分かりやすく教えていた事ができ、プレゼンテーションが多い附属中で悩んでいることがあったので、これから意識をしていこうと思います。	中1	女子
61	初めは本当にプレゼンが上手になれるようなことが学べるのか身につくのか不安だったけれど、みんなと活動して身になったのではなかと感じました。	中1	女子
62	パワーポイントや話し方が飽きないように工夫されていてすごいと思いました。例文なども教えてくれたので、どのように活用するか分かってためになりました。楽しかったです。	中1	女子
63	話すのがとてもうまく、自然と前のめりになるような授業だった。これからパワポを作ったり発表するときは、今日のことを思い出して作ったり話したいと思った。	中1	女子
64	今日教えてもらったプレゼンのコツを今後の発表などで生かしていきたい！	中1	女子
65	コミュニケーションやプレゼンは日常生活でも多くの場面で活用できるので、とても力になりました。楽しかったです。	中1	女子
66	みんなとも交流できてとても楽しめた。私は発表苦手なので、授業の内容をこれから使ってがんばりたいと思う。	中1	女子
67	お話を聞いたことを基にして活動したことがたのしかったし、実践したので、どのように今後使っていけば良いのか理解できました。先生の声もとてもお手本になり、マネをして、上手にプレゼンテーションできるようになれるといいなと思いました。ありがとうございました。	中1	女子
68	自分の普段の話し方を振り返るきっかけ、プロの方と比べる機会になった。このような授業は附属中ならではの感想。	中1	女子
69	とても新鮮な授業でした。先生もとてもやさしくて、お話を聞いて楽しかったです。今日学んだことは、今後のパワポ作りや発表に生かしていきたいです。ご講演ありがとうございました。	中1	女子
70	コミュニケーション能力やプレゼン技術など、ためになるものばかりで貴重な時間になりました。面白かったです。(特に他己紹介)ありがとうございました。	中1	女子
71	私はめっちゃくちゃ滑舌が悪いのでアナウンサーの仕事にはつけないけど、物事に対する考え方や、これから私たちが苦労しないように授業をしてくれて、ありがとうございました。	中1	女子
72	もともと声に関する仕事に興味があったので、今回このような機会でさまざまなことが知れてよかったです。ありがとうございました。	中1	女子
73	ふだん自分が意識してできてきたこともあったが、できていないこともあった。これからのプレゼンにとっても役立つと思った。とても楽しい時間をありがとうございました。	中1	女子
74	自分は口頭でのプレゼンテーションが苦手だったため、今回の授業で少し自信ができました。これからの生活でも発声方法など生かしていきたいです。	中1	女子
75	今までずっと滑舌が悪くて悩んでいたのを、教えてもらったことを活かして聞き取りやすい話し方を手に入れたいです！	中1	女子

4.VR(Virtual Reality)アート制作(高校1,2年生 美術)

No.	授業の感想	学年	性別
1	VRという今まで体験したことのないジャンルで、とても面白かったです。満足しました。	高1	男子
2	自分は絵があまり得意でないけど、立体を作るのは得意なので感覚的に描けるのは楽しかった。自分はジオラマづくりをすることがあるけど色々な「素材」を使って作り上げるのとVR上でいろいろな「ブラシ」を使うのは少し似ていると感じた。ジオラマでは発泡スチロールなどを切って作る人が多いので一部を削れるツールがあるといいなと思った。	高1	男子
3	VRで創ったものをNFTで価値を付けて売るといった金策を知れたよかったです。	高1	男子
4	ツールがたくさんあったので普段はつくれないうような質感などを出すことができたので楽しかったです。自分の描いたものに囲まれながら制作していくのが面白いなと思いました。	高1	女子
5	私は今回、感染症のため授業を受けられず、作品を作ることができなかったので残念です。皆さんの作った作品を見てすごく作りたい！！と思いました。ありがとうございました。	高1	女子
6	今回のVRを初めて体験して、立体的な作品を作ることができてVRには可能性がたくさん秘められているのだと実感しました。講師の方が物理演算(押したり、落ちたり)のあるVR機能があると教えてくださり、私も自分でマリオブラザーズの世界やゼペット(というアプリゲーム)にあるワールドのようなアトラクションを作ってみたいなと想像する気持ちが止まりません。今回の体験は私の創作活動に大きな影響を与えてくれたと思います。本当に楽しかったです。ありがとうございました。	高1	女子
7	VR空間での体験は今回が初めてで、普段できないような経験をすることができました。他の人の作品もアイデアが豊富で、3Dの色々な捉え方を知ることができ、良かったです。今回学べたことはこれからの社会でも多く使えることだと思うので、このような機会を大切にしたいです。	高1	女子
8	せきぐちあいみさんの作品を以前みて、いつかやってみたいと考えていたので、今回実際に体験できて本当によかったです。専門家の方々の丁寧でわかりやすい説明のおかげで思いえがく作品を完成させることができました。このような機会をくださり、ありがとうございました。	高1	女子
9	立体空間に描くのは難しかったけど楽しかったです。思ったようにはなかなか描けなかったけど平面上で立体を表現するのが苦手な自分には直接立体になるので今までと違った表現ができて様々な場面で使えると思った。人の体の中とか小さな生物などを再現すれば、小さな子どもが直感的体験できる教育の場面で使用できると思いました。	高2	男子
10	VR体験ができて、将来そういう仕事もいかなと考えていて、貴重な体験ができて、自分にとってとても役に立ちました。こういうのをどう広めるかだったり、どうしたら見てもらえるか、そのような場所に役立つかというのを考えさせられて、楽しくまじめな話題に入りこめたなと思いました。	高2	男子
11	VR上に絵を描くということとても貴重な時間を過ごすことができとても楽しかったです。自分は将来、絵に関する仕事に就きたいとっていて、今回このような授業を受けて、新しい知識を得ることができたし、良い刺激をうけることができました。機会があればまたやりたいです。	高2	性別無回答

実証授業実施校の教員アンケート

調査概要 実証授業実施校の教員アンケート

- 目的 :外部人材の活用に対する認知や考え方の把握
- 調査対象:実証事業実施校の教員
- 調査方法:調査票(Web)によるアンケート調査
- 調査期間:令和6年1月～3月(各実証授業前後に実施)

- 調査項目
 - 外部人材活用制度の認知
 - 勤務先での外部人材活用意向
 - 担当教科での外部人材活用意向
 - 好ましい雇用・活用形態
 - 活用したい業務
 - 外部人材への期待
 - 外部人材を活用する場合の問題、心配
 - 担当教科で活用したい映像制作の専門家

- 回答者数

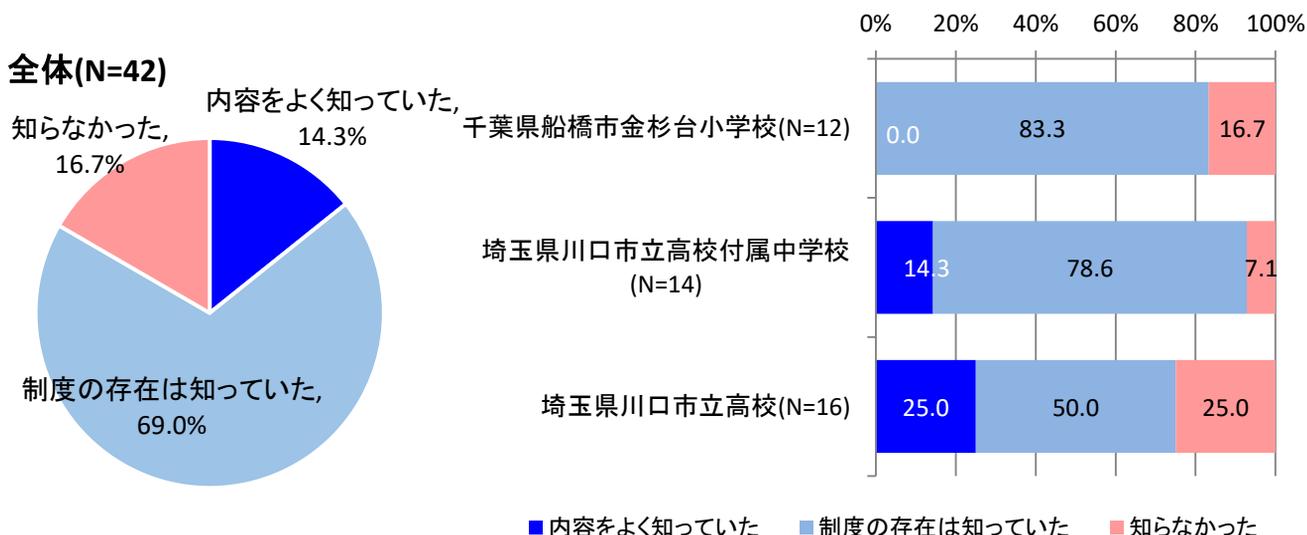
	回答者数
全体	42
千葉県船橋市金杉台小学校	12
埼玉県川口市立高校付属中学校	14
埼玉県川口市立高校	16

1.外部人材活用制度の認知

- 回答した教員の83%が制度の存在を知っており、14%は内容まで認知しているが、17%は「知らなかった」と回答している。
- 今回実証授業を行った学校のうち、いずれの学校でも「制度の存在は知っていた」が最も多い。

学校教育の多様化への対応や活性化を図るため、優れた知識経験等を有する社会人等や他の地域の人材を学校現場に迎え入れるための制度として「特別免許状」「特別非常勤講師」制度があります。「特別免許状」は、免許が授与された学校種・教科において、他の教師と同様の業務内容が可能です。「特別非常勤講師」は、教科等の領域の一部及び小学校のクラブ活動の指導が可能です。このアンケートではこれらを総称して「外部人材の活用」と呼びます。

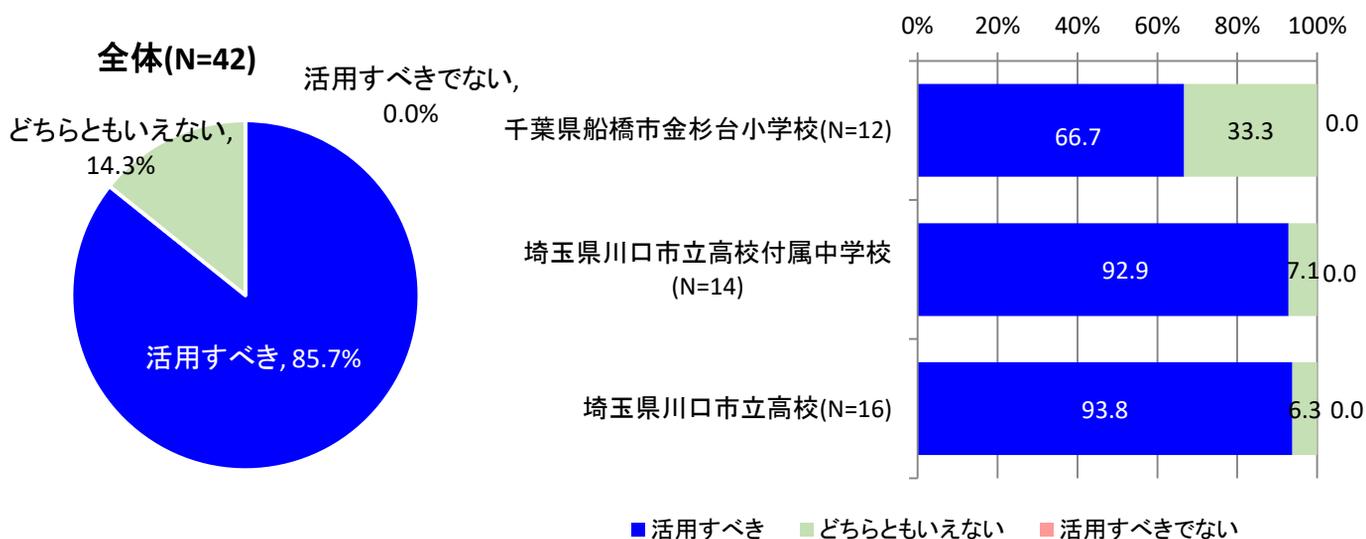
あなたは「特別免許状」「特別非常勤講師」といった外部人材の活用制度についてご存じでしたか。(ひとつだけ)



2.外部人材活用意向(自身の学校)

- 回答者自身の学校における外部人材の活用については約9割が「活用すべき」と回答している。「どちらともいえない」は約1割。「活用すべきでない」との回答はなかった。
- 特に、中学校、高校において活用意向が高く、それぞれ9割以上が「活用すべき」と考えている。

あなたは、ご自身の学校において外部人材を活用することについてどのような印象をお持ちですか。(ひとつだけ)



2.外部人材活用意向(自身の学校)

自身の学校において、外部人材を活用すべき理由(抜粋)

- 本物・プロの指導は有意義。
 - その道のプロにおしえて頂けると子供達にとって貴重な体験となるため。(小学校)
 - プロの話を知ることが、それだけで子供にとって大きな学びになると思うから。(小学校)
 - 本物に触れる体験をすることで貴重な経験になるから。(小学校)
 - 子どもたちは、本物の演奏や観劇を鑑賞したり専門的な指導を受けると、目を輝かせて興味を持ち、真似をしたがり、あっという間に上達するのを何度も目撃したことがある。秀でた人の協力を得ることは有意義である。(小学校)
 - 個人によって特化した強みがあるため、その力が生徒のために還元されるならばそちらの方が良いと考えるため。(国語)
- 専門的な知識を学べて、興味関心が高まる。
 - 専門的に活動していただくことで、子供の学習が深まる。(小学校)
 - 専門的な知識を深く教えてもらえることで、生徒の興味関心にもつながる。(養護)
 - 外部講師を活用することでより専門的な分野を深く学べると思います。また、生徒の興味関心も高まると思います。(養護)
- 授業・指導が充実する。
 - 指導がより充実すると思われるから。(書道)
 - よい学びの機会を生徒に与えるため。(国語)
 - 教員以外の職業をしている(していた)人の授業は生徒にとって魅力的で、普段の授業より集中して聞く生徒も多いと考えたからです。(数学)

2.外部人材活用意向(自身の学校)

自身の学校において、外部人材を活用すべき理由(抜粋)

- 多様な視点・価値観に触れることができる。
 - 多様な人々とのふれ合いが重要。(国語)
 - 外部講師を活用することで、教育目線でない視点での話もしていただける。(養護)
 - 教職員だけの価値観での指導に留まらず、外部人材の多様な視点や専門的な知識に触れることは大変効果が高いと考えるため。(管理職)
 - 幅広い知識や環境を生徒に提供するため。(国語)
- 教員だけでは提供できない学びや経験を提供できる。
 - 自分たちの知識や経験だけでは、生徒に教えられることが限られてしまう。(養護)
 - 教員が持ち合わせていない専門的な知識技能を、外部人材を活用することにより学校現場に取り入れることは、学習内容を深めるというだけでなく、生徒の多様な興味関心に応えることにもつながる。(理科)
 - 学校職員だけでは経験させられない貴重な学びを提供できるため。(数学)
 - 多様な社会において、教員だけの教育プログラムではもう対応できない時代だと実感しているから。様々なプロパーや立場の方から未来を創る子供たちに生きる力・生き抜く力を学ぶ柔軟な教育システムは必要です。(管理職)
 - 学校(教員だけ)では、これからの社会に通用する多様な人材を育成することは難しいと考える。(管理職)
 - 専門性の高い内容を現場でしかわからない最新の技術や知識を活用して教材として扱うには現場の教員では限界がある。(美術)
- 進路選択に役立つ。
 - キャリア教育の観点も含めて有用だと思う。(理科)
 - 外部人材を活用することで多様な生徒のニーズに合わせた内容や進路の視野を広げるためのも有効的である。(美術)

2.外部人材活用意向(自身の学校)

自身の学校において、外部人材を活用すべき理由(抜粋)

- 教員の負担軽減が期待できる。
 - 教員の負担軽減(理科)
 - 専門知識を活用したり、負担を軽減できそうだと考えたため。(美術)
 - クラブ活動や部活動での活用は、専門的な指導を受けられ、従来指導にあっていた教員の業務削減に繋がると思う。(小学校)
- 教員にとっても学びになる。
 - 生徒にとっても教員にとっても、優れた知識経験等を有する社会人の方からの講演などを通して関わりをもつことは、とても勉強になると思います。(数学)
 - その道のプロの方からの授業は子供たちだけでなく、教職員にとっても大いに学びになると思うため活用すべき。(管理職)
 - 教員にとっても学びが多く、対生徒の引き出しが増えたり思い出したりできる良い材料だと考えます。生徒に指導したことと同じことを外部の方に言われることは、何が大切かを再確認させられる良いきっかけだと思います。(数学)
- 今回の実証授業が有意義だった
 - 今回の授業が大変有意義なものであったから。専門性のある方や、様々な分野で活躍している方から学ぶ機会を得ることは、貴重な経験である。(英語)
 - 実際やってみてよかった。ただ、連絡調整をする方は時間的に大変だと思いました。(小学校)

2.外部人材活用意向(自身の学校)

自身の学校での外部人材の活用に「どちらともいえない」理由

- 連絡調整など時間と労力をとられそう。
 - やりとりが大変そう。効果と労力を比べてしまう。(小学校)
 - 活用できるなら活用したいが、外部人材を使うことで、連絡調整に負担がかかったり、授業時数が圧迫されたりするくらいなら活用したいとは思わないから。(小学校)

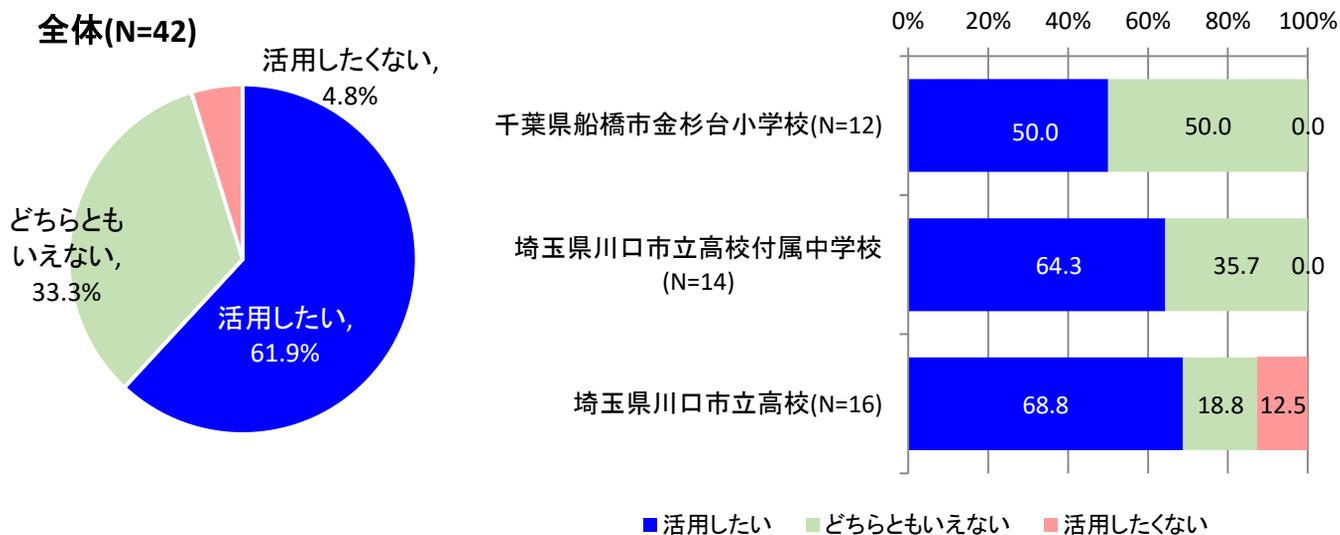
- 制度を知らない。
 - 制度自体をよく知らない。(英語)

- 教員免許の意味がなくなる。
 - 教員免許の意味がない。(理科)

3.外部人材活用意向(自身の担当教科)

- 自身の担当教科で外部人材を「活用したい」と回答したのは約6割。「自身の学校」での活用意向(「活用すべき」が約9割)と比べると活用意向は低い。
- 小学校よりも中学校、高校で「活用したい」が多いが、高校では「活用したくない」との回答もみられた。

あなたは、ご自身の担当教科において、外部人材を活用したいと思いますか。(ひとつだけ)



3.外部人材活用意向(自身の担当教科)

自身の担当教科において、外部人材を活用したい理由(抜粋)

- 専門性の高い指導ができる。
 - 専門の方の話を聞くことが、一番の学びになると考えます。(小学校)
 - 書道などはやはりその道のプロや得意な方の外部人材の活用が望ましいと思います。(小学校)
 - 専門性をもった方の言葉は、説得力が違います。生徒はそのことは感覚的にもわかります。その道のプロから教わる機会は大切です。(管理職)
 - より専門性の高い指導ができるため(数学)
 - より専門的な指導ができると思われるから(書道)
 - 生徒の心身の健康増進を図るための保健指導の内容は、授業のカリキュラムにはない内容が多く、また、領域もとても広く内容も複雑化しており(メンタルヘルス、性の在り方、がん教育、薬物乱用防止、安全防災、など)、より専門的な話が必要とされるため。(養護)
 - 優れた知識や経験を生徒に伝えてもらいたいから。(数学)

- 視野、授業の幅が広がる。
 - 外部人材を活用することで、授業の幅が広がるから。(国語)
 - 授業の可能性を広げたい。(国語)
 - 多様な視点や情報を授業で活用することができる考えたため。(美術)
 - 生徒の学びに有効であるから。生徒の興味関心を引き出し、幅広い知識や深い理解を得ることができる。(英語)

3.外部人材活用意向(自身の担当教科)

自身の担当教科において、外部人材を活用したい理由(抜粋)

- 自分では教えられないことを伝えられる。
 - 私では教えられないことを生徒に教え、触れさせたいから。(国語)
 - 性教育やがん教育では外部講師を活用することで私たちが伝えられない部分もしっかり伝えていただけたと思います。(養護)
 - 自分の指導には限界があるので、子供達によりよい授業や学習を受けてほしいため。(小学校)
 - 教科書などに書いてあっても、本場の話や経験は教員では培えないから。(小学校)
 - 自身が苦手とする分野における指導において、それを強みとする他者が指導してくれるならば生徒・教員双方にとって良いと考えるため。(国語)
- 教育内容、社会の変化に対応できる。
 - 教育内容が大きく変化していることに対応するため。(国語)
 - 教科の特性上、「表現」について考え、その可能性を伝えていくことが重要と考えている。表現は社会の情勢や時代の流れ技術の発展とともに日々変化している。それに対応するためには、社会の中で活躍している人材を教育現場に活用していくことは大変有意義なことと考える。(美術)
 - 企業や研究機関による科学研究の最先端を、ぜひ生徒に体験させ、生徒自身の研究に取り入れたい。
- 教員の研鑽、資質向上につながる。
 - 管理職という立場では、生徒対象だけでなく、教職員にも資質向上になると考えるため。(管理職)
 - 専門分野が分かれる理科は、私の知識では足りない面が多々ある。私自身の研鑽にもなる。(理科)
 - 専門知識を持つ人材は生徒の視野が広がり、教員にとっても可能性を広げるきっかけになりそうだと考える(美術)
- 活用した経験がないので、活用してみたい。
 - 一回も活用したことがなく、また、周りでも活用したところを見たことがないので、してみたい。(数学)

3.外部人材活用意向(自身の担当教科)

自身の担当教科での外部人材の活用について「わからない」理由(抜粋)

- 労力がとられる。
 - やりとりが大変。効果と労力を考えると…。(小学校)
 - 活用できるなら活用したいが、外部人材を使うことで、連絡調整に負担がかかったり、授業時数が圧迫されたりするくらいなら活用したいとは思わないから。(小学校)
 - 日常の授業での活用となると、児童にとって有意義な授業となるであろうという魅力を感じる一方で、そこに至るまで担任と外部人材とで打合せを行わなくてはいけないことが業務への負担に感じる。最終的に成績は担任教師が評価しなくてはならないため、扱ってほしい内容等、授業のコーディネートをするのは担任教師となり、体系化されるまでは外部人材を活用した単元計画を1から作成する労力が必要となるため、積極的に活用すべきとはいえない。(小学校)
- 時間を確保できない。
 - 新たな仕組みを構築する時間の確保が難しいと感じている。(英語)
 - 教科指導において、外部人材を活用するだけの時間的余裕がない。多様な媒体を教室で活用できる今日においては、それらを活用して同様な効果を得る工夫が必要だと思う。(英語)
- どのように活用できるかわからない。
 - どのような利用ができるのか内容がわからない。(英語)
- 人材による。
 - 「担当教科において」という言葉がつくと、是が非でもというわけではないです。どのような職の方かというところによると思います。(数学)
- 自分で深めていきたい部分もある。
 - 自分で深めたい部分もあるので、状況に応じて。(小学校)

3.外部人材活用意向(自身の担当教科)

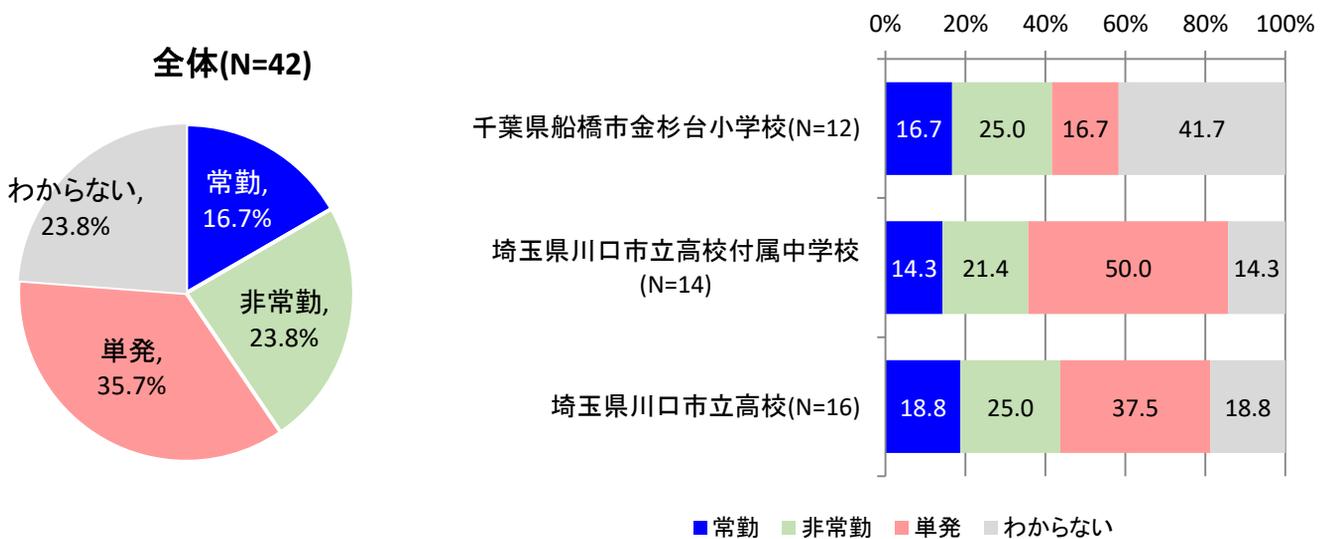
自身の担当教科において、外部人材を活用したくない理由

- 授業時間がとれない。
 - 授業進度を考えると、厳しいものがある。(数学)
- 時間的コストがメリットと釣り合わない。
 - 外部人材の能力を確認したり、授業内容を打ち合わせる時間的コストがメリットと釣り合わないから。(理科)

4. 好ましい雇用・活用形態

- 好ましい雇用・活用形態としては「単発」が36%で最多。次いで「非常勤」24%が続く。
- 「常勤」が好ましいとの回答は、いずれの校種でも2割未満。
- 小学校では「わからない」が42%で最多。中学校では「単発」が50%、高校でも「単発」が38%で最多となっている。

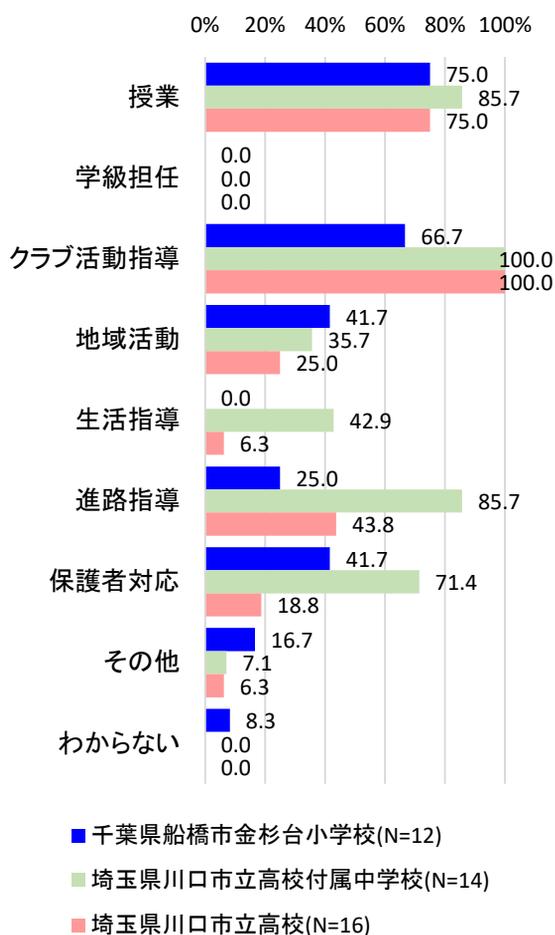
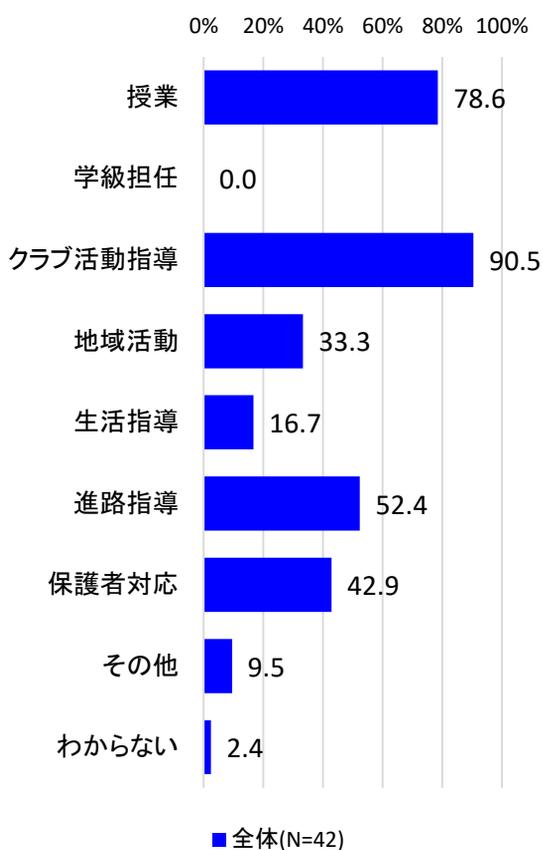
あなたの学校で外部人材を活用する場合、好ましいと思う活用方法について教えてください。
 (制度的な制約はないものとして、ご希望をお答えください)
 雇用・活用形態 (ひとつだけ)



5.活用したい業務

- 活用したい業務としては「クラブ活動指導」が91%で最多。「授業」の79%を上回る。
- 小学校においては「授業」75%、「クラブ活動指導」67%の順。
- 中学校では「クラブ活動指導」が100%で最多。次いで「授業」「進路指導」がともに86%、「保護者対応」71%と続く。
- 高校では「クラブ活動指導」が100%で最多。次いで「授業」75%と続く。

あなたの学校で外部人材を活用する場合、好ましいと思う活用方法について教えてください。
 (制度的な制約はないものとして、ご希望をお答えください)
 活用したい業務 (いくつでも)



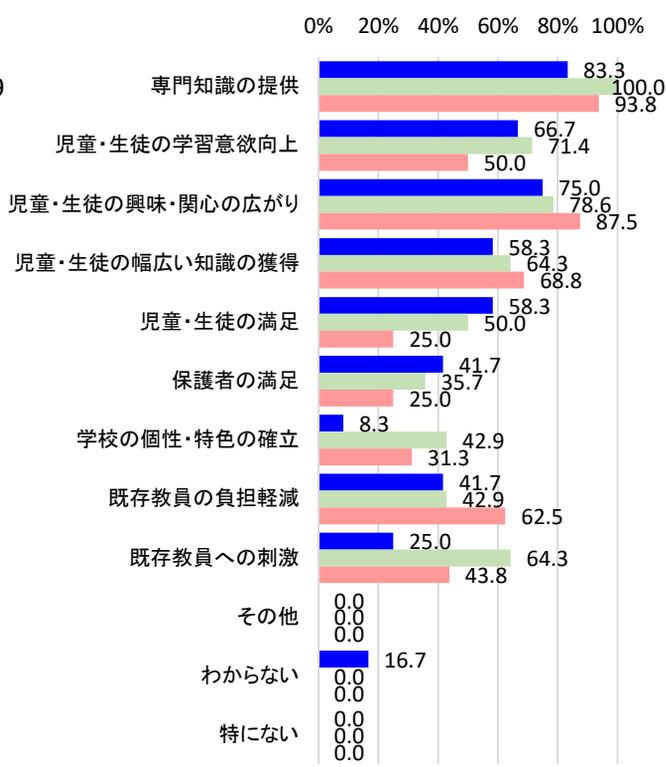
6.外部人材活用への期待

- 外部人材の活用に期待することは「専門知識の提供」が93%で最多。次いで「児童・生徒の興味・関心の広がり」81%が続く。
- いずれの校種でも「専門知識の提供」「児童・生徒の興味・関心の広がり」の順。次いで、小学校と中学校では「児童・生徒の学習意欲向上」が続き、高校では「児童・生徒の幅広い知識の獲得」が続く。

あなたの学校で外部人材を活用する場合、期待することは何ですか。（いくつでも）



■ 全体(N=42)



■ 千葉県船橋市金杉台小学校(N=12)

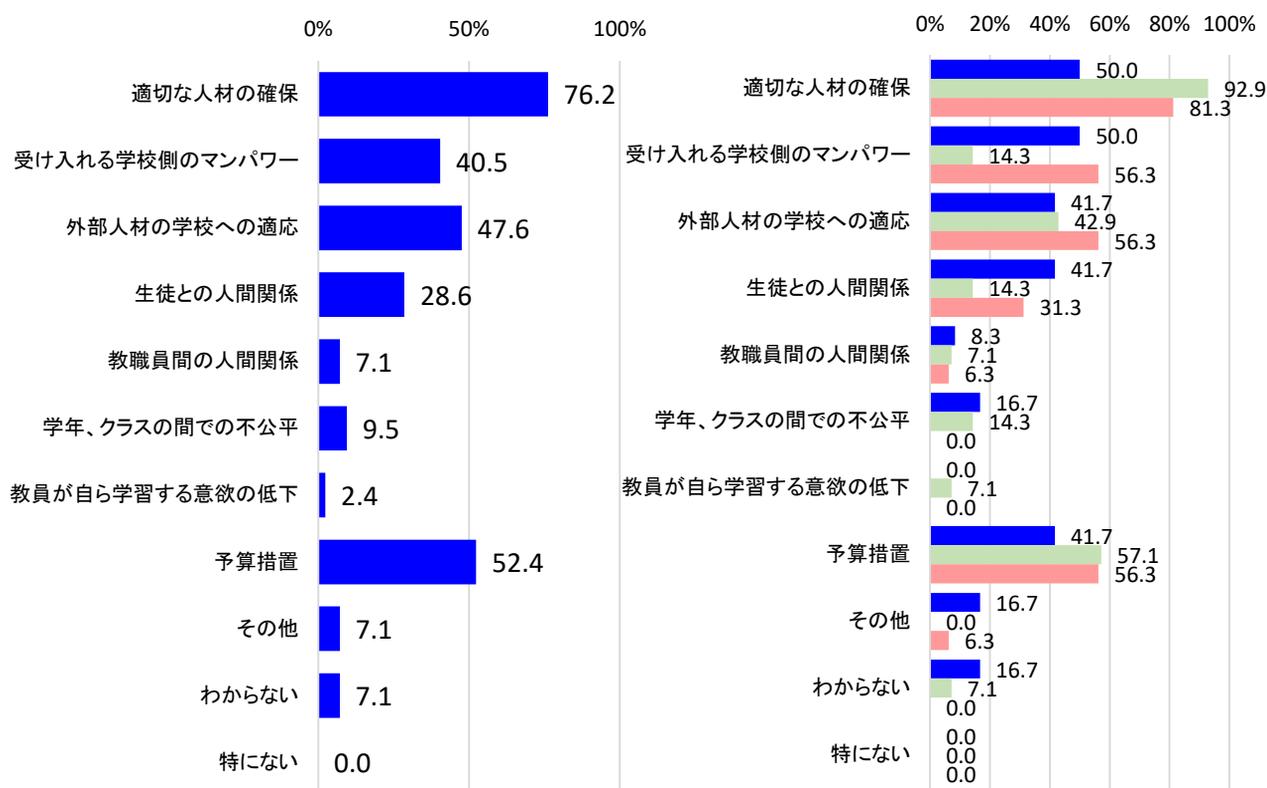
■ 埼玉県川口市立高校附属中学校(N=14)

■ 埼玉県川口市立高校(N=16)

7.外部人材活用の問題・心配なこと

- 外部人材を活用する場合に問題となること、心配なことは「適切な人材の確保」が76%で最多。次いで「予算措置」52%、「外部人材の学校へ適応」48%、「受け入れる学校側のマンパワー」41%と続く。
- 小学校では「適切な人材の確保」「受け入れる学校のマンパワー」がともに50%、次いで「外部人材の学校への適応」「生徒(児童)との人間関係」「予算措置」がともに42%で続く。
- 中学校では「適切な人材の確保」が93%で最多。次いで「予算措置」57%が続く。
- 高校では「適切な人材の確保」が81%で最多。次いで「受け入れる学校のマンパワー」「外部人材の学校への適応」「予算措置」がともに56%で続く。

あなたの学校で外部人材を活用する場合、問題となること、心配なことは何ですか。（いくつでも）



■ 全体(N=42)

■ 千葉県船橋市金杉台小学校(N=12)

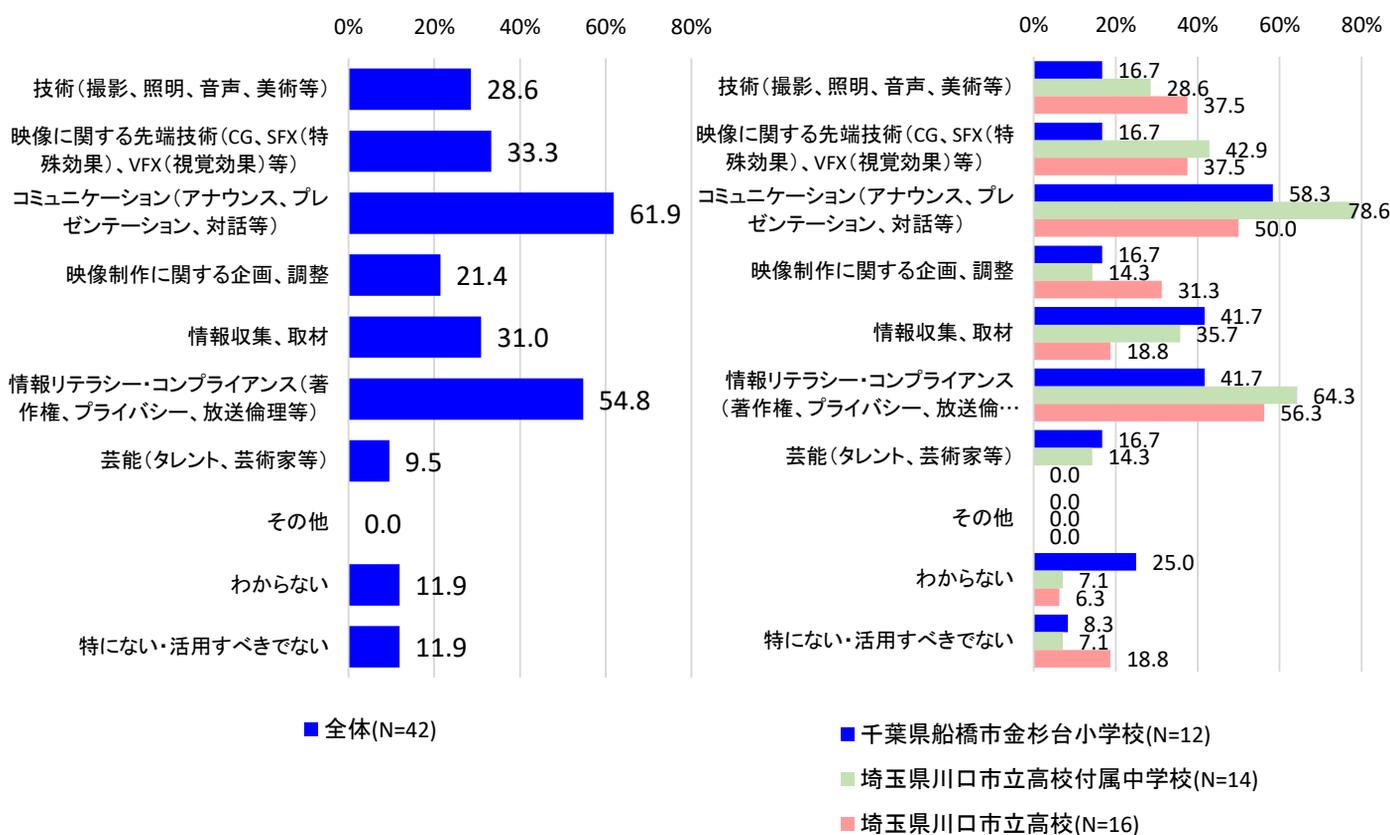
■ 埼玉県川口市立高校附属中学校(N=14)

■ 埼玉県川口市立高校(N=16)

8.活用したいと思う映像制作の専門家

- 活用したい専門家の領域は「コミュニケーション(アナウンス、プレゼンテーション、対話等)」が62%で最多。次いで「情報リテラシー・コンプライアンス(著作権、プライバシー、放送倫理等)」55%が続く。
- 小学校では「コミュニケーション」58%、「情報収集・取材」「情報リテラシー・コンプライアンス」42%の順。
- 中学校では「コミュニケーション」79%、「情報リテラシー・コンプライアンス」64%の順。
- 高校は「情報リテラシー・コンプライアンス」56%、「コミュニケーション」50%の順。

本事業では、映像制作に関する専門家の学校教育での活用について検討しています。あなたは、次のような映像制作に関する専門家を活用したいと思いますか。あなたの担当教科で活用したいと思う専門家の領域をお選びください。(いくつでも)



8.映像制作の専門家を活用するための条件、意見(抜粋)

- 期待する授業・活用方法
- リテラシー・コンプライアンス教育
 - 生徒たちの日常生活はもとより、学校としても、部活動、生徒会や広報においても、映像作成技術や取り巻くコンプライアンス関連に関心とニーズは高いと思う。有効に活用できることを期待している。(英語)
 - 携帯電話やSNSの発達は個人で世界発信できるシステムを構築したため、未成年でも情報モラルの習得が必要な世の中になっています。映像制作を通じて正しい映像倫理やその意義なども含め正しく情報発信できる力をつける授業を考えていきたい。(管理職)
 - 映像制作とともに鑑賞やリテラシーの観点でも対応できる人材が望ましい。(美術)
- 児童・生徒が使える知識、体験
 - 子供にわかりやすく、子供が使える専門的な知識を教えることができると思います。(小学校)
 - 生徒が体験できるPCなどのデジタル機(理科)
- 鑑賞
 - 鑑賞も一緒にやっていただくと生徒の視野が広がると考える。(美術)
- 総合学習、生徒会、委員会での指導
 - 「総合的な学習の時間」、「生徒会活動」、「委員会活動」などで映像制作に関する専門家の方から指導いただけると、とても有効だと感じる。(数学)
- キャリア教育
 - 自分の教科としては映像制作に関する専門家についてはよくわからなかったが、子供たちにとって映像制作はSNS等の普及により以前よりも身近になっていると思うので、映像制作に関する専門家を招いた授業等を行うことで将来の職業の選択の幅が広がるのではないかと期待しています。(養護)
 - 学校にはない設備や環境を提供し、キャリア教育のひとつにできればよいと思う。(国語)

8.映像制作の専門家を活用するための条件、意見(抜粋)

- 活用の条件
- 限られた時間内で取り組める内容であること。
 - 映像制作には多くの工程や要素があり、すべての内容を取り入れた制作するには長期的な制作期間やグループワークでの分業など多くの課題がある。週1～2時間の単発での授業内で行うにはトータルの作品を制作させるのではなく、工程や要素をミニマルにし個人でも限られた時間の中で取り組める教材を相互に協議し提案していただける人材が有難い。(美術)
- 学習指導要領に沿い、映像制作ありきでない内容であること。
 - 学習指導要領に即した内容での授業を組み立てていくことが大切である。映像制作ありきで授業をつくるのではなく、この授業でここで映像制作が必要という場面での活用をしていくことが大切だと思う。(小学校)
- 「評価」など教育に対する理解がある人材
 - 授業となれば「評価」が必要になるため、そういった教育について理解した方々が人材としてはふさわしいと思います。(管理職)
- 資機材等の整備、予算措置
 - 校内の映像制作等に関するICTの環境整備は必要かと思います。(養護)
 - 授業で活用できることは、先般の研究授業で実証された。外部人材が継続的に指導できる環境を整えるとともに、機材の整備にかかる予算措置が必要。(理科)
 - 教科・個人としても「映像メディア表現」の実践を行っている。映像制作では機材・PCへの依存性が高く、制作環境も重要である。(美術)
 - 外部人材の活用には予算的な処置も含め学校現場の現状や教育的効果・配慮について十分理解して取り組んでもらう必要がある。(美術)

8.映像制作の専門家を活用するための条件、意見(抜粋)

- 不安・懸念など
- 教職員の負担
 - 子供たち自身で解決できる活動。教師の仕事が増えないように。(小学校)
 - 何よりも重視したい条件は、これ以上教員の業務が増えないことです。ただでさえ教員の業務改善はなかなか進まず、現場の努力だけでは限界があり、むしろ教員不足により一人あたりの仕事は増える一方です。外部人材ももちろん魅力的な存在ですが、毎日子どもたちと向き合う担任教師の存在を何よりも重視しなくては本末転倒であると思います。いくら新しい人材を入れても、毎日子どもたちの前に立つ担任教師がいなくなってしまうとは、意味がないと思います。どうかこれ以上現場の教員の労働環境が悪化しないよう、事業を考えていただけたら幸いです。(小学校)
 - 校内の映像制作担当者が判断する内容が多いので、担当者への負担増が懸念される。(理科)
 - 多人数での取り組みに際しては機材の調達や環境整備また、関係各所への調整が教員の負担となる。(美術)
- 日程・内容等の事前調整、時間の確保
 - 日程調整や授業カリキュラムへの組み込み等、事前調整にしっかりと時間をとれること。(以前勤めていた学校では、予定が直前にならないとわからなかったりして、現場負担が大きかった)(国語)
 - 柔軟な日程調整(管理職)
 - 授業であれば単発の導入などを継続した授業に向けて話し合いながら組み立てていきたい。打ち合わせ、時間の確保、授業日数などかなりの拘束時間になってしまうので専門家の方のご協力など必要になると考える。(美術)
- 教員の力不足、苦手意識
 - 映像制作にあたっては教員の認識不足・苦手意識があり、教育現場に取り入れることに敬遠しがちである。生徒ではなく教員を対象とした教科研究会などでの実践講習会を実施していただけるとありがたい。(美術)
 - 映像制作に関わることで、子供の意欲などが上がるが、技術的な面で教員の力不足があげられる。それをしないために、より多くの授業を持って頂かなければいけないので、予算面で心配。(小学校)

実証授業実施校の教員アンケート 自由回答集

2.外部人材活用意向(自身の学校)

自身の学校において、外部人材を活用すべき理由

活用すべき理由

No.	勤務先での活用意向の理由
1	その道のプロにおしえて頂けると子供達にとって貴重な体験となるため。
2	プロの話の聞けることは、それだけで子供にとって大きな学びになると思うから。
3	本物に触れる体験をすることで貴重な経験になるから。
4	子どもたちは、本物の演奏や観劇を鑑賞したり専門的な指導を受けると、目を輝かせて興味を持ち、真似をしたがり、あつという間に上達するのを何度も目撃したことがある。秀でた人の協力を得ることは有意義である。
5	専門的に活動していただくことで、子供の学習が深まる。
6	実際にやってみてよかった。ただ、連絡調整をする方は時間的に大変だと思いました。
7	クラブ活動や部活動での活用は、専門的な指導を受けられ、従来指導にあたっていた教員の業務削減に繋がると思う。クラブ活動や部活動、委員会活動、道徳、行事など、数値として成績を評価する必要のない活動であれば、積極的に外部人材を活用してほしいと思う。
8	フレキシブルな学校ではあるので活用に向けて前向きに検討できると考える
9	専門知識を活用したり、負担を軽減できそうだと考えたため。
10	教員の負担軽減
11	教員が持ち合わせていない専門的な知識技能を、外部人材を活用することにより学校現場に取り入れることは、学習内容を深めるというだけでなく、生徒の多様な興味関心に応えることにもつながる。 また、民間と学校を繋ぐ糸口になることも期待する。
12	外部人材は生徒にとっても刺激的であると思う。
13	十分な能力を持っている外部人材であれば活用すること自体は悪くないと思う。
14	外部講師を活用することでより専門的な分野を深く学べると思います。また、生徒の興味関心も高まると思います
15	人材不足の解消 多様な人々とのふれ合いが重要
16	・自分たちの知識や経験だけでは、生徒に教えられることが限られてしまう。 ・外部講師を活用することで、教育目線でない視点での話もしていただける。 ・専門的な知識を深く教えてもらえることで、生徒の興味関心にもつながる。
17	指導がより充実すると思われるから
18	学校教員では伝えられないこと、ものを伝えることが可能であり、それにより、生徒たちが刺激などを受け大きく成長する可能性がある。ただし、外部人材は、あくまで教育現場において一般の方であるので、担当部署や担当者が、彼らをどのように活用するかを正しくマネジメントできるかが重要だと思う。
19	専門性の高い内容を現場でしかわからない最新の技術や知識を活用して教材として扱うには現場の教員では限界がある。外部人材を活用することで多様な生徒のニーズに合わせた内容や進路の視野を広げるためのも有効的である。
20	よい学びの機会を生徒に与えるため。
21	学校の教員だけではできない授業が可能となるから。
22	本校の教育目標には、社会に活躍するリーダーの育成があり、教職員だけの価値観での指導に留まらず、外部人材の多様な視点や専門的な知識に触れることは大変効果が高いと考えるため。
23	本校の生徒こそ、我々教員だけではなくさまざまな業界のプロからの指導が必要。キャリア教育の観点も含めて有用だと思う。
24	今回の授業が大変有意義なものであったから。専門性のある方や、様々な分野で活躍している方から学ぶ機会を得ることは、貴重な経験である。
25	個人によって特化した強みがあるため、その力が生徒のために還元されるならばそちらの方が良いと考えるため。
26	生徒にとっても教員にとっても、優れた知識経験等を有する社会人の方からの講演などを通して関わりをもつことは、とても勉強になると思います。
27	学校(教員だけ)では、これからの社会に通用する多様な人材を育成することは難しいと考える。その道のプロの方からの授業は子供たちだけでなく、教職員にとっても大いに学びになると思うため活用すべき。
28	幅広い知識や環境を生徒に提供するため。
29	多様な社会において、教員だけの教育プログラムではもう対応できない時代だと実感しているから。様々なプロパーや立場の方から未来を創る子供たちに生きる力・生き抜く力を学ぶ柔軟な教育システムは必要です。
30	教員以外の職業をしている(していた)人の授業は生徒にとって魅力的で、普段の授業より集中して聞く生徒も多いと考えたからです。また教員にとっても学びが多く、対生徒の引き出しが増えたり思い出したりできる良い材料だと考えます。生徒に指導したことと同じことを外部の方に言われることは、何が大切かを再確認させられる良いきっかけだと思います。
31	業務の軽減や、新たな学びや刺激を得られること。
32	学校職員だけでは経験させられない貴重な学びを提供できるため

2.外部人材活用意向(自身の学校)

自身の学校での外部人材の活用に「どちらともいえない」理由

どちらともいえない理由

No	勤務先での活用意向の理由
1	やりとりが大変そう。効果と労力を比べてしまう。
2	活用できるなら活用したいが、外部人材を使うことで、連絡調整に負担がかかったり、授業時数が圧迫されたりするくらいなら活用したいとは思わないから。
3	制度自体をよく知らない
4	教員免許の意味がない。 しかし、人手不足ではあるので、教育相談や生徒指導等でどこまで活躍できるかによる。

3.外部人材活用意向(自身の担当教科)

自身の担当教科において、外部人材を活用したい理由

活用したい理由

No.	担当教科での活用意向の理由	担当教科
1	自分の指導には限界があるので、子供達によりよい授業や学習を受けてほしいため。	小学校
2	教科書などに書いてあっても、本場の話や経験は教員では培えないから。	小学校
3	専門の方の話を聞くことが、一番の学びになると考えます。	小学校
4	子どもたちは、本物の演奏や観劇を鑑賞したり専門的な指導を受けると、目を輝かせて興味を持ち、真似をしたがり、あっという間に上達するのを何度も目撃したことがある。秀でた人の協力を得ることは有意義である。	小学校
5	書道などはやはりその道のプロや得意な方の外部人材の活用が望ましいと思います。	小学校
6	専門知識を持つ人材は生徒の視野が広がり、教員にとっても可能性を広げるきっかけになりそうだと考える	美術
7	多様な視点や情報を授業で活用することができると考えたため	美術
8	企業や研究機関による科学研究の最先端を、ぜひ生徒に体験させ、生徒自身の研究に取り入れたい。ただ、必要な施設設備を学校に導入するには、多額の費用が掛かるので、そのための手当てが必要になる。	理科
9	性教育やがん教育では外部講師を活用することで私たちが伝えられない部分もしっかり伝えていただくとと思います。	養護
10	授業の可能性を広げたい	国語
11	生徒の心身の健康増進を図るための保健指導の内容は、授業のカリキュラムにはない内容が多く、また領域もとても広く内容も複雑化しており(メンタルヘルス、性の在り方、がん教育、薬物乱用防止、安全防災、など)、より専門的な話が必要とされるため。	養護
12	より専門的な指導ができると思われるから	書道
13	教科の特性上、「表現」について考え、その可能性を伝えていくことが重要と考えている。表現は社会の情勢や時代の流れ技術の発展とともに日々変化している。それに対応するためには、社会の中で活躍している人材を教育現場に活用していくことは大変有意義なことと考える。	美術
14	教育内容が大きく変化していることに対応するため。	国語
15	優れた知識や経験を生徒に伝えてもらいたいから。	数学
16	外部人材を活用することで、授業の幅が広がるから。	国語
17	管理職という立場では、生徒対象だけでなく、教職員にも資質向上になると考えるため。	管理職
18	専門分野が分かれる理科は、私の知識では足りない面が多々ある。私自身の研鑽にもなる。	理科
19	生徒の学びに有効であるから。生徒の興味関心を引き出し、幅広い知識や深い理解を得ることができる。	英語
20	自身が苦手とする分野における指導において、それを強みとする他者が指導してくれるならば生徒・教員双方にとって良いと考えるため。	国語
21	一回も活用したことがなく、また、周りでも活用したところを見たことがないので、してみたい。	数学
22	私では教えられないことを生徒に教え、触れさせたいから。	国語
23	専門性をもった方の言葉は、説得力が違います。生徒はそのことは感覚的にもわかります。その道のプロから教わる機会は大切です。	管理職
24	より専門性の高い指導ができるため	数学

3.外部人材活用意向(自身の担当教科)

自身の担当教科における外部人材の活用に「どちらともいえない」理由
自身の担当教科では外部人材を「活用したくない」理由

どちらともいえない理由

No.	担当教科での活用意向の理由	担当教科
1	やりとりが大変。効果と労力を考えると・・・。	小学校
2	活用できるなら活用したいが、外部人材を使うことで、連絡調整に負担がかかったり、授業時数が圧迫されたりするくらいなら活用したいとは思わないから。	小学校
3	自分で深めたい部分もあるので、状況に応じて。	小学校
4	日常の授業での活用となると、児童にとって有意義な授業となるであろうという魅力を感じる一方で、そこに至るまで担任と外部人材とで打合せを行わなくてはいけないことが業務への負担に感じる。最終的に成績は担任教師が評価しなくてはならないため、扱ってほしい内容等、授業のコーディネートをするのは担任教師となり、体系化されるまでは外部人材を活用した単元計画を1から作成する労力が必要となるため、積極的に活用すべきとはいえない。	小学校
5	なんともいえないから	理科
6	どのような活用ができるのか内容がわからない	英語
7	教科指導において、外部人材を活用するだけの時間的余裕がない。多様な媒体を教室で活用できる今日においては、それらを活用して同様な効果を得る工夫が必要だと思う。	英語
8	教科担当ではない	管理職
9	「担当教科において」という言葉がつくと、是が非でもというわけではないです。どのような職の方かというところによろと思います。	数学
10	新たな仕組みを構築する時間の確保が難しいと感じている。	英語

活用したくない理由

No.	担当教科での活用意向の理由	担当教科
1	授業進度を考えると、厳しいものがある。	数学
2	外部人材の能力を確認したり、授業内容を打ち合わせる時間的コストがメリットと釣り合わないから。	理科

8.映像制作の専門家を活用するための条件、意見

No.	映像制作の専門家の活用の条件、意見	担当教科
1	子供たち自身で解決できる活動。教師の仕事が増えないように。	小学校
2	子供にわかりやすく、子供が使える専門的な知識を教えることができると思います。	小学校
3	映像制作に関わることで、子供の意欲などが上がるが、技術的な面で教員の力不足があげられる。それをしないために、より多くの授業を持って頂かなければいけないので、予算面で心配。	小学校
4	学習指導要領に即した内容での授業を組み立てていくことが大切である。映像制作ありきで授業をつくるのではなく、この授業でここで映像制作が必要という場面での活用をしていくことが大切だと思う。	小学校
5	何よりも重視したい条件は、これ以上教員の業務が増えないことです。ただでさえ教員の業務改善はなかなか進まず、現場の努力だけでは限界があり、むしろ教員不足により一人あたりの仕事は増える一方です。外部人材ももちろん魅力的な存在ですが、毎日子どもたちと向き合う担任教師の存在を何よりも重視しなくては本末転倒であると思います。いくら新しい人材を入れても、毎日子どもたちの前に立つ担任教師がいなくなってしまうのは、意味がないと思います。どうかこれ以上現場の教員の労働環境が悪化しないよう、事業を考えていただけたら幸いです。	小学校
6	授業であれば単発の導入などを継続した授業に向けて話し合いながら組み立てていきたい。打ち合わせ、時間の確保、授業日数などかなりの拘束時間になってしまうので専門家の方のご協力など必要になると考える。 鑑賞も一緒にやっていただくと生徒の視野が広がると考える。	美術
7	授業で活用できることは、先般の研究授業で実証された。外部人材が継続的に指導できる環境を整えるとともに、機材の整備にかかる予算措置が必要。	理科
8	校内の映像制作担当者が判断する内容が多いので、担当者への負担増が懸念される。	理科
9	自分の教科としては映像制作に関する専門家についてはよくわからなかったが、子供たちにとって映像制作はSNS等の普及により以前よりも身近になっていると思うので、映像制作に関する専門家を招いた授業等を行うことで将来の職業の選択の幅が広がるのではないかと期待しています。	養護
10	校内の映像制作等に関するICTの環境整備は必要かと思います。	養護
11	生徒たちの日常生活はもとより、学校としても、部活動、生徒会や広報においても、映像作成技術や取り巻くコンプライアンス関連に関心とニーズは高いと思う。有効に活用できることを期待している。	英語
12	・教科・個人としても「映像メディア表現」の実践を行っている。映像制作では機材・PCへの依存性が高く、制作環境も重要である。多人数での取り組みに際しては機材の調達や環境整備また、関係各所への調整が教員の負担となる。外部人材の活用には予算的な処置も含め学校現場の現状や教育的効果・配慮について十分理解して取り組んでもらう必要がある。 ・映像制作には多くの工程や要素があり、すべての内容を取り入れた制作するには長期的な制作期間やグループワークでの分業など多くの課題がある。週1～2時間の単発での授業内で行うにはトータルの作品を制作させるのではなく、工程や要素をミニマルにし個人でも限られた時間の中で取り組める教材を相互に協議し提案していただける人材が有難い。 ・映像制作とともに鑑賞やリテラシーの観点でも対応できる人材が望ましい。 ・映像制作にあたっては教員の認識不足・苦手意識があり、教育現場に取り入れることに敬遠しがちである。生徒ではなく教員を対象とした教科研究会などでの実践講習会を実施していただけたらありがたい。	美術
13	日程調整や授業カリキュラムへの組み込み等、事前調整にしっかりと時間をとれること。 (以前勤めていた学校では、予定が直前にならないとわからなかったりして、現場負担が大きかった)	国語
14	柔軟な日程調整	管理職
15	生徒が体験できるPCなどのデジタル機	理科
16	「総合的な学習の時間」、「生徒会活動」、「委員会活動」などで映像制作に関する専門家の方から指導いただけたらと、とても有効だと感じる。	数学
17	学校にはない設備や環境を提供し、キャリア教育のひとつにできればよいと思う。	国語
18	携帯電話やSNSの発信は個人で世界発信できるシステムを構築したため、未成年でも情報モラルの習得が必要な世の中になっています。映像制作を通じて正しい映像倫理やその意義なども含め正しく情報発信できる力をつける授業を考えていきたい。また、授業となれば「評価」が必要になるため、そういった教育について理解した方々が人材としてはふさわしいと思います。	管理職
19	特にありません	数学
20	時間、人材、予算のいずれも確保できるかどうか	数学

関係者・機関ヒアリング

調査概要 関係者・機関ヒアリング

- ・ 目的 :外部人材の活用及び実証事業に対する関係者の認識の把握
- ・ 調査対象:下表のとおり
- ・ 調査方法:対面またはオンラインによるヒアリング(一部、メールでの聴取)
- ・ 調査期間:令和6年1月～3月

ヒアリング調査対象者

	グループ	対象者(敬称略)	担当授業
1	実証授業実施校の教員	千葉県船橋市金杉台小学校 音楽(5,6年生担任)	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導(音楽)
		千葉県船橋市金杉台小学校 社会(5年生担任)	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ(社会)
		埼玉県川口市立高校附属中学校 総合(授業担当)	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業(総合)
		埼玉県川口市立高校 美術	VR(Virtual Reality)アート制作(美術)
2	実証授業を実施した外部人材	俳優・アーティスト 天寿光希	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』の歌唱指導(音楽)
		日テレアクセスオン ニュース部 長島崇彦、長谷川智彦	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ(社会)
		フリーアナウンサー 千北英倫子	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業(総合)
		日テレアクセスオン クロステック事業部 小原宏文	VR(Virtual Reality)アート制作(美術)
3	特別免許状保有者	私立麗澤中学校・高校 内堀穰(音楽)	
		茨城県立水戸工業高校 鈴木勝(建築)	
		福島県立ふたば未来学園中学高校 高山さなえ(国語)	
4	教育委員会	千葉県教育庁教育振興部教職員課 免許班	
		埼玉県教育局市町村支援部教職員採用課 総務・免許担当	

1.実証授業実施校の教員ヒアリング(授業の感想)

- 外部の専門家を活用する意義が認められている。
 - 専門家・本物・プロならではの指導には説得力がある。
 - 普段はできないこと、教員では教えられないことを教えられる。教育の幅が広がる。
 - キャリア教育につながる。
- 今回の専門家による授業の進め方・指導法については、教員からみても肯定的に評価されている。
- 反省点・課題もあげられているが、授業を否定するものでなく、改善のポイントを指摘するものだった。

授業	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業	VR(Virtual Reality)アート制作
講師	俳優・アーティスト	日テレアクセスオンニュース部	フリーアナウンサー	日テレアクセスオンクロスステック事業部
専門性	<ul style="list-style-type: none"> プロの指導には説得力があった。児童のモチベーションが上がった。心に響いた。 本物の凄さを実感し、将来の夢やキャリアの意識につながった。 自分が教えられないことを教えられるので、教育の幅が広がる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に情報を扱っている人が伝えることで、理解が定着した。 教科書だけでは伝われないニュース作りの大変さが伝わった。 	<ul style="list-style-type: none"> プロに学ぶことができた。 教員では教えられないことを伝えられた。 説得力があり、生徒の深い理解につながった。 仕事の様子が感じられ、キャリア教育としても有意義だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段使えない機器を使って、専門家のもとで制作できた。 さまざまな興味、性格の生徒への対応は専門家ならではの。
授業・指導法	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの歌声に合わせた指導がよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板とプリントの使い方が上手。 実習がよかった。 児童の発表を褒めてもらえてよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ形式で生徒の集中が持続した。 プレゼンテーションの機会が多い本校で実践できる授業だった。 1回限りでなく、数回のシリーズでやれるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 円滑に進めていただき、生徒も満足した。 事後に生徒の作品を見られるようにするなどのフォローがありがたかった。
反省点・課題	<ul style="list-style-type: none"> 担任向けに発声の指導法を伝授していただけるとよかった。 大声を出すための指導をお願いすべきだった。 講師自身の歌声をもっと聞きたかった。 個別指導もあるとよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ニュース制作の現場を伝える動画があるとよかった。 1分間のニュースを作るためにかける人数・時間を教えてほしいかった。 		<ul style="list-style-type: none"> 模試が重なる時期で、生徒が集まり難かった。

1.実証授業実施校の教員ヒアリング(授業の影響・成果)

- 児童生徒に対する影響についても肯定的に評価されている。また、児童・生徒に目に見える影響(成果)もみられている。
 - リテラシー向上(全国テストで高得点)
 - プレゼン能力、伝え方の向上
- 教員にとっても得るもの・メリットがあったとされる。
 - 伝え方、褒め方など指導技術を学んだ。
 - 教科書どおりの指導以外の経験ができた。
 - 負担の軽減(実習による)。

授業	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業	VR(Virtual Reality)アート制作
講師	俳優・アーティスト	日テレアックスオンニュース部	フリーアナウンサー	日テレアックスオンクロステック事業部
児童・生徒への影響	<ul style="list-style-type: none"> • 保護者から感謝された。 	<ul style="list-style-type: none"> • リテラシーが向上した。(全国テストでも高得点) • やってよかったと思う児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 以後の授業でのプレゼンで活用された。 • 普段の話し方、所作、見た目も意識するようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 普段と違う新しい感覚を持てた。
教員への影響		<ul style="list-style-type: none"> • 教科書どおりでないことができ、得るものが多かった。 • 褒め方の勉強になった。 • 取材・作業の間、担任の負担が軽減された。 	<ul style="list-style-type: none"> • 伝える技術など、教員にとっても勉強になった。 	

1.実証授業実施校の教員ヒアリング(外部人材の活用)

- 今回の実証授業の準備においては、担当教員の負担にはならなかったとされるが、校長が調整したこと、放課後の授業としたなど、特殊な事情による。但し、次の点は教員の負担軽減につながっている。
 - 授業のパッケージ化(授業内容、必要なものをセットに)
 - 事前の機材提供(教員の準備時間の確保)
- 今後の外部人材の活用については、事前調整等の教員の負担が心配されており、必ずしも積極的でない。人材のリストとコーディネートの担い手が求められている。
- 外部人材の特別免許状による入職についても積極的でない。専門性の高い人材には、特定の分野の専門家として活躍することが相応しいと考えられている。

授業	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トモロー』	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業	VR(Virtual Reality)アート制作
講師	俳優・アーティスト	日テレアックスオンニュース部	フリーアナウンサー	日テレアックスオンクロステック事業部
今回の負担(事前準備等)	<ul style="list-style-type: none"> • 時間数設定、指導内容は校長が調整。担任は授業時間の調整で大きな負担はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 校長が調整したので負担はなかった。 • 短時間の打ち合わせで完成度の授業ができていた。 • 5コマの授業がパッケージ化され、必要なものが揃っていて、負担が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 大人側の準備(物品購入、担任のやりとり)はあった。 	<ul style="list-style-type: none"> • 日中の授業だと準備時間の確保は課題になるが、今回は放課後の活動としたため、時間がとれた。 • 事前に機材提供いただき、練習する時間があつた。
今後の活用意向	<ul style="list-style-type: none"> • 手間(講師選び、日程、授業内容の相談等)の多さから敬遠する。 • 外部のコーディネーターが人材リストを提示してくれれば活用可能。 	<ul style="list-style-type: none"> • こんなことが出来る人がいるというリストがあるとよい。 • リストやコーディネーターがあれば活用が増えるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 調整ごと、授業内容の検討などは教員の負担になる。 • できることを事前に提示してもらえると負担が減る。 • マネジメントする会社があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 非常勤講師のように、専門分野の人として来ていただけると安心。 • 特別非常勤講師の制度はあまり知られてない。 • 活用を広げるなら、運用を簡便にするのもよい。
特別免許状による入職		<ul style="list-style-type: none"> • 専門家は特定の単元に特化している。その授業のときはありがたいが、常駐して担任を持つのは現実的でない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 中学校では難しい。 • 専門性を持つ方のアドバイスをいただけるのはよい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 担任、学級経営などは専門性が生きなくなる。 • 専門家には専門家として活躍してほしい。 • 学校のニーズによる。映像学科を作るなら、特別免許や特別非常勤講師で対応するしかない。

2.実証授業を実施した外部人材ヒアリング(今回の実証授業について)

- 授業を実施した外部人材も、肯定的な印象を持っている。
 - 児童・生徒が積極的に取り組んでくれた
 - 児童・生徒に接することで、よろこび、やりがいを感じた。
 - 先生方に専門分野について知ってもらえた。
- 反省点もあげられているが、授業を否定するものではない。
 - 子どものレベルを理解できていなかった部分がある。
 - 生徒にとってどこまで役に立ったかは不明。
 - 機器・サポート人員が不足した。
- 専門性や本人ならではの経験を伝えることができたと感じられている。
- 専門家自身も、授業を通じて影響を受けている。
 - 表現者としての幅が広がると感じた。
 - 専門分野と教育との親和性を感じた。

授業	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業	VR(Virtual Reality)アート制作
講師	俳優・アーティスト	日テレアックスオンニュース部	フリーアナウンサー	日テレアックスオンクロスステック事業部
感想	<ul style="list-style-type: none"> • 自分が学んできたことを伝えることが出来て嬉しかった。 • 小学生の心に触れたのは貴重な経験。 	<ul style="list-style-type: none"> • 小学生のニュースへの興味・関心が高いことを知り、やりがいを感じられた。 • 小学生の映像制作スキルの高さ、作業のスピード感に驚かされた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 積極的に授業に取り組んでもらえた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒の自主性に任せたところ、苦労はなかった。 • 先生方にVR機器を知ってもらう機会になった。
反省点・課題			<ul style="list-style-type: none"> • 子どものレベルを理解できてなかった部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒にとってどこまで役に立ったかは不明。 • VR機器とサポートの人員が不足していた。
専門性の発揮	<ul style="list-style-type: none"> • 俳優としての専門性は発揮できなかったが、音楽の世界で活躍する生き方を伝えられた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 専門知識を授業内容やワークショップに落とし込むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 話す技術を伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分のやってきた領域なので、これ以上ないくらい専門性を発揮できた。
自身への影響	<ul style="list-style-type: none"> • 表現者としての自分の幅が広がると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 若手社員に授業させることで、丁寧に教えることの大切さを学べそう。 • 「伝える」と「教える」は近い距離にある気がした。 		<ul style="list-style-type: none"> • 教育を通じて、VRでやれることがあると感じた。

2.実証授業を実施した外部人材ヒアリング(学校で授業することについて)

- 学校で教えることについては、次の特質が認識されている。
 - 授業の内容に興味がない・好きでない児童・生徒も対象であることが特徴であり、難しさや意義が感じられている。
 - 集団指導なので個別対応は難しいが、共通の課題に取り組むことで生徒どうしのやりとりができる。
 - 学校は普段いる場所なのでリラックスできる。一方、授業内容によっては現場に出向くのもよいとされる。

授業	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業	VR(Virtual Reality)アート制作
講師	俳優・アーティスト	日テレアクセスオンニュース部	フリーアナウンサー	日テレアクセスオンクロステック事業部
学校で授業するメリット	<ul style="list-style-type: none"> • 音楽が好きの子ばかりでないので、自分の技量が試される。 	<ul style="list-style-type: none"> • すぐに反応がわかる。 • 普段過ごす場所なので子供がリラックスできる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 興味のない人にも教えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 集団が同じ目標を設定し、生徒どうしがやりとりしながら進めることができた。
学校で授業するデメリット		<ul style="list-style-type: none"> • 知識などレベルがばらばらな対象に教える難しさがある。 • 現場を感じるため、テレビ局などに来てもらってもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 大人数だと個別の対応は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校ごとの機材運用のルールに縛られる。(生徒用タブレットの充電禁止など)

2.実証授業を実施した外部人材ヒアリング(事前準備について)

- 事前講習は次の点で有用だったとされる。
 - 普段接することのない、学校の現状・現場の状況を知ることができた。
 - 子どもとの接し方、授業の仕方、姿勢がわかった。
- 準備段階において、次のような学校側の支援が認識され、謝意が示されている。
 - 授業設計の支援
 - 児童・生徒の状況のインプット
 - 授業と授業の合間での指導
 - 機器の管理

授業	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業	VR(Virtual Reality)アート制作
講師	俳優・アーティスト	日テレアクセスオンニュース部	フリーアナウンサー	日テレアクセスオンクロスステック事業部
事前講習	<ul style="list-style-type: none"> • ためになった。どのような授業をすべきかイメージが湧いた。 • 今まで教育現場の話聞く機会もなかった。 	(他教科向けビデオ視聴のみ) <ul style="list-style-type: none"> • 直接は活かせなかった。 • 子どもとの接し方の参考になった。 	(ビデオ視聴のみ) <ul style="list-style-type: none"> • 自分の学生時代から学校現場が変化していることを知った。 • 「教師の心構え」を観たことで、学ぶことをポジティブに伝えるように意識できた。 	<ul style="list-style-type: none"> • とても役に立った。 • 講義では、不登校問題など、現在の学校の実情がわかった。 • 模擬授業では教員が生徒に対して何を伝えるかを学んだ。
準備段階での学校・教員との関係	<ul style="list-style-type: none"> • サポートを受けたことで、授業設計を含め、自由に楽しく授業できた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 事前打ち合わせで授業内容の追加はあったが、うまく対応できた。 • 児童の理解力などを事前に知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 事前打ち合わせで生徒のレベルがわかった。 • 事前に、先生に質問に答えていただいたことで当日の流れをスムーズにできた。 	<ul style="list-style-type: none"> • 先生方の協力によって実施できた。VR機材の管理、1回目と2回目の授業の間に指導してもらい、スムーズに授業できた。

2.実証授業を実施した外部人材ヒアリング(今後の関与意向について)

- 次のような理由から、いずれの講師も今後も教育に関わっていきたいと考えている。
 - 教育が好きだと認識した。
 - セカンドキャリアとして、社会に貢献したい。
 - 自分のスキルが生かせる。
- 常勤の教員ではなく、単発や非常勤で関与したいとされる。
 - 本業を続けながら、生の情報や現状を伝えるのがよい。
 - 毎回違う内容で授業するのは負担が大きい。
 - 常勤教員はハードルが高い。

授業	卒業式で歌う『レッツ・サーチ・フォー・トゥモロー』	メディアリテラシーとニュース番組の作り方ワークショップ	コミュニケーション及びプレゼンテーションの授業	VR(Virtual Reality)アート制作
講師	俳優・アーティスト	日テレアクセスオンニュース部	フリーアナウンサー	日テレアクセスオンクロスステック事業部
今後の教育への関与	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもに自分の経験を伝えることができ、教育という仕事が好きだと感じた。 • 今後も機会があれば教えに行きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 毎回違う内容での授業は負担が大きい。同じような内容ならやってもよい。 • セカンドキャリアとして社会に貢献できる道があるとありがたい。 • 自分のスキルを活かせる場があると知った。 	<ul style="list-style-type: none"> • 機会があれば関わりたいが、教師として現場に入るイメージはない。 • アナウンサーを続けながら生の情報や現状を伝えるのがよい。両方の軸足が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> • 今後も関わっていきたいが、常勤教員はハードルが高い。単発または月に数回の授業(特別非常勤講師として)の方が可能性が高い。

3.特別免許授与者ヒアリング(教員になるまで)

- 教員を目指すきっかけは国際社会の変化、災害など社会の変化など。次世代に対する教育意欲が高まった。雇用が不安定になった(生活のため)とのケースも。
- 契機は知人からの紹介や依頼など。
- 免許取得までのプロセス(試験、検定)には違いがあり、公立と私立、県による運用の差異が示唆される。

専門(教科)	指揮者・器楽(音楽)	建築(建築)	演劇(国語)
勤務先	私立麗澤高校・中学	茨城県立水戸工業高校	福島県立ふたば未来学園高校
前職・経歴等	海上自衛隊音楽隊 東京芸術大学指揮科へ 国内留学 小学校でソルフェージュ を学んだ経験あり。	建築学科卒 住宅メーカー勤務 一級建築士(監理技術者)	学生時代から劇団で20年 以上活動(演出) 学生時代に教職課程を履 修したが教員免許取得に は至らず。
教員を目指すきっかけ	東西冷戦下、国境や思想を越えて共演する姿に感動。ベルリンの壁崩壊でも音楽の力を感じた。音楽を次世代に伝える仕事をしたいと思うようになった。	災害被災地での建設。被災地での生活再建の経験から社会貢献への熱意が高まった。 若い世代の成長を支援したいとの意欲が湧き上がった。	劇団での雇用が不安定だった。
契機	麗澤中学・高校でのイベントで吹奏楽部の指揮を依頼されたこと、	教育関係の叔父からの影響や助言。	劇団関係者から、特別免許状での教員募集の情報を知った。
免許取得まで	検定は専門家複数名による面接 2名の推薦者が必要 高校の恩師と自衛隊の上司に依頼した。	一般的な教員採用試験(教職教養及び一般教養、集団討論、個人面接、小論文)合格 その後、特別免許試験	選考は小論文、面接3回 事前に演劇教育に関する本を何冊も読んだ。

3.特別免許授与者ヒアリング(教員として入職後)

- ・ 勤務先では、行事、生徒や教育問題への取り組みなど、普通の教員と同様に取り組んでいる。「芸術(演劇)とは違う世界に来た」とも。
- ・ 専門知識は、主に過去に身に付けた知識が伝授されており、新たな知識の獲得には言及がなかった。
- ・ 部活動や専門教育においては専門性が発揮されているが、一般の授業では興味のない生徒への配慮からバランスをとったり、授業の一部に取り入れる程度。
- ・ 将来、特別免許取得を目指す人へのアドバイスの方向性はさまざま。
 - ・ より良い世界づくりを期待
 - ・ 演劇の地位向上を期待
 - ・ よりよい教育者としての成長を期待

専門(教科)	指揮者・器楽(音楽)	建築(建築)	演劇(国語)
勤務先	私立麗澤高校・中学	茨城県立水戸工業高校	福島県立ふたば未来学園高校
教員としての取り組み		生徒の精神的問題や学習の困難さ、教育格差などの問題に直面。教員として真摯に向き合っている。	行事等、学校の1年間の流れをつかむために毎日が勉強。演劇とは違う世界に来た印象。
専門知識の活用	吹奏楽部顧問として音楽好きの生徒を伸ばし、指揮者舞台監督などを排出。 一方、音楽に興味のない生徒にも興味を持ってもらえるようにバランスをとって授業を行う。	建築業界で身に付けた、プロジェクト管理、コミュニケーション、設計思考や実践的な知識を提供。 将来、建築業界で活躍するための準備を充実させている。	国語の授業に戯曲の書き方を指導・課題に取り入れ、生徒に喜んでもらった。
特別免許取得を目指す人へのアドバイス	音楽の世界での活躍は自分の力だけでなく、多くの方との関わりの中で成し遂げられることだと伝えなければならない。 音楽は暴力に訴えなくても人の心を動かすもの。 次世代、さらに次の世代と伝えることで、世界がより良い方向に向かうと信じている。	経験や知識は教育現場でのアドバンテージになる。 教育関連の知識やスキルを向上させるための学びが必要。教育の最新トレンドや教育法の理解を深めることでより良い教育者として成長できる。	日本における演劇の地位向上のため、演劇関係者の教育現場での活躍を望む。

教育委員会ヒアリング

特別免許状・特別非常勤講師制度

- 特別免許状は担当教科の領域全てを教えられることが前提。特別非常勤講師は担当教科の一部のみ。
 - 特別免許状は検定試験後に授与され、担当教科の領域すべてを教えられることを前提に正規教員として採用される。(クラス担任としての仕事も加わる)(千葉県)
 - 特別非常勤講師は担当教科の領域の一部のみ単独で授業を行うことが認められているだけ。(千葉県)
- 特別非常勤講師制度は市町村まで浸透していない可能性がある。
 - (本事業での授業実施にあたり、学校からの届出が市から県に届けられなかったことについて)特別非常勤講師は、届け出があればすぐに受理される。しかし、市教委側で年度初期以外に届け出を行わないものとしている可能性はある。市教委側が何か勘違いをしている可能性が高い。
 - 特別非常勤講師の方は出来て間もないので、まだまだ学校現場や市町村教委レベルには浸透していない可能性もある。(千葉県)
- 人材のマッチングが課題、人材を紹介する仕組みがあればこの制度が活性化する
 - 立特別非常勤講師制度でいちばん苦勞するのが、希望する人材とのマッチングであり、学校側が求める人材を速やかに紹介できる仕組みがあれば、この制度が活性化すると思う。(千葉県)

アーティスト人材の入職

- 公立学校では「検定」があり、アーティストの特別免許状での入職は狭き門。
 - 私立学校であれば、定型に従った申請があれば授与を行うが、公立学校では、「検定」に通らないと授与されない。検定を受けるには最低1学期間以上の授業を行うか、教科に関する専門的な実務経験3年以上が求められ、しかも本採用職員として任命または雇用される予定の者しか受けられない。これに専門領域毎の有識者による審査が加わるため、検定を行える教科も限られてくる。このため必ずしも自分の教科の検定が年に二回行われるとは限らないので、公学校への特別免許状授与後に入職となると狭き門となる。(埼玉県)
- 過去にアーティストの特別免許状の検定はおこなわれていない。
 - アーティストでの検定は(当県では)過去に行われていない。(埼玉県)
- アーティストは特別非常勤講師として授業の一部を担うのが妥当。
 - アーティスト人材で考えた場合、例えば書道家に授業を受け持ってもらうにしても国語の書写の授業など一部分、ミュージカル俳優に歌唱指導を行って貰うとしても音楽の授業の一部(楽器の演奏なども出来なれば)のみしか実施できないため、特別非常勤講師として入職して頂くのが妥当だと考える。(千葉県)
 - 今後、特別非常勤講師として継続して勤務する人の拡大などで裾野を広げていくしかないと思う。(埼玉県)

結果と提言

アンケート・ヒアリング調査結果要約

- 外部人材による授業の有効性
 - 今回の実証授業は児童・生徒にとって理解可能で、満足度の高いものであり、指導内容も身に付いている。(児童・生徒アンケート)
 - 学校の現状、注意事項などの必要事項を事前講習することで、外部人材でも安心して適切な指導ができる。(外部人材ヒアリング)
 - 外部人材による授業は教員にとっても有用。プロの「すごさ」や現場の実情が伝わり、普段できない体験ができたと評価されている。(教員アンケート・ヒアリング)
 - 授業を行った専門家や担当教員にとっても学ぶものがあったとされており、今回の実証授業は関係者すべてにとって有用であったと評価できる。(教員ヒアリング・外部人材ヒアリング)
- 教育現場での活用意向
 - 教員は、一般論としては外部人材を活用すべきと考えている。(教員アンケート)
 - 授業以外にも、クラブ活動の指導やキャリア教育での活用も期待されている。今回の実証授業では教員自身の学びにもつながったとされる。(教員アンケート・ヒアリング)
 - しかし、時間や労力などの負担があることから、自分自身が活用することには必ずしも積極的ではない。これは、今回の実証授業を経験し、有効だったと評価する教員においても同様であった。(教員アンケート・ヒアリング)
 - 負荷軽減の観点から、事前調整を担うコーディネータや専門家の人材リスト(何ができるか記載されていて、教員が選べる)などが求められる。また、今回の実証授業では授業のパッケージ化(授業内容と必要なもののセット)、機材等の事前提供など教員側の準備時間の確保によって、担当教員の負担が軽減されたと感じられている。(教員ヒアリング)
- 外部人材の活用方法
 - 教員は、芸術分野の専門人材の活用形態として、非常勤や単発での活用を志向している。活用したい業務はクラブ活動の指導と授業。(教員アンケート・教員ヒアリング)
 - 現役の専門家も非常勤や単発での関与を求めており、特別非常勤講師制度に馴染む。(外部人材ヒアリング)
 - 特別教員免状での入職は教員に軸足を置く人向け。現役の専門家としての活動との両立は難しいと考えられている。(教員ヒアリング・外部人材ヒアリング)
 - 映像制作の分野では、コミュニケーション、情報リテラシー・コンプライアンスのニーズが高い。(教員アンケート)
- 特別免許状、特別非常勤講師制度の運用
 - 教員には、制度の存在までしか知られてない。(教員アンケート)
 - 県・市町村での運用も定着していない(誤解がある)可能性が示唆される。(教育委員会ヒアリング)
 - アーティスト人材にとって特別免許状取得は狭き門。(教育委員会ヒアリング)

提言

- 外部人材の専門性を発揮する授業
 - 専門性を発揮し、プロの「すごさ」や現場の実情を伝える指導が期待される。学校の現状、注意事項などの必要事項を事前講習することで、外部人材でも安心して適切な指導ができる。
- 幅広い業務での活用
 - クラブ活動、進路指導、教員の学びの機会など、授業以外での活用も検討。
- 調整・準備の負荷軽減
 - 外部人材の活用に伴う教員の負担を軽減する。例として、次のような方策の有効性が示唆される。
 - 人材リスト
 - コーディネーター(日程調整、授業内容のすり合わせの担い手)
 - 授業のパッケージ化(授業内容と必要なもののセット)
 - 機材等の事前提供など、教員側の準備時間の確保 など
- アーティスト人材に相応しい人材活用
 - 現役アーティストは非常勤、単発での授業が期待されており、特別非常勤講師としての運用が現実的。プロとしての活動に軸足を置きながら、専門家として教育に関与することが期待される。
 - 常勤教員としての活用は、アーティスト人材のセカンドキャリアとして。現役を離れた後に、教員として次世代を育成。
- 映像に関する専門家の活用
 - 情報リテラシー、コミュニケーションの授業ニーズがある。特に、コミュニケーションは生涯活用できる。但し、学習指導要領を踏まえた授業とする。
- 制度の運用
 - 制度の認知拡大と正しい運用方法の浸透(都道府県と市町村の共通理解)が必要。

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託業務として、株式会社日テレアックスオンが実施した令和5年度「学校教育における外部人材活用事業」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。